

# 令和4年度通常総会

(資料)

- 議 事
- 第1号議案 令和3年度事業報告(案)承認の件 < P2 >
  - 第2号議案 令和3年度決算報告(案)承認の件 < P31 >  
(報告事項)
  - 1. 令和4年度事業計画及び収支予算の件 < P47 >
  - 2. その他

日 時 令和4年6月18日(土曜日)午後2時より

会 場 アルカディア市ヶ谷(私学会館)

〒102-0073 東京都千代田区九段北4-2-25 電話 03-3261-9921

公益社団法人 日本山岳会

# 第1号議案 令和3年度事業報告（案） 承認の件

## 要旨

令和3年度は、昨年度に続き新型コロナウイルスが感染拡大し、行動が制限されることも多かった。しかし前年度に比べて、より効果的であり合理的な感染防止対策を行なえるようになったり、感染状況が比較的落ち着いている時期に、活動を再開できるようにもなった。いわゆる「with コロナ」のなかで、どのように会の運営、登山活動を継続していくかという視点、展望が問われる年でもあった。

本会の事務局、ルーム、図書室の開室、および上高地の山岳研究所の利用については、感染状況に併せて時間や人数、利用方法を制限した。人数や利用方法は、コロナ以前に戻すことはできない。とくに使用人数が限られる点については、利用に大きな制限がかかるため、今後よりよいルームの活用法を検討していく必要がある。

職員の勤務時間を減らした時期は、雇用調整助成金を用いたが、令和4年1月より勤務体制は正常に戻った。

通常総会や支部連絡会議、評議員懇談会はオンラインで開催。理事会や常務理事会もオンライン、またはオンラインと面会のデュアルで実施した。オンラインの不便さも言われているが、遠方の会員や時間調整が難しい場合など、オンラインであるがゆえに出席できるケースも多く、全体的には出席率が高まるという利点もあった。

本会の活動、支部や委員会の活動については、大規模イベントや密を避けられない内容のもの、感染拡大時期のものは取りやめとなった。一方で、感染予防対策を講じながら、少人数・小規模のスタイルに変更したり、時期を変えて開催できたものもある。しかしながら、一般公開の登山教室や講習会の機会が減ったことは、入会者数の減少にも直結した。

一方で昨年に続き、オンラインによる講演会や講習会、会議が増え、活動の幅が広がった点もある。とくに、令和3年度は一昨年度に続き晩餐会が中止となったが、晩餐会ウィークと称して8日間にわたり、9件のウェビナーを開催した。うち1本は陣馬山登山のようすを撮影し動画サイトに載せた。ほかの8件は、ウェビナーの形をとり、会員は元より会員外にも広く視聴してもらえるものとし、後日、動画サイトに載せた。内容は、先鋭的登山を推し進めるものから、山岳信仰、山岳古道といった登山の文化的側面に触れたもの、with コロナの登山のこれまでと展望と多岐に渡った。また支部の活動紹介の回も設けた。晩餐会は、全国各地の会員が一堂に集い、交流を深める場でもある。その点を考えるとオンラインの限界もあるが、今後これまでのような形態での晩餐会が再開できるのか問われるなかで、ひとつの試みであったと考えている。また、YOUTH CLUB 委員会のウェビナー「語りの場～山・ヒト・文化をつなぐ」もスタートした。先輩会員を招いて、これまでの登山を幅広く語ってもらい、その行為や考えを次世代に繋ぐという意図だ。オンラインゆえ全国から参加でき、それがYOUTH CLUB 委員会の各支部との交流にも発展している。

秩父宮記念山岳記念賞は、時枝務氏、大森弘一郎氏の二名に授賞。海外登山助成は、日本山岳会東海支部カンチンナップ北壁隊に助成をした。ともに令和2年度は受賞者、助成対象がなかったが、今年は受賞者、助成対象があり、コロナであっても登山が再開され、活気づいてきたことを象徴しているようで喜ばしいことであった。

## I 登山振興事業について

令和3年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、中止や延期となった事業、開催規模の縮小や内容が変更となった事業も多い。こと、海外へ渡航が制限されるなか、海外登山については延期せざるを得なかった。とくに大きな影響を受けたのは、障がい者支援登山や家族登山などであり、120周年記念事業のエクアドル交流登山、グレート・ヒマラヤ・トラバース、ヒマラヤキャンプは延期となった。一方で、令和2年度と比べると、規模や内容の縮小、開催時期を選ぶことによって再開できた事業も多い。今後、感染状況を鑑みながらより充実した活動を行なうためには行動となるため、with コロナで登山を楽しむ、活動を広げる知恵や工夫はより必要となってくるだろう。

120周年記念事業については、一昨年度延期となっていた「エベレスト登頂50周年記念フォーラム」は、4月に無事、兵庫県豊岡市で開催された。「山の天気ライブ事業」も再開された。

全国山岳古道調査は、オンラインでの各支部との会議を多用しながら、山岳古道120の選定と探索・調査がはじまり、その成果をホームページに掲載している。本プロジェクトは、全支部、全会員を対象とした120周年記念事業を代表する大規模なプロジェクトである。歴史や文化を掘り起こして地域に貢献するだけでなく、本会の活性化や各地域の行政や諸団体、市民たちとの連携が期待されている。

## II 山岳研究調査事業について

長野県上高地にある上高地山岳研究所は山岳研究の基地として、登山活動の支援、安全登山の啓発、小規模水力発電設備等を実施。

福島第一原子力発電所事故の影響把握を目的として、福島支部が行なっている山岳地域の放射線量調査は、コロナの影響で規模は縮小されたが、活動は継続されている。

## III 山岳環境保全事業について

本会では全国10か所以上で、行政とも協力して森づくり活動、希少植物の保護活動や巡視活動、食害の防護や調査などの山岳環境保全保護活動などを展開している。令和3年度はコロナの影響で活動の自粛や回数の減少もあったが、感染状況を鑑みながら活動を再開したところ、継続しているところも多い。

# 事業報告

## I 登山振興事業（公益目的事業 1）

### 1 秩父宮記念山岳賞

定款第 4 条第 1 項第 9 号

秩父宮記念山岳賞は、秩父宮家より拝受した遺贈金を基金として積立て、山に関する顕著な業績に対してこれを表彰し、もって登山活動の奨励と山岳文化の高揚に資することを目的としている。秩父宮記念山岳賞審査委員会の審査により、次の 2 名の授賞が決定した。時枝務氏（立正大学文学部教授、同大博物館長）「山岳遺跡の考古学的研究」、大森弘一郎氏（日本山岳会会員、元常務理事）「日本アルプスおよびヒマラヤでの空中写真撮影による登山活動と山岳科学への貢献」。

### 2 海外登山助成制度による助成

定款第 4 条第 1 項第 6 号

海外登山助成金は、海外登山の振興を図ることを目的に、会の内外を問わず、海外登山を計画する個人・団体に助成を行なっている。平成元年（1989 年）に創設され、経験豊富な審査委員による厳格な審査を通して、毎年、意欲的な登山隊に交付が行なわれてきた。

令和 3 年度は海外登山助成委員会の審査により、次の 1 隊を助成対象と決定した。

日本山岳会東海支部カンチェンナップ北壁隊（山田利行・谷剛士）。

### 3 機関誌「山岳」発行事業

定款第 4 条第 1 項第 7 号及び第 8 号

「山岳」は明治 39 年（1906 年）に発刊され、現在まで 115 年にわたり、登山、探検、地理・地質、気象、自然保護、人物史及び図書紹介などの記録、研究・論考などを掲載しており、会員のみならず、多くの図書館、山岳博物館、登山愛好家、山岳環境保全などに関心を寄せる読者に読み継がれてきた歴史がある。海外の山岳会や山岳関係者にも配付されており、貴重な情報源として高い評価を得ている。令和 3 年度は、第 116 年・2021 年を発行。巻頭は全国の支部が取り組み中である全国古道調査と、with コロナの登山について。

### 4 安全登山の推進事業

定款第 4 条第 1 項第 4 号及び第 6 号、第 8 号

コロナの影響で、事業が中止もしくは延期となったものもあるが、小規模・小人数、内容の変更によって再開したものも多い。

登山道整備など一般者が介在しないものは、比較的計画通りに行なわれていた。

「雪山天気予報」は、北アルプス北部及び南部、八ヶ岳の 3 地域における冬山、春山の天気予報を、山岳専門の気象予報士に依頼して、一般に無料でメール配信する事業である。山を熟知した気象予報士による的確な情報に加え、電子メールであるため、登山中でも情報が得やすく、配信数は 3,000 件以上になる。令和 3 年度は、通常通りの配信を行なった。

### 5 インターネットによる情報提供事業

定款第 4 条第 1 項第 9 号

本部のデジタルメディア委員会によって管理運営される日本山岳会のホームページを中心として、インターネットによる情報発信を一般及び会員に対して行なっている。当会の事業・イベントなどの情報発信、他の山岳団体や山岳関連の情報発信がおもなものだが、令和 3 年度はとくに当サイトのコロナ関連情報へ

の関心が高まった。また、晩餐会ウィークのウェビナーを YouTube に公開、過去の当会ヒマラヤ遠征のフィルムの公開なども行なった。

6 登山文化の普及事業 定款第 4 条第 1 項第 1 号及び第 9 号

令和 2 年度に中止となった「山の日」記念全国大会は、令和 3 年度は第 5 回「山の日」記念全国大会として大分県にて開催された。一方で、全国支部懇談会をはじめ、コロナの影響を受け延期もしくは中止となった事業もある。例年行なわれている「全国山岳博物館等連絡会議」もオンラインでの開催となった。

7 地域社会および地域文化の維持発展 定款第 4 条第 1 項第 1 号

日本山岳会では、地域の山岳文化の継承のため、碑前祭や記念祭などを例年行なっている。令和 2 年度はほとんどが中止となったが、令和 3 年度は再開したものもある。山梨支部が関わる（一部主催）「深田祭」、「田部祭」、「木暮祭」は開催された。「ウェストン祭」は規模を縮小して開催した。

8 120 周年記念事業 定款第 4 条第 1 項第 1 号及び第 4 号、第 6 号、第 8 号、第 9 号

令和 7 年（2025 年）の日本山岳会 120 周年に向けて、現在 7 つのプロジェクトが進行中である。

(1) エベレスト登頂記念 50 周年記念プロジェクト

令和 2 年度に延期となった「エベレスト登頂 50 周年記念フォーラム」を 4 月に兵庫県豊岡市で開催。同時に、写真展も開催した。

(2) 山の天気ライブ事業

令和 2 年度は休止していた山の天気ライブ事業が再開された。支部が管轄して、講師の猪熊隆之会員を招き、山岳地域の天気予報や観天望気について学ぶ機会として、貴重な役目を果たしている。

(3) 所蔵図書・資料のデジタル化

デジタルメディア委員会を中心となり、本会所蔵の図書・資料をデジタル化して公開している。今年度は、当会が所蔵する約 400 本の映像のうち、当会に著作権のある 3 本を YouTube チャンネルに載せて一般公開した。また、今後の所蔵図書や資料のデジタル化に向けて、準備を重ねている。

(4) 全国山岳古道調査

全国の支部に呼びかけ、全国の山岳古道を調査探索する。120 の道を選び、その成果を web や本などで発表するための準備として、全国の支部と会議を重ね、調査を始めている。

(5) グレート・ヒマラヤ・トラバース、ヒマラヤキャンプ

ネパール現地での活動を延期し、再開に向けて国内での準備や登山を行なった。

## II 山岳研究調査事業（公益目的事業 2）

1 上高地山岳研究所 定款第 4 条第 1 項第 5 号

日本の代表的山岳地帯である北アルプスの上高地において、登山活動や自然保護の啓発活動の支援、小規模水力発電の研究を行ない、さらに遭難防止対策などのために気候変動や野生動物の定点調査を行なっている。取得したデータの一部は当会のホームページでも公開している。

2 小規模水力発電の研究 定款第 4 条第 1 項第 5 号

山岳地帯における環境保全に貢献するため、神奈川工科大学と共同で日本山岳会上高地山岳研究所敷地

内に水力発電機及び付帯設備を設置し、近くの沢の水を利用した小規模な水力発電を行なって研究を続けている。

3 山岳図書館の運営事業 定款第4条第1項第8号

本部の図書館は国内では数少ない山岳の専門図書館である。日本国内外の山岳に関する多分野の書籍、雑誌あるいは地図や報告書などを幅広く蒐集している。蔵書（和書約 13,000 冊、洋書約 4,000 冊）は開架式になっており、手に取って閲覧できることも魅力のひとつとなっている。新刊書（和書）は、基本的に著者・出版社からの寄贈である。コロナの影響を受け始めた令和2年度と比べると、利用者数は僅かながら増加した。

4 資料映像研究 定款第4条第1項第2号

本会発足以来 100 年以上にわたって蒐集してきた山岳や登山に関する研究資料、絵画・映像などを研究調査し、あわせて収蔵資料の公開などを行なっている。

5 山岳地域の空間放射線測定 定款第4条第1項第5号

福島第一原子力発電所事故の影響把握を目的として、一般には調査困難である山岳地域の放射線量を福島支部で測定している。コロナの影響で例年のように測定できなかったが、規模を縮小して継続している。

### Ⅲ 山岳環境保全事業（公益目的事業3）

1 森づくり活動 定款第4条第1項第5号

本会では「高尾の森づくりの会」、東海支部の「猿投の森づくりの会」をはじめ、全国 10 か所以上で森づくりを展開している。伐採作業や植林などによる森の育成だけではなく、青少年に対する自然教育や市民への啓発活動なども行ない、行政とも協力して森林の優れた機能を持続するための森林整備事業を行なっている。昨年度に続き、コロナの影響で活動を自粛したところもあるが、規模を縮小して活動を再開しているところもある。

2 山岳環境の保全保護活動 定款第4条第1項第5号

山地を活動のフィールドとする本会にとっては、山岳地域の環境保全保護は課題のひとつである。自然保護委員会による自然保護全国集会をはじめ、北海道支部や岐阜支部、北九州支部などでの山岳パトロール、東京多摩支部などによる稀少植物の保護活動、あるいはシカなどによる食害への対応、清掃登山やトイレ整備、生物多様性をめざす生態系の再生事業など、多様な活動が行なわれている。

3 自然保護の啓発活動 定款第4条第1項第5号

自然に親しみ、保護活動に興味を持ってもらうため、全国の支部では啓発活動を行なっている。とくに植物などを見学する自然観察会は全国で幅広く行なわれており人気も高い。コロナの影響により実施回数は減っているが、開催形態やタイミングを考え、活動を再開している。

### Ⅳ 会員向け事業

会員を対象とした会員のための事業としては、概ね下記の事業を実施した。

- 1 会員を対象に山行を行なう。
- 2 会員を対象に安全登山に取り組む。
- 3 会員を対象に文化活動や自然保護活動を推進する。
- 4 会員もしくは支部相互の交流および懇親を行なう。
- 5 総会、周年事業、会議などを行なう。
- 6 会報「山」を発行する。
- 7 会員向けにメールマガジンやホームページなどでの情報発信を行ない、各支部では支部員向けに支部報や支部独自のホームページでの情報発信を行なう。
- 8 会員向け山岳傷害保険の斡旋を行なう。
- 9 会員向けに遭難防止のための講習会を実施し、登山計画書の提出を啓発する。
- 10 会員向けに上高地山岳研究所を研究基地として開放する。
- 11 入会検討者への説明会の開催、新入会員オリエンテーションを開催する。
- 12 会員向けに日本山岳会ロゴ入りグッズの頒布を行なう。

## V 法人管理

### 1 業務執行体制

法人の業務執行決定機関である理事会が本会を運営し、公益社団法人として実施する各事業がコンプライアンスおよびガバナンスに則っているか管理している。具体的には、財務管理は、財務担当常務理事の下に財務委員会で行なわれ、総会・理事会等の会議運営管理、議事録等の管理などは総務担当常務理事の下に事務局などで行なわれている。また、定款や諸規則・規程の整備などは公益法人運営委員会が担当している。令和2年度においては、新入会員の初年度の月割り会費および記載について、定款施行細則の第3条第2項及び3項を改定した。

#### (1) 財政基盤の確立

本会が安定した財務基盤を確立するためには、会費収入、寄附収入、事業収入がともに拡充し、維持されることが必須である。しかしここ10年以上の会費収入の減少によって、通常業務の維持が困難になりつつある。この状況を打破すべく、会員増強や支部活性化のための様々な対策が講じられてきた。とくに全国の支部で行なわれている登山教室や講習会は会員獲得に有効で、多くの受講生が入会してきた。

令和3年度もコロナの影響で、YOUTH CLUBが行なっていた登山講習会をはじめ、全国の登山教室などが中止、または規模縮小となったため、令和4年度は入会者が減ることが予想される。加えて、会の多数を高齢者が占めているため退会者および会費免除の永年会員が増加し、会の財政状況は依然として悪化している。平成28年度（2016年度）から準会員制度を導入するなどの施策を講じてきたが、成果は上がっていない。そのため永年会員への寄附の依頼など、寄附の拡充を検討している。

#### (2) リスクマネジメントの確立

社会及び経済環境の変化が著しい近年にあって、コロナウイルスの感染拡大はさらに環境の変化を加速させた。本会が安定した運営を維持するためには、リスクを許容し、将来発生するであろう潜在的に抱えるリスクを把握し、そのリスクに適切な対応を行なうことが必要である。

そのため、理事会および公益法人運営委員会を中心に、公募登山における旅行業法の啓発や保険の充実などを行ない、令和2年度は4月1日から「個人情報保護規程」を制定実施し、あわせて「個人情報

に関する方針（プライバシーポリシー）」などを公表した。また、広報準備委員会を発足させ、ソーシャルメディア時代における的確な危機管理や情報発信を図っている。

### (3) 本会の将来に向けての改革

本会の会員は、公益活動に取り組むと共に、当会でのクラブライフを謳歌している。山好きの仲間が集い登山活動や会務での活動、ボランティア活動などに日夜励んでいる。しかし近年、情報化の進展に伴って本会を取り巻く社会的環境が変化し、また会員の意識も変化している。長期にわたるコロナの感染状態は、さらなる変化をもたらすと考えられる。こうした変化により適切に対応し、会を継続させ、また会を円滑に運営するために、改革事業推進委員会による議論を再開した。コロナ下であるため、常務理事会メンバーに支部などから委員を加えオンラインで行なった。

### (4) 会員の情報共有の促進

コロナの影響で、理事会や通常総会、支部合同会議、支部連絡会議、山岳古道会議、委員会などの多くの会議をオンラインで開催した。遠方からの参加になる支部への負担が大幅に減少したという利点もある。また、動画サイトなどを積極的に利用したため、全会員が閲覧できることとなり、新たに会員の情報共有機会が大きく前進した。

## 2 寄附金募集について

平成24年（2012年）4月に公益社団法人に移行して以降、本会への寄附は増加傾向にあったものの、令和3年度は減少した。これまでに税額控除対象法人としての証明を取得し、紺綬褒章の授与申請を行なう法人として内閣府から認定を受けている。

また、高尾の森づくりの会などには、例年通り多額の寄附が寄せられた。

## 3 事務処理の効率化

事務処理の増大に対応するため、会員管理システムの更新や本会会費納入などのオンライン化を推進し、事務処理の効率化を図っている。

## 4 会議等

通常総会の開催	1回	理事会の開催	11回	常務理事会の開催	12回
支部連絡会議	2回	評議員懇談会	2回		

## 5 会員動向

令和3年度の本会の正会員数は4377名、準会員を含め4627名となった。約150名の減少である。一時期減少率は下がっていたが、ここ4年は94名～155名の減少が続いている。また、令和3年度は前年度と比べて、減少数が増加した。令和3年度の入会者数は、正会員148名、準会員64名であり、昨年よりも増加したものの依然退会者数が入会者数を上回っている状態が続いている。高齢化による退会者の増加が目立ち、加えて令和4年度はコロナの影響で入会者数が減り退会者数がさらに増えることが懸念されている。本会を維持していくためには会員数の維持が不可欠であるが厳しい状況である。早急の対応が求められている。

※令和元年度入会者数＝正会員131名、準会員89名

令和2年度入会者数＝正会員133名、準会員55名

会員の内訳

名誉会員	4名	(対前年末 - 1名)
永年会員	458名	(対前年末 - 2名)
終身会員	18名	(対前年末 - 3名)
通常会員	3645名	(対前年末 - 121名)
青年会員	50名	(対前年末 - 2名)
家族会員	128名	(対前年末 - 4名)
団体会員	74名	(対前年末 - 3名)
計	4377名	(対前年末 - 137名)
準会員	250名	(対前年末 - 22名)

※ 3名は名誉永年会  
 ※うち2名は家族永年会員

正会員と永年会員の推移

	年度末会員数	対前年会員増減数	永年会員数
平成 21 年 (2009 年) 度	5184 名		240 名
平成 22 年 (2010 年) 度	5109 名	- 75 名	257 名
平成 23 年 (2011 年) 度	5056 名	- 53 名	284 名
平成 24 年 (2012 年) 度	5083 名	+ 27 名	299 名
平成 25 年 (2013 年) 度	5056 名	- 27 名	326 名
平成 26 年 (2014 年) 度	5036 名	- 20 名	347 名
平成 27 年 (2015 年) 度	5020 名	- 16 名	369 名
平成 28 年 (2016 年) 度	4983 名	- 37 名	389 名
平成 29 年 (2017 年) 度	4889 名	- 94 名	391 名
平成 30 年 (2018 年) 度	4770 名	- 119 名	417 名
令和 元 年 (2019 年) 度	4618 名	- 152 名	438 名
令和 2 年 (2020 年) 度	4514 名	- 104 名	460 名
令和 3 年 (2021 年) 度	4377 名	- 137 名	458 名

準会員の推移

	年度末準会員数	対前年準会員増減数	正会員+準会員数 (対前年数)
平成 28 年 (2016 年) 度	34 名		5017 名 ( - 3 名)
平成 29 年 (2017 年) 度	124 名	+ 90 名	5013 名 ( - 4 名)
平成 30 年 (2018 年) 度	215 名	+ 91 名	4985 名 ( - 28 名)
令和 元 年 (2019 年) 度	264 名	+ 49 名	4882 名 ( - 103 名)
令和 2 年 (2020 年) 度	272 名	+ 8 名	4786 名 ( - 96 名)
令和 3 年 (2021 年) 度	250 名	- 22 名	4627 名 ( - 159 名)

6 令和4年度役員・支部概要及び組織図

令和4年3月31日現在

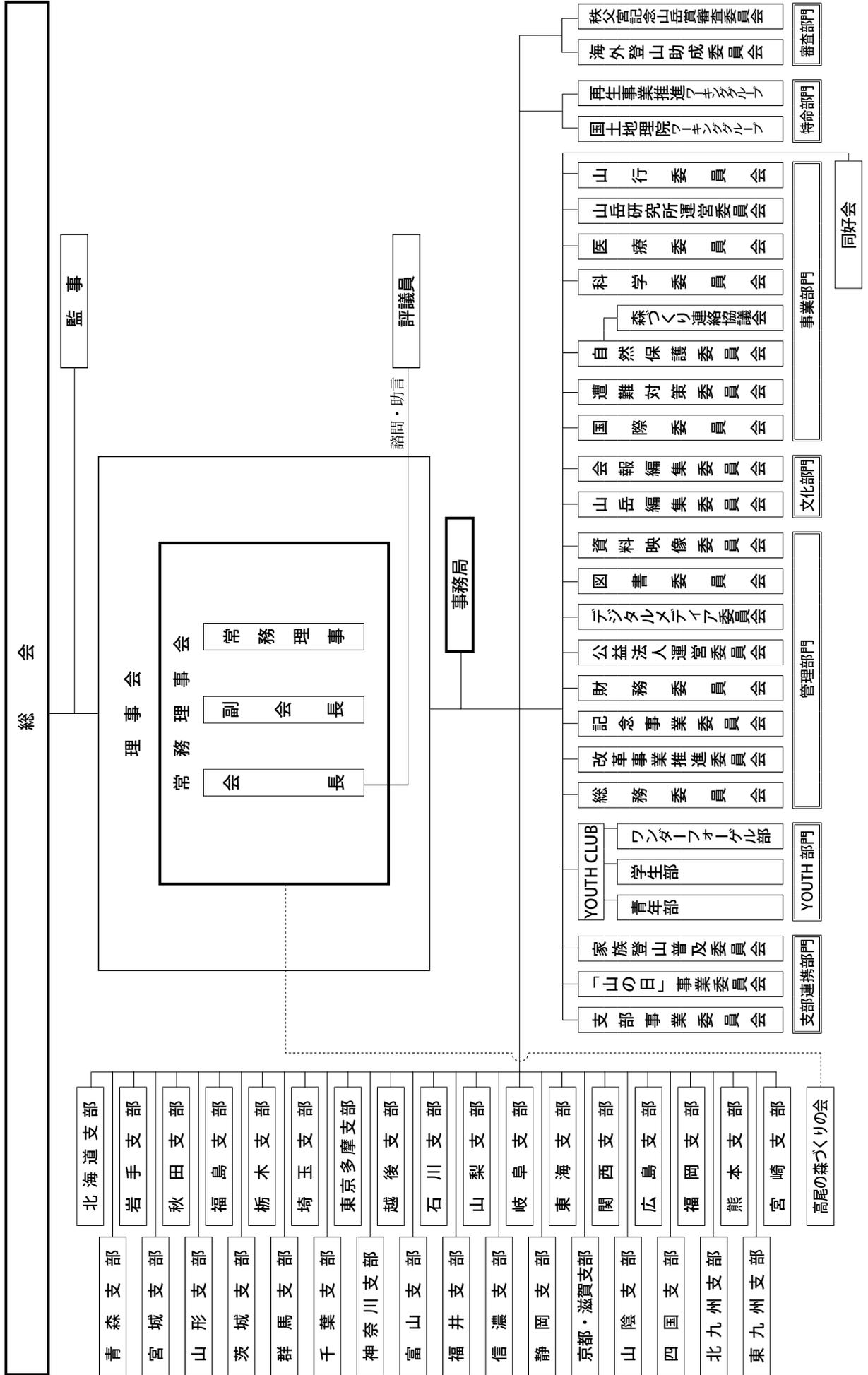
役員（理事・監事）

役名	氏名	役名	氏名	役名	氏名
会長	古野 淳	常務理事	萩原 浩司	理事	久保田賢次
副会長	山本 宗彦	理事	飯田 邦幸	理事	川瀬 憲一
副会長	坂井 広志	理事	清水 義浩	理事	長島 泰博
副会長	橋本しをり	理事	松原 尚之	監事	黒川 恵
常務理事	柏 澄子	理事	松田 宏也	監事	佐野 忠則
常務理事	南久松宏光	理事	平川陽一郎		

支部概要

支部名	支部長名	支部員数	準会員数	支部名	支部長名	支部員数	準会員数
北海道	藤木 俊三	156	5	山 梨	北原 孝浩	63	9
青 森	須々田秀美	40	0	信 濃	米倉 逸生	121	0
岩 手	阿部 陽子	64	4	岐 阜	高木 基揚	85	0
宮 城	千石 信夫	34	2	静 岡	中村 博和	123	10
秋 田	鈴木 裕子	45	0	東 海	高橋 玲司	349	0
山 形	鈴木 理夫	42	1	京都・滋賀	松下 征文	131	2
福 島	佐藤 一夫	53	0	関 西	茂木 完治	216	7
茨 城	浅野 勝己	27	0	山 陰	白根 一	35	0
栃 木	渡邊 雄二	45	0	広 島	森戸 隆男	122	20
群 馬	根井 康雄	53	7	四 国	尾野 益大	81	0
埼 玉	大山 光一	127	24	福 岡	浦 一美	58	1
千 葉	松田 宏也	93	0	北九州	日向 祥剛	57	2
東京多摩	野口いづみ	229	61	熊 本	中林 暉幸	39	0
神奈川	込田 伸夫	135	3	東九州	安東 桂三	80	7
越 後	桐生 恒治	161	4	宮 崎	荒武 八起	43	0
富 山	鍛治 哲郎	62	0	首都圏		929	27
石 川	樽矢 導章	43	0	無所属		382	50
福 井	森田 信人	47	3	海外		6	1
				合計		4377	250

# 公益社団法人 日本山岳会 組織図



【凡例】公益認定事業のカテゴリー

【公1】 登山振興事業

事業名	＜定款項目＞	該当する項目例
1 秩父宮記念山岳賞	＜定款第4条第1項第9号＞	秩父宮記念山岳賞
2 海外登山助成金による助成	＜定款第4条第1項第6号＞	海外登山助成
3 機関誌「山岳」発行事業	＜定款第4条第1項第7号及び第8号＞	機関誌「山岳」発行
4 安全登山の推進事業	＜定款第4条第1項第4号及び第6号、第8号＞	雪山天気予報配信、登山教室・登山講習会・講演会、指導者養成講習会、山岳パトロール、登山道の整備、若手登山者の育成（YC CLUB 活動など）、山小屋の管理、連絡会などへの参加、など
5 インターネットによる情報提供事業	＜定款第4条第1項第9号＞	インターネットによる情報提供
6 登山文化の普及事業	＜定款第4条第1項第1号及び第9号＞	「山の日」推進事業、シンポジウム、講演会、展示会、フェアなどの実施、写真展、絵画展、映画祭、音楽祭、公募登山、家族登山、子ども登山（園児から中学生まで）登山、高齢者登山（公募）、障がい者支援登山、少年輔導委託登山、登山レース、「学校から見える山」など
7 地域社会および地域文化の維持発展	＜定款第4条第1項第1号＞	記念祭、慰霊祭、開山祭など
8 国際相互理解の推進	＜定款第4条第1項第8号＞	海外との交流山行など
9 120周年記念事業	＜定款第4条第1項第1号及び4号、第6号、第8号、第9号＞	グレートヒマラヤトラバース、山岳古道踏査、エベレスト登頂50周年記念フォーラム、所蔵資料のデジタル化、山の天気ライブ、日本・エキュアドル外交関係樹立100周年記念友好同登山隊、ヒマラヤキャンプ

【公2】 山岳研究調査事業

1 上高地山岳研究所	＜定款第4条第1項第5号＞	上高地山岳研究所の運営
2 小規模水力発電の研究	＜定款第4条第1項第5号＞	小規模水力発電の研究
3 山岳図書館の運営事業	＜定款第4条第1項第8号＞	山岳図書館の運営
4 資料映像研究	＜定款第4条第1項第2号＞	資料映像研究
5 山岳地域の空間放射線量測定	＜定款第4条第1項第5号＞	山岳地域の空間放射線測定
6 登山道調査等国土地理院との連携事業	＜定款第4条第1項第4号＞	登山道調査等国土地理院との連携事業

【公3】 山岳環境保全事業

1 森づくり活動	＜定款第4条第1項第5号＞	高尾の森づくりの会、猿投の森づくりの会、その他の森づくり
2 山岳環境の保全保護活動	＜定款第4条第1項第5号＞	動植物の保護活動、自然保護パトロール、巡視活動、環境調査（動植物、食害など）、登山道清掃、トイレ清掃
3 自然保護の啓発活動	＜定款第4条第1項第5号＞	機関紙「木の目草の芽」発行、学習会（自然保護委員会）、データベースの作成、自然観察会、講演会、青少年向け森林環境教育活動、自然保護広報活動

# 別表 令和3年度 事業報告 (公益)

(凡例：山研＝山岳研究所運営委員会、高尾＝高尾の森づくりの会、DM＝デジタルメディア委員会、YC＝YOUTH CLUB 委員会)

事業名	支部名・委員会名	事業内容
I - 1 秩父宮記念山岳賞	秩父宮記念山岳賞 審査	審査の結果、時枝務・立正大学文学部教授「山岳遺跡の考古学的研究」、大森弘一郎・NPO 法人 山の自然学クラブ会長「日本アルプスおよびヒマラヤでの空中写真撮影による登山活動と山岳科学への貢献」に決定。授賞式と講演を外国人特派員協会で行ない、オンラインにて中継、その後当会 YouTube チャンネルに載せた。
I - 2 海外登山助成金による助成	海外登山助成	審査の結果、令和3年度後期海外登山助成は「日本山岳会東海支部カンチエナップ北壁登山隊」に30万円の助成を決定。メンバーは東海支部の山田利行会員、谷剛士会員。
I - 3 機関誌「山岳」発行事業	山岳	「山岳」第116年・2021年の発行：年1回の年報として、機関誌「山岳」第116年・2021年を発行した。今回は巻頭に全支部をあげて取り組もうとしている古道と、長期に及んで大変な問題となったコロナ禍にあっての登山を採り上げた。ほかにコロナのなかでできずじまっていた海外の記録、読み物、調査・研究などができるだけ、今日的な話題を拾うようにした。
	山行	6月「救急救命講習会」を予定していたが、コロナ禍のため中止した。
	DM	雪山天気予報の配信
	YC	11月、学生部クワイミング & マラソン大会を神奈川県松田町にて実施 (15大学、約70名参加) 12月、学生部 (大学山岳部) 対象に雪上講習を谷川岳で実施 (5大学13名参加) 2月、学生部 (大学山岳部) 対象に雪山ナビゲーション講習を八ヶ岳で実施 (2大学2名参加) 東秀訓氏を講師として「東さんの乱学塾」(オンライン講習)を4月、5月と2回実施 (2回とも約20名が参加) オンライン講習会「語りの場」を6月～10月で全5回開催 (60～80名が参加) "
	遭難対策	「山岳遭難防止セミナー」：無雪期向けに予定したが、コロナのために実施できなかった。 「安全登山講習会」：ファーストエイド、ロープワーク等の安全登山技術習得を予定したが、コロナのために実施できなかった。 「山の安全ノート」：「山の安全ノート」の企画、作成を予定したが、コロナのために実施できなかった。 "
I - 4 安全登山の推進事業①	山研運営	遭難防止対策他、山岳地域の気候変動や野生動物調査等に資するため、試験的に山研に設置した気象観測装置およびネットワークカメラにより、通年において継続的な気象データ (気温・湿度・風速・風向・降水量・積雪深) の収集、および野生動物調査データを蓄積し将来の研究に活かすため観測を引き続き行なった。
	医療	講演会：リアル講演会を実施できなかったが、日本山岳会晩餐会ウェビナーで12月6日(月)に稲垣泰斗医師によって「登山におけるコロナ対策の変遷と展望」の講演を行なった。
	科学	安全登山ハンドブック作成：遭難対策委員会、医療委員会との共同プロジェクトで本年度の発行を目指したがコロナ禍で計画を中断、年度内での発行はならなかった。引き続き来年度の発行を目指す。
	北海道	登山講演会：11月または12月に札幌市内で一般及び会員を対象に著名登山家による講演会を開催予定だったが、新型コロナウイルスの感染拡大により中止した。 雪崩講習会：NPO 法人、他山岳団体との共催で2022年1月に一般及び会員等を対象に雪崩事故防止の講習会を開催予定だったが新型コロナウイルスの感染拡大により中止した。 "
	青森	八甲田山遭難防止対策スキーコースポール立て：3月1～2日、29～30日実施、参加人数延べ4名。八甲田BC スキー遭難防止用のポール立てを実施。 高体連登山部支援：登山大会 (6月4～6日/岩木山) 支援者2名。 高体連支援：春山登山研修 (4月23～25日/八甲田山) コロナにより中止。 高体連支援：秋山登山研修 (9月10～12日/岩木山) コロナにより中止。 高体連支援：救急法研修 (2月6日/八戸市) コロナにより中止

事業名	支部名 委員会名	事業内容
I - 4 安全登山の推進事 業②	青森	八甲田山登山道整備ボランティア：8月28～29日：開催（28日：3名、29日：4名）。青森県観光国際戦略局観光企画課要請の下、担当区域の登山道整備を実施。 南八甲田登山道整備（6月22日）：参加者3名
	岩手	山の日記念市民登山「サンボトシ頭」：新型コロナウイルス感染症の蔓延対策のため、市民一般の参加は縮小し、8月1日の山行実施とした。この山は一般には登山対象とされず、林業の作業道の一部利用するも、ほとんどを地図読み研修にあてた。会員の参加11名と一般市民2名の計13名で最高齢は86歳であった。 岩手山8合目避難小屋管理：岩手県山岳協会が受託管理している岩手山避難小屋に燃料食糧の荷上げ、小屋清掃、山岳パトロールの活動に、延べ11名の支部会員が参加した。経費は県山岳協会の負担である。
	宮城	年2回、7月と11月に一般参加者 年30人程度で計画していたが、コロナの為に実施を自粛した。
	秋田	太平山歩道整備事業：10月30日（土）支部会員9名、会員外2名参加。太平山・前岳二ノ又登山口から前岳山頂まで歩道整備。中岳山頂付近の支障木処理。 山の環境整備協働事業等への参加協力：7月17日（土）秋田県生活環境自然保護課の「山の環境整備事業」へ参加。秋田駒ヶ岳・笹森山周辺歩道整備。支部会員2名参加。 秋田中央地区山岳協議会への参加協力：8月20日（金）太平山中岳から野田コース分岐までの歩道整備事業へ支部会員4名参加。
	福島	クライミング講習会：5月開催の公募による「フリークライミング講習会（過去5回開催）」はコロナ感染拡大のため中止した。 例年3回以上実施してきた登山道の整備・復元作業はコロナ禍のため中止した。
	栃木	栃木県山岳遭難防止対策協議会は、コロナ禍のため書面会議のみになった。
	茨城	4月、6月、11月、1月の年4回の講演会を実施、9月度についてはコロナ禍の緊急事態宣言があり、会場の使用不可で中止した。また三密厳守の為、会員のみにて開催し、一般参加者の参加は取りやめた。
	群馬	群馬の山のグライダーデイング 2015年に作成、20年2月に改訂されたグライダーデイングのフォローアップ（岳連・労山・県との共同作業）。ぐんま県稜線トレイル安全等調査 県の委託を受け、全線を岳連、労山、地元団体と分担し4回実施（谷川主稜線を担当）
	埼玉	6月5日（土）天覧山周辺にて、「ハイキングレスキュー講習会」を開催。参加者：15名。 10月20日（水）安全登山講演会「医療講演会」講師：金子 宏（医師：会員）参加者：18名 埼玉やま塾：新型コロナウイルス対策を講じて、5月～10月（座学4回、登山実技4回）を開催、参加者：20名。支部員は、ボランティアで補助員として参加した。
	千葉	「青少年の育成事業」：児童養護施設の課外・野外活動として、軽登山をする計画であったがコロナで実施できなかった。茂原市の「親子登山教室」の支援をする予定だったが、コロナで実施できなかった。支部会員は5～10名程度ボランティアで参加する予定だった。 安全登山のために、医師で登山家の野口いづみ東京多摩支部長を講師に招いて11月に「山の救急医療講習会」を開催した。一般者も含めて28名が参加した。
	東京多摩	安全登山のために、ヤマテン主宰者の猪熊隆之氏を講師に招いて「山の天気講習会」を3月に開催した。一般も含めて32人が参加した。 登山教室運営：初級登山教室 講座3回実施、延べ77名参加。登山実習 3回実施、延べ68名参加。中止6回。初心者登山教室は中止した。 安全登山啓発活動：11月 安全登山講演会「最近の奥多摩での山岳遭難事故の実態と事故防止」講師2名、一般16名、会員22名
	神奈川	救急法講習：救急法とアウトドアレスキュー講習会を一般公開で実施する。⇒まん延防止等重点措置のため、中止とした。 神奈川県山岳連盟との共催で、登山道の維持作業を行なう。（対象は、丹沢山域を予定）⇒登山道維持活動の代わりに下記を実施。 はだの山の日（8/8）にて、一般市民に向けて開催されたフォイトロゲイングのスタッフ業務に参画（2名）。 第35回県民登山（11/7）にて、三ノ塔チャレンジコースのスタッフ業務に参画（2名）

事業名	支部名 委員会名	事業内容
I - 4 安全登山の推進事業③	富山	山岳連盟主催の各種講習会・研修会・登山教室に指導者・リーダーを派遣した。 6月6日高頭山登山道整備 参加者 11名。
	石川	登山道整備：富士写ヶ岳 火燈山 不惑新道 火燈古道 6月5日実施 支部員9名、一般1名参加 登山道整備：杉峠登山道 6月26日実施 支部員6名参加
	東海	登山学校：平成29年7月に開校。東海支部の自主的運営による運営。未組織登山者への安全登山の啓発、支部の人材の確保と育成、支部活動の活性化を目的として運営。受講生の経験及び技量に合わせ初級、中級及び上級の3つのクラスを設定し、一年間の実践・学習を通して安全登山に対する知識や読図などの登山技術を学ぶ。令和3年度は初級：14名、中級：9名、上級：9名の受講生に指導員20名の体制。原則毎月1回の現地学習山行と年間7回の机上講習を実施した。また令和2年度から下部組織として「同窓会」を設立。学校卒業生の支部での活動の場を提供している。
	京都・滋賀	「安全登山講習会」の「健幸登山講習会」を4月～12月、2月の年10回実施。108名受講。 滋賀岳連「安全登山講習会」として、滋賀県山岳センターで4月「人工壁の登攀教室」を17名で実施。5月実技指導はコロナで中止。支部会員は指導者、補助員で参加。
	関西	登山教室の開催：座学4回35名、初級6回37名、中級6回21名、上級5回15名。通算21回、延べ108名。「安全登山の普及」を目的に、山登りの初心者から雪山や岩登り等の本格的な登山を目指す方々をHPで公募して実施。
	山陰	大山冬山山岳パトロール：2月12、13日山陰支部会員3人+鳥取県警2人及び本部詰め1人パトロールの実施。3月5、6日山陰支部会員3人+鳥取県警2人及び本部詰め1人パトロールの実施
	広島	初心者登山教室（ひろしま山の日・臥龍山登山）：スタッフ4名、一般参加15名。
	熊本	秋の登山教室として、紅葉観察会を10月23日（土）九重三俣山にて実施。参加者14名 干支の山登山：11月14日（日）福岡県「牛斬山」にて実施。参加者10名。
	DM	<ul style="list-style-type: none"> <li>・JAC 広報ホームページ運営、維持管理（事業等情報公開、入会案内、JACからの広告）</li> <li>・JAC 所蔵資料等デジタル化し公開</li> <li>・表彰事業のHP上の告知</li> <li>・主管庁関連の登山事業、環境保全事業、山岳研究調査事業の紹介掲載等</li> <li>・JAC メールサービス維持管理（JAC委員会、支部、同好会の会務メールサービス）（委員によるボランティア運営で Daily Work および月例会議を実施）</li> <li>・インターネットサーバによる会務データ処理とデータサーバによる活動記録データの電子保存（委員によるボランティアワーク）</li> <li>・委員会、支部等主催の各種行事の案内掲載（委員によるボランティアワーク）</li> <li>・支部が運営するホームページを広報および会員募集手段としてデザイン閲覧性をスマートフォン向けに向上</li> <li>・悪意あるメールやウイルス送付に対するセキュリティ強化およびインターネットワークシステムの改ざん対策とセキュリティの強化</li> <li>・年末年始の冬山天気予報の維持管理と配信。</li> </ul>
	記念事業	所蔵図書・資料デジタル化PJ:過去の会報『山』をすべてPDF化してHPに公開した。過去の機関紙『山岳』をすべてPDF化してHPに公開した。『山岳』の総索引（第26年～第60年）を電子化しHPに公開した。マナスル初登頂、エベレスト登頂の登山隊の記録をデジタル化しHPに公開した『東カラコルムの未踏峰へ』= 遙かな歴史との邂逅 = 日印合同東カラコルム・パドマナブ登山隊2002をHPで公開した。『マカール-東稜』= 未知への挑戦 = 日本山岳会マカール登山隊1995をHPに公開した。『みんなまで挑んだK2』日本山岳会青年部K2登山隊1996をHPに公開した。
家族登山普及	サイト「親子で楽しむ山登り」の管理と運営：支部からの情報を基に登山コース及び関連情報の修正を行なった	
I - 6 登山文化の普及事業①	科学	フォーラム「登山を楽しくする科学」の開催：過去2年間、コロナ禍で中止の止むなきに至ったフォーラムであり、R4年3月の開催を模索したが、状況が改善せず、来年度に持ち越すこととした エベレスト登頂50周年記念事業への参加：表記事業に委員がパネル展示などで参加、一連の事業が無事終了した。

事業名	支部名 委員会名	事業内容
	家族登山普及	<p>家族（子供）登山の実施及び普及：年6回の家族登山教室を開催し、安全な家族登山の普及を行なう→コロナのため実施できなかった。</p> <p>講演会活動の充実：「山岳図書を語る夕べ」「山岳史懇談会」ともにリアルな講演会は、コロナ禍のために一切できなかった。図書交換会の開催：例年、好評だった「図書交換会」であるが、今回も年次晩餐会が中止になったため、開催できなかった。「エベレスト登頂50周年記念フォーラム」の実施：記念事業委員会のひとつのPJとして、「エベレスト登頂50周年記念フォーラム」があるが、4月から半年、豊岡市の植村直己冒険館で写真展と関連本の展示などができた。10月16日には記念フォーラムも開催でき、豊岡市民を中心に関西支部からも多数参加してくれた。</p>
	図書	<p>全国『山の日』記念イベントへの協力：『山の日』の意義を広く国民に周知させるための全国規模での記念事業の支援。第5回「山の日」記念全国大会（大分、8月11日）への出席・協力</p> <p>夏山フェスタ名古屋、夏山フェスタ福岡等への協力：コロナ禍で協力活動中止</p> <p>全国各支部の「山の日」関連事業を支援</p> <p>会報『山』を通じて「山の日」運動を啓発：各支部に呼びかけ前年度10月号より『地域発「山の日」レポート』を2021年9月号まで連載（一財法人）全国山の日協議会の法人会員として諸活動への参加・協力</p> <p>地方自治体、企業等の「山の日」関連イベントに対する賛助、協力：コロナ禍で実績なし</p>
	山の日	<p>山の日登山：8月8日：開催、参加人数12名（内訳：JAC7名、HATA5名）。親子登山はコロナにより開催中止。内容を変更し、HATA共同で山の日登山を実施。E19</p>
	青森	<p>親子登山教室：年2回、5月と10月に一般参加者 年30人程度で計画していたが、コロナの為に実施を自粛した。</p>
	宮城	<p>泉ヶ岳登山支援事業：仙台市内小学校5年生の泉ヶ岳ふれあい館での野外活動の登山ボランティアとして登録会員を派遣する事としていたが、コロナの影響で野外活動を実施する小学校が減少したためか、昨年度よりは増加したものの6回の派遣となった。</p>
	秋田	<p>自然学習センター主催の小学生の太平山登山に年2回程、ボランティア協力。（4年1月9日 参加者9名 妙見山～東の森コース）</p> <p>太平山観光開発が主催するファミリーハイキングにボランティア協力。（4月25日 参加者30名）</p> <p>秋田市仁別植物園の来園者に年7回ほど、植物や樹木の説明を行なった。（8月7日 参加者20名）</p> <p>土崎南小学校の「自然観察クラブ」に6月から9月まで植物観察・昆虫観察・森の恵みを利用した図工作など6回指導。（参加者延べ16名）</p>
I-6 登山文化の普及事業②		<p>太平山山開き市民登山支援活動：毎年6月第2日曜日に行なわれる「太平山山開き市民登山」に支援者を派遣し、協力する予定であったがコロナ禍のため計画無し。</p>
	山形	<p>「学校から見える山」イラストプレゼント企画の6年目は山形市の大岡山近くの小学校を対象とし、大岡山からの展望図（全長125センチ折畳式）を楯山、鈴川、千歳、高瀬小学校の4校に450部の作品贈呈を行なった。3月3日の贈呈式は楯山小学校で、5年生の児童や小学校の校長先生等先生方、山形市の教育委員会の出席の下で開催された。粕谷会員による展望図の解説があった後、代表の児童から感謝の言葉があった。</p>
	福島	<p>6月中旬に酒田市文化センターで「アルパインフォトクラブ」写真展を実施した。一般市民を含め、延入場者数は推定1200人。</p>
	茨城	<p>山の日親子登山：8月9日「山の日」の「東吾妻山親子登山」はコロナ禍の影響により中止した。</p> <p>自閉症協力登山：予定の計画はしたが、コロナ禍の為、先方からのリクエストがなく中止。</p> <p>「山の日」の筑波山集中登山は、コロナ過により中止、その他についても全て自粛した。</p>
	栃木	<p>第14回山の講演会：令和4年3月27日に日本野鳥の会栃木県支部幹事 刑部節郎氏を講師に招き演題「ながら山歩きの勧め」で開催を企画し案内したが、コロナ禍により中止とした。</p> <p>第9回親子登山教室：令和3年7月18日 奥日光社山にて実施した。親子11組31名が参加した。</p> <p>海外登山の集い：令和4年1月27日に日本山岳会理事松田宏也氏を講師に招き、「グレート・ヒマラヤ・トラバース」の講演を予定したが、コロナ禍により中止とした。</p>
		<p>栃木県山の日協議会は、コロナ禍のため書面、リモートの会議のみになった。</p>

事業名	支部分会名	事業内容
1-6 登山文化の普及事業③	群馬	ぐんま山フェスタ 2021: 実行委主催、県岳連、県労山との共催で前橋市の群馬県庁で6月に開催予定（前年度は中止、前々年度来場者6000人）であったが、コロナ禍のため規模を縮小、11月に延期して高崎市内で実施。1日のみの開催となったが1200人が来場した。3代会長・木暮理太郎のパネル展示や相談ブースを設置。支部員は相談担当などとして10人ほどが参加。会場での入会希望もあった。山の日イベントin谷川岳: 8月の山の日前後に、みなかみ町の谷川岳周辺で開催予定だったが、コロナ禍のため2年続けて中止となった。谷川岳エコツーリズム推進協議会と群馬支部が加盟する群馬県山岳団体連絡協議会の主催で、登山や自然観察などを行なう予定で支部員は講師、スタッフとして10人以上が参加する予定だった。例年、100人ほどの一般参加がある。
	埼玉	健康登山塾: コロナ以前は毎月1回全8講座ほどの規模で行なってきたが、昨年からは縮小開催となり、今年度も10月から全5回の予定でスタートした。今年度は過去3回のまとめとして、今までの受講経験者から希望者を募り、24人で開講した。コロナ禍で内容の大幅な変更も強いられた。22年2月末時点で一部内容変更も含め3回を消化し、3月に2講座を実施予定である。
	東京多摩	大久保春美記念・第11回ふれあい登山: 11月3日(日): 「大久保春美記念・ふれあい登山」は、新型コロナウイルス感染症対策を講じて、奥武蔵の日和田山と物見山を会場にして、(一社)埼玉県障害者スポーツ協会と共催で実施。参加者: 76名(障害者+付き添い37名含む)
	神奈川	山*フェスタ(当支部の活動内容を一般の方々向けへ紹介する催し) 10月 参加者約100名 山の日関連事業の実施: (1) 神奈川大学体育会山岳部(団体会員)による活動報告 (2) 外部講師による講演会 ⇒今年度は、まん延防止等重点措置のため、中止とした。
	越後	第4回糸魚川ジオパーク子供登山教室: 「山の日」記念時行事で実施しているが、コロナ禍で宿泊予定を日帰り現地集合解散に計画変更し現地下見調査まで行なったが、8月初旬から第5波感染拡大と台風来襲の天気予報のために急遽中止とした。(参加予定者は15人) 公募登山や登山セミナー: コロナ禍で当初計画を大幅に見直し変更修正を行なったが、概要は下記の通り。1. 公募登山(6/13、10/24)と公募セミナー(9/12、10/31、12/12、1/16)は、全て中止した。2. 協力予定のNST新潟総合テレビ主催弥彦山県民登山フェスティバルも中止された。3. 新潟県山岳協会主催の登山講習会なども中止で、支部会員派遣要請もなかった。 支部山行や支部同好会山行に会員推薦の一般参加者も同行し登山啓蒙を図った。
	富山	第12回山岳講演会: 残念ながら中止とした。 第5回山の日記念親子登山: 残念ながら中止とした。 小学校6年生の立山登山に講師・指導員として会員が案内する「立山登山」は中止となった。
	石川	第7回白山親子登山教室 コロナ禍の為中止。座学日程は登山前月の一日を想定 コロナ禍の為 中止。 第5回 秋山親子登山 コロナ禍の為 中止
	岐阜	山岳講演会: 11月13日、ハートフルスクエアG(JR岐阜駅)大研修室。一般聴講者106名、朝日新聞長野総局 近藤幸夫氏「山岳専門記者として山へ行こう」
	岐阜	山岳写真展: 1月4～9日、OKBふれあい会館。2月1～14日、JR岐阜駅ハートフルスクエアGにて開催。
	静岡	第4回南アルプス写真展: 静岡県内山岳4団体(当支部の他には静岡県山岳・スポーツクラクライミング協会、静岡市山岳連盟、静岡県労山)主催で11月2日～7日に静岡市内で開催。述べ819名が来場。
	静岡	ハイキングセミナー: 年2回、5月16日と10月31日に実施した。それぞれセミナー生13名、および7名の参加
	東海	ボランティア活動: 視覚障がい者支援登山を、春と秋の実施予定であったが、コロナのため秋のみ実施。 視覚障がい者支援登山(ひまわり登山): 年数回実施の予定であったが、コロナのため公式行事としては行なえなかった、委員会公式行事として2月に行なった。
京都・滋賀	山水会講演: 10月16日同志社大学新島会館で「野生の山へ、奥美濃の山・北海道の山」(講師清水克宏・米山悟)講演会実施。会員・一般55名参加。 大江山日本の鬼博物館で「大江山と鬼伝説」(講師八木透)講演会実施。会員・一般25名参加(11月6日)。	
関西	「山の日」関連事業の実施・11月3日、子供を中心とした「わんぱく探検」を実施。参加者41名(会員10名保護者15名子ども16名)。11月14日、2020年植村直己冒険賞を受賞された稲葉香氏講演の「著者と語る会」を開催。26名参加。	
広島	ジュニアツリークラクライミング: 低学年向けの綱渡り、ハンモック遊びに限定したため参加者は11名、スタッフ5名。	

事業名	支部名 委員会名	事業内容
I - 6 登山文化の普及事業④	広島	親子登山教室：コロナ禍で春季「安芸太田町 深入山」山菜採り、夏季「安芸太田町 恐羅漢山」県内最高峰の夏山トレッキングは中止。広島市の教育委員会の協力がなく、秋季のみじ狩り（広島市・牛田山）は会員の家族や紹介が中心。参加者は6家族19名、スタッフ7名で実施。
	四国	第9回小島烏水祭：11月13日、高松市峰山公園内小島烏水頭影碑前にて第9回小島烏水祭を開催。参加者：支部会員30名（コロナ禍により規模縮小での実施）。
	福岡	ロングトレイル・古道をテーマとした登山教室：宝満山から英彦山修験道トレイル（約75km）で6回に分けて実施。のべ120名が参加。
	宮崎	第26回宮崎中央公民館祭り：この施設を利用する各種団体との合同のイベントである。11月27、28日の両日で約600名の市民が見学を訪れた。宮崎支部は大型パネル6枚を用いて日本山岳会および支部の活動を展示・紹介した。
	熊本	山の写真展：12月4日～19日。山の店シェルパにて実施。出展者12名、50作品記帳者132名。
	東九州	ふるさとの山に登ろう・in 大分 久住山。国民の祝日「山の日」にちなんだ登山活動振興につながる行事を行なった。今年は全国山の日記念集会在大分県で開催され、コロナ禍で開催が危ぶまれたが規模を大幅に縮小
	東九州	第8期登山入門教室：山登りの初心者を対象に募集。定員20名としたが、30名近くの応募があり、25名で実施。
	青森	青森ウェストン祭（7月4日）：コロナにより中止
	青森	「八甲田山の日」記念山開き登山大会（7月11日）：コロナにより中止
	岩手	砥森山に関する歴史的考察と登山路の調査：北上山地の中央に位置する砥森山双耳峰への登山で実施した。5月23日、支部会員9名と一般2名（その後にひとりが入会した）計11名が参加した
I - 7 地域社会および地域文化の維持発展①	神奈川	かながわ山岳誌プロジェクト：神奈川支部設立を記念し、5年計画で神奈川県下の2.5万分の1の地形図に記載された山名と峠及び、登山対象となるピークのすべてに登って日本山岳誌の神奈川県版を作成し、それらの情報提供などを通して社会へ貢献する。7、8月を除き、1コース月1回、Hコース月1回山行を実施し、Lコースは、一般向けにも山行案内を公開している。⇒2021/4から2022/3までの間、Lコース10回分計画し、コロナ禍で中止が3回。実施は7回。Hコース12回分計画し、コロナ禍で中止が6回。実施は6回。（3月分を実施予定として）⇒踏査終了後の報告書出版に向けて、踏査原稿を作成中。
	越後	第64回高頭祭：新潟県「山の日」記念事業として7月25日に越後支部主催で実施したが、コロナ禍で縮小開催とした。参加者は支部会員と一般参加者約50人、高頭翁寿像碑修復竣工式を兼ねて神宮からお祝いを受けた。同時開催の弥彦山たいまつ登山祭は、コロナ禍により弥彦村の意向で中止となった。
	富山	「第36回播磨祭」及び「高頭山記念登山」：令和3年6月6日実施、参加者22名（支部会員、生家の会の皆さん）。「播磨祭」：播磨上人顕頌碑前にて式典を規模を縮小して開催。「記念登山」：中止とし会員による高頭山登山道整備を実施。参加者11名。
	石川	山の日記念事業「久弥祭」深田久弥を愛する会と共催。10月31日実施 支部員9名参加 他一般約50名参加
	福井	秦澄祭：5月30日に感染対策を徹底して秦澄祭 & 秦澄ウォークを開催。神事は行なわれずコンサートのみ。一般公募120余名、会員17名が参加。
	山梨	4月17日深田祭（山梨市観光協会主催）は、深田久弥没後50年、深田祭第40回記念。山梨支部は参列し献花。
		第4回田部祭と西沢溪谷記念登山：5月16日、奥秩父の開拓者である田部重治を顕彰する式典。山梨市主催。コロナ禍のため規模を縮小して実施。その後、記念登山「西沢溪谷一周」を個人山行として実施、参加者一般3名、支部員15名、合計18名が参加。
		第62回木暮祭と五里山記念登山：10月17日、当会第3代会長である木暮理太郎の遺徳を偲ぶ祭典。山梨支部、増富温泉ラジウム峡観光協会、山梨県山岳連盟で構成される「木暮碑委員会」が主催。本年もコロナ禍のため前祭のみ実施。一般25名、支部員15名、合計40名が参加。上村英司・北杜市長も参列。
	信濃	4月18日、第40回深田祭（深田久弥を顕彰する祭典）。主催＝山梨市観光協会。子息林太郎氏、深田生地の石川県からの参加者もあり合計100名が参加。
		6月6日 上高地ウェストン広場にて第75回ウェストン祭を開催した。新型コロナウィルス感染症対策をとり、信濃支部員と協賛団体代表者が参加し前祭を開催した。参加者20名
3月21日開催された第9回岳都松本山岳フォーラム「コロナ禍と山の未来を考えるに」実行委員として参加。一般登山愛好者を対象とした「山ゼミ」の一部を信濃支部が担当し、日本山岳会と行く山シリーズとして4回実施した。		
		上高地開山祭のメンバーとして活動に参加した。

事業名	支部分会名	事業内容
I - 7 地域社会および地域文化の維持発展②	関西	「登山文化の伝承」を継続実施：登山が他のスポーツとして持つ文化的行為を広く範囲に捉え、これまで関西支部が実施してきた文化的活動の幅を広げ、「登山文化の伝承」を継続実施している。1回5名。山岳書、山岳画、山の音楽、山の民俗・宗教、関西岳人伝。山の民俗・宗教においては、資料提供など山岳古道調査候補選定に協力した。
I - 8 国際相互理解の推進	国際	"各国の山岳会等との連絡を図り、情報交換、親睦を図った。海外からの日本の山岳と登山に関する問い合わせの対応を行った。海外登山に関する講演会の企画検討（コロナのため実現は今後）を行なった。"
	信濃	松本市海外都市交流委員会（カトマンズ、グリーンデルワルドなど）のメンバーとして活動に参加した。
		図書室や資料映像委員会が管理する、図書及び資料を可能な範囲でデジタル化を継続。（委員によるボランティアワーク）
I - 9 120周年記念事業	記念事業	エベレスト登頂50周年記念フォーラムPJ：豊岡市の植村直己冒険館のリニューアルに併せて、エベレストの写真展示や3D模型への登山ルートへの表示などの作業を行ない、4月20日から10月19日までの約半年間の長期展示をおこない、多数の来館者に日本山岳会による日本人エベレスト初登頂への歴史を見て貰う事ができた。コロナ禍の為1年遅れとなったが、10月16日（土）、豊岡市の日高文化体育館で「講演と映画の集い」と銘打った「エベレスト登頂50周年記念フォーラム」が開催され豊岡市民を中心に関西支部・山陰支部・首都圏からの参加も含めて300人が参加した。10月17日（日）は植村直己さんの生家の近くにある蘇武岳（1074m）で交流登山をおこなった。交流登山には100名を超える応募があったが、コロナ禍と悪天候で地元山岳会会員・関西支部員に限定しておこなわれ、生憎の雨ではあったが晩秋の蘇武岳登山を楽しんだ。
		山の天気ライブ授業PJ：コロナ禍ではあったが感染対策を万全にして、支部事業委員会の後援を受けて関西支部主催でおこなった。11月6日（土）は、神戸学生センターで机上講義を行ない27名が参加した。翌7日（日）は、摩耶山展望台で観天望気の「ライブ授業」をおこなった。ライブ授業には18名が参加した。
		グレート・ヒマラヤ・トラバースPJ：ブレモンスーンとポストモンスーンの2回の実施を予定し、現地とも連絡を取り合っていたが国の渡航中止勧告（レベル3）やネパール国内の感染拡大により実施できなかったが、令和4年ポストモンスーンから再開予定である。
		ヒマラヤキャンプPJ：ネパール国内の未踏峰登山を計画していたが、新型コロナウイルス感染の拡大を受けて中止した。渡航断念後もオンラインミーティングやトレーニングを継続し、令和4年9月～10月の実施を目指している。
		日本・エクスアドル外交関係樹立100周年記念友好合同登山PJ：東京オリンピック後の9月をめぐりに、エクスアドル山岳会員16名を日本に迎え、富士山・槍ヶ岳・立山への合同登山の予定をしていたが、コロナ禍で海外渡航やビザの発給が停止したため実施できなかった。
	記念事業	山岳古道調査PJ：これまで支部や会員にお願いしていた古道のリストアップを終了し、第一次の調査対象59本の対象古道については既に支部ごとに踏査を始めた。「日本の山岳古道120選」についても専門家の助言を受けながら推敲をおこなっている。また、2025年に迎える120周年記念事業を、会員のみならず全国の古道愛好家や地方自治体や関係団体の協力を得るため「全国山岳古道調査ご協力のお願い」のパンフレットを制作・配布した。コロナ禍でのなにかと窮屈な状況ではあるが踏査活動の輪が着実に広がっている。
I - 9 120周年記念事業 (全国山岳古道調査)①	山形 栃木 埼玉	今年度六十里越古道調査調査を実施した。9月24～25日に10名が参加して実施した調査が最大規模であるが、その他に4回（9月15日3名、10月15日3名、24日3名、11月29日2名）の調査を実施した。なお、調査対象地域の自治体に対し、来年度以降の調査に該当する地域を含め、6箇所の市役所・役場を訪問して古道調査の趣旨説明と協力依頼を行なった。
		「山岳古道調査プロジェクト」として、6回の踏査を行なった。
		1月16日（日）、日本山岳会120周年記念事業の一環として、全国古道調査関連講演会「埼玉の街道」講師：杉山正司氏を迎えて開催。参加者：33名
	東京多摩 神奈川	山岳古道調査：「日原往還と富士信仰の道」の文献等調査と地元有識者ヒアリング実施「古甲州道」の文献等調査実施
		八菅修験者古道、箱根古道（東、西）、足柄古道を抽出し、現地の役所等を訪問済。八菅修験者道は、延べ4回、実地調査を実施済。今後の八菅1回、箱根2回、足柄1回の山行を計画済。
	越後	越後山岳古道調査プロジェクト：各地リーダーとオンラインミーティングで情報交換を密にしながら調査を進めた。9/5長岡東山で地図アプリアリ現地講習会、9/23福島支部と八十里越え情報交換会の他古道現地調査山行で、10/3会津街道・諏訪ルートの調査実施

事業名	支部名 委員会名	事業内容
I - 9 120周年記念事業 (全国山岳古道調 査) ②	山梨 関西 山陰 四国	山岳古道調査：①金峰山登拝路「御嶽道」②南アルプス北部山岳古道の資料調査に着手し、一部ルートは実地調査に移行した。 日本山岳会創立120周年記念事業・「山岳古道調査：「葛城修験の道」を調査中。8回延べ85名参加。 古道調査：11月7、14、24、27～28日に実施。 JAC主催全国山岳古道調査として実施。①遍路道：女体山越え88番札所へ(6/6) ②別子銅山廃道(6/12、6/27) ③坂本龍馬脱藩の道(5/23、6/19) ④剣山旧表参道<登山口：コリトリ>(10/23・24)。
II - 1 上高地山岳研究所	熊本	山岳古道調査：熊本支部担当「向霧立越」調査として実施。
II - 2 小規模水力発電の 研究	山研運営	委員ならびに管理者が自然エネルギー利用研究への取り組みと発電施設の維持・管理、見学者等への説明を行なった。(開所期間中)
II - 3 山岳図書館の運営 事業	図書	ミニ水力発電小委員会と連携して随時見学を受け付けた。(開所期間中)
II - 4 資料映像研究	資料映像	図書の保管と充実：日本有数の山岳図書館として、蔵書の管理とさらなる充実を図るべく公益に資することを目的に運営しているが、前者は達成できたものの、後者はコロナ禍のため来場者はほとんどいなかった。なかなかできなかつた図書館ソフト「情報館」のコストを見直し、大幅に削減できた。 「第24回全国山岳博物館等連絡会議」：11月27日に、リモートを中心とした会議を開催した。 「102号室環境改善」：102号室の資料保管環境を改善し、貴重な所蔵資料の整理と燻蒸(消毒)作業を実施した。室内の環境改善としては、気温湿度のモニタリング調査を継続し、必要に応じて空調を調整した。 「絵画・資料の保存と活用」：コロナ禍にも関わらず、収蔵資料の使用や貸出に関する問い合わせが10件以上あり、対応を行なった。特にウェストン写真、楨写真の使用依頼が多くみられたので、デジタルデータの提示として処理した。貴重な収蔵実物資料についての展示貸出依頼は1館のみだったので、今後は会の収蔵品を広く紹介して、博物館、美術館等の展示での活用を促していきたい。絵画や写真の修復作業、展示による公開等は、コロナ禍でレムに入れない期間が続いたこと、中止となった事業が多かったことから、実施出来なかつた。 「映像資料管理と活用」：コロナ禍の影響を受け、映写会等の実施が出来なかつたことから、映像資料の活用はしていない。ただし、貴重な映像フィルムについて、前記2の燻蒸作業を行なった。
II - 5 山岳地域の空間放 射線量測定	福島	県内主要山域の放射線測定と集約：4月から10月までの間、各月ごとに吾妻山系、安達太良山系、那須・甲子山系3地点の放射線量測定調査は、コロナ禍の中にあつて断続的に実施できた。
II - 6 登山道調査等国 土地理院との連携	国土地理 院WG	12月13日(月)国土地理院を訪問して同地理院のJACに対する協力内容(廃道、登山変化)について引き続き情報提供すべく確認した。
III - 1 森づくり活動①	高尾の森 づくり	小下沢国有林の森づくり活動：東京都八王子市の小下沢国有林にて、毎月第2土曜日を定例作業日とし、除間伐、下刈り、つる切りなどの森林整備作業を実施している。しかし、当年度は、新型コロナウイルス感染症のため活動を5回休止したため、7回しか実施できなかった。実施した定例作業日には月平均58名参加しており、年間の参加者の延べ人数は、405名であった。また、間伐材を利用した木工作業は、毎月4回程度実施しており、毎回8名程度の参加があり、年間で約400名の参加者があった。親子森林体験スクールなどの教育啓発活動も1回を除いて休止した。 木下沢国有林の森づくり活動：八王子市の木下沢国有林にて、毎月第3日曜日を定例作業日とし、林道整備、除間伐、下刈りなどの森林整備作業を実施しているが、新型コロナウイルス感染症防止の自衛のために実施できたのは年間の半分であった。実施した作業日には毎月平均10名程度の参加があった。また、春の植樹祭を都府有林で行なうことを計画し、植樹地の準備作業をおこなった。 三宅島緑化再生活動：三宅島の火山災害跡地の緑化再生活動を現地と協力し継続して実施しているが、当年度も、前年に引き続き、コロナ感染症対策のため三宅村から中止の要請があり、やむなく中止した。 高尾599ミュージアム展示会：「高尾の森の生き物たち」展示会を、毎年3月末から4月にかけての1週間、高尾599ミュージアム(八王子市)において実施している。2022年3月末の展示会は1週間実施した。

事業名	支部名 委員会名	事業内容
Ⅲ - 1 森づくり活動②	青森	白神山地ブナ林再生事業：6月19～20日：開催、参加人数24名（内訳：JAC9名、一般参加15名）。9月18～19日：中止（計画したがコロナにより実施できなかった）。津軽森林管理署の協力の下、一般参加者と一緒に森林整備・自然観察会を実施。 「権現の森林づくり」岐阜県県有林4/3～11/20まで全13回実施。会員・会友・一般参加 延べ48名。
	岐阜	第16期私たちが森づくり。①登山道の保守整備：倒木、枯れ木の伐採、ヒノキの枝切り②地生え幼木（ブナ科、カエデ科を中心）の保護育成をはか る③動物食害防除、防虫ネットの修復④植栽地の拡張・伐採作業（杣道から植栽地への登山道）。
	静岡	森づくり事業：参加者は各回最少2名・最大8名であった。
	東海	森づくり活動：①猿投の森（県有林やまじの森）において人工林の間伐、雑木林・自然観察道の整備を行ない環境林として整備した。 ②なごや環境大学とタイアップし「森からのプレゼントⅡ～猿投の森の恵みを丸ごと体験～」という講義を行なった。森の中で4回講義。「せと環境塾」の講義を受け持ち炭焼き体験を実施した。 ③東京大学演習林内の人工林間伐作業を行なった。
	京都・滋賀	滋賀県比良山麓の「ダンダ坊遺跡」の登山路整備と緑化支援活動。4月は20名参加予定がコロナで中止。10月は22名会員・一般が参加。 滋賀県有林「結いの森（藤尾の森）」で森林保全活動と林業実務指導を開催。毎月1回～3回実施。会員・一般を含め年78名が参加。
	関西	大阪府高槻市の「日本山岳会関西支部本山寺山の森」で、社会貢献の森協定による森づくり活動を行なった。 関西支部管轄指導の下に活動主体団体「本山寺山森林づくりの会」で、森林の保全、整備活動を行なった。森林保全23回、217名、森林体験・観察会6回。6名。通算29回、延べ223名。
	北海道	山のトレイル整備：北海道山岳9団体で構成する「美瑛富士トレイル管理連絡会」のメンバーとして7月に携帯トイレブースの清掃・点検活動を実施した。また、大雪山旭岳の裏旭野営指定地のトレイル問題改善に向け、他団体と連携して現地での登山者アンケートを実施した。 高山植物盗掘防止パトロール：北海道生活環境部の生物多様性保全事業「大雪山高山植物盗掘防止監視業務」を受託し、6月～10月に支部の会員、会友30名が参加してのべ154日のパトロールを実施した。
	岩手	四角岳・中岳の清掃登山、環境保全：秋田・青森・岩手の3県の境界に位置し、岩手県では最も奥深い四角岳を登った。 根曲がり竹の採集適地として知られ、道には多くのゴミが棄てられている山でもある。支部会員14名と会員外1名の計15名が、清掃ボランティアで参加した。
	山形	5月9日「蔵王害虫被害調査登山」は新型コロナウイルスの感染拡大のため、昨年に残りながら中止となった。8月30～9月2日に予定した「それぞれの上高地」は支部会員以外の参加者を含め、山研の宿泊を予約したが、やはり感染拡大のため実施出来なかった。 10月2・3日に開催予定だった公益清掃登山「鳥海山滝の小屋芋煮会」は感染予防対策のため、日帰りに変更し8名が参加して実施した。駐車場～滝の小屋～河原宿のコースで清掃活動を実施し、予想以上のゴミを回収することができた。
	Ⅲ - 2 山岳環境の保全保護活動①	栃木
埼玉		4月18日（日）、笠山から堂平山縦走路にて、清掃活動を実施。参加者：20名
千葉		「教育・啓発事業」：房総や近県の山をメインに植生や地形、地質の自然観察する山行を行なう。支部会員をメインに一般者も参加して年間で4回行なうた。
東京多摩		東京都野火止用水歴史環境保全地域の保全活動、地域調査、伐採等 延べ10回、81名 身近な水環境の全国一斉調査に参加 多摩川 / 秋川合流点付近の水質調査 6月 2名参加
越後		弥彦・国上エリアの持続可能な利用を促進するプロジェクト：一般財団法人新潟県職員互助会の助成金事業で採択され、弥彦・国上エリアで3回の登山道整備清掃を実施し、高頭翁寿像碑の芝生緑地の復旧工事や養生を行なった。打合せ・事前調査・本作業を含む全参加者総数は約200名(12団体)だった。
山梨	山梨県委託事業の「山岳レインジャー」活動である希少高山植物調査を北岳、甲斐駒ヶ岳、鳳凰三山の南アルプス北部で3回、延べ6日間、支部員延べ10名で実施した。	

事業名	支部名 委員会名	事業内容
Ⅲ - 2 山岳環境の保全保 護活動②	信濃	高山植物保護対策委員会、長野県豊かな環境づくり県民会議のメンバーとして活動に参加した。
	岐阜	山岳パトロール：岐阜森林管理署管内で山岳パトロール（森林保全巡視・環境美化など）を実施。
	関西	清掃登山：自然保護委員会が12月11日に金華山で清掃登山を実施。参加者17名が3コースに分かれて行った。
		「東お多福山草原保全・再生研究会」に参画し、六甲山東お多福山草原復元の保全・整備活動や環境教育・自然観察活動に参加した。通算3回、延べ7名参加
	広島	環境省近畿地方環境事務所関連の「大台ヶ原の利用に関する協議会」に1回1名参加した。
		八幡温泉再生化事業：4月18日霧が谷温泉中間部自然観察道（木道）山側のハンノキ、カラゴキガエデ、ノイバラなどの除伐を総勢45名（JAC33名、他12名）が機械班3班15名、払い除け班3班30名で整備した。今回も参加者が多かったため、計画以上の整備が出来た。
	山陰	高岳山頂付近の景観回復及び環境整備：11月27日上野先生（鳥類学者）ほか会員参加者9名で高岳山頂および登山道整備を行った。数年来の継続事業で山頂の景観は維持され、登山道も地元団体の活動を含めて整備は行き届いている。
		ひろしま「山の日」県民の集い事業：8月8日霧が谷温泉自然観察道上流部の木道から山側部の徐伐及び散策木道の両側のカヤなどの除草を総勢41名（JAC25名、その他16名）で機械班、払い除け班に分かれて整備活動をした。
	四国	大山山岳環境保全協議会（仮称）準備会構成員として、入山料・夏登山道木道移設等の協議。
	熊本	自然公園等監視パトロール：国定公園や自然公園内の登山道や案内表示等の破損状況、鳥獣の生息状況、不法投棄状況などの情報収集・調査をNPO法人との連携により実施。調査期間：4～11月随時実施。参加人員：支部会員：7名（美人員）。
秋の森林保全巡視活動として熊本県「三国山、国見山」にて実施（10月10日）。参加者14名		
Ⅲ - 3 自然保護の啓発活 動	宮崎	清掃登山：宮崎市山岳協会と合同で双石山登山口周辺県道脇のゴミ拾いをし、45Lのビニール袋で103袋と大量の粗大ゴミを回収し、宮崎市廃棄物対策課に処理を依頼した（12月11日）。
	自然保護	自然保護全国集会：新型コロナウイルスの影響で開催できず。 機関誌「木の目草の芽」の発刊：新型コロナウイルスの影響で編集作業が滞り、発刊を中止した。 講演会：新型コロナウイルスの影響で開催できず。 自然環境のデジタルデータベース：新型コロナウイルスで編集作業などが滞り、担当委員によってデータのメンテナンス作業は続行。
	群馬	自然観察会：昨年度、長野県境の湯ノ丸山で高山蝶の観察会を親子自然観察会として企画し、雨天のため中止になったものを、あらかじめ実施した。地元で高山蝶保護にあたっての外部講師を中心に、支部員10名がサポーターし、高山蝶の観察と湯ノ丸山登山を参加者と楽しんだ。当日は9歳から70歳まで、男女23人が参加し、地元紙の上毛新聞紙上でも取り上げられた。
	埼玉	自然保護活動 & 清掃登山：4月29日～30日：高尾グリーンセンター森づくり研修会 & 観察会。参加者：12名。11月28日（日）奥武蔵の大高取山で自然観察会を開催。参加者：28名
	千葉	「教育・啓発事業」：房総や近県の山をメインに植生や地形、地質の自然観察する山行を行なう。支部会員をメインに一般者も参加して年間で4回行なうた。
	東京多摩	地域内での自然観察会を実施。一般の人を募集し、自然環境に触れ親しみと癒しを楽しんでもらった。春の自然観察会 4月 12名。野鳥観察会（自然保護、野火止保全活動と合同）1月 11名 自然保護講演会「奥多摩の自然を守ろう：東京都レンジャーの話」10月 講師1名、一般7名、会員20名参加
	石川	自然観察会：中止
	静岡	自然保護のための南ア現地視察：南アルプスの静岡県エリア周辺の自然環境視察目的で4回（6月、7月、11月、112月）に入山、実施した。各回数名の参加であった。
	東海	自然観察会：猿投の森の自然観察会を毎月実施した。一般向けの自然の大切さを教育・観察する講習会。
	関西	支部HP、支部報で自然観察会としてアオハツク観察会を公募し7名参加。

# 別表 令和3年度 事業報告 (共益)

(凡例：山研＝山岳研究所運営委員会、高尾＝高尾の森づくりの会、DM＝デジタルメディア委員会、YC＝YOUTH CLUB 委員会)

事業名	支部名・委員会名	事業内容
	山行	年間計画に基づき、山行を4回実施運営した。9回は、コロナ禍(緊急事態宣言他)により中止した。 ①10月13日～17日「熊野古道伊勢路」(8名) ②11月6日「日帰りアルプスシリーズ都留アルプス」(10名) ③12月5日「年次晩餐会記念懇親山行陣馬山に集まろう」(50名) ④1月24日～27日「嬌恋スキー」(19名)
	YC	10月、WV部および一般会員(60歳未満)向けのボルダリング体験会を川崎市内のジムで実施 12月、猪熊気象予報士によるオンライン気象講習会をユースクラブ会員向けに実施 3月、WV部員を対象に、雪崩講習会を谷川岳で実施 2月、青年部員対象にアイスクライミング講習会を予定したが、外部委託した講師の体調不良により中止となった。
	支部事業	登山教室指導者養成講習会：前年度延期した講習会を2021年4月3日・4日に実施した。この講習会は公益財団法人安藤スポーツ・食文化振興財団の講演を受け20万円の補助を受けている。 「山の天気ライブ授業」の支部開催への支援：2021年11月6日・7日開催の関西支部「山の天気ライブ授業」/2022年3月26日・27日開催の千葉支部「山の天気ライブ授業」
	科学	探索山行：赤城、奥日光をフィールドとして山と高原の湖の成因を現地観察する1泊2日の山行(委員および一部委員外対象)を6月頃を目途に企画したがコロナで中止、来年度に持ち越し。 研修山行：始どの活動が中止となった委員会活動であったが、R3.11.28に17名の委員参加を得て富士山南麓のブナ巨樹と溶岩樹型、溶岩洞窟踏査を好評裡に実施。
IV-1 会員向け事業 <山行、安全講習 など>①	北海道	四季を通じて夏山登山、ハイキング、沢登り、山スキー、スノーシューなどの支部山行を実施し毎回5～25名の支部会員、会友が参加した。また、沢登り、岩登り、氷雪技術の研修を実施した。
	青森	5月1～3日：春スキー山行/八甲田山山岳スキー(参加4名) 11月20～21日：晩秋山行/八甲田山仙人岱ヒュッテ合宿(参加12名) 1月8～9日：山岳スキー研修/岩木山青森スプリングスキー場(参加10名) 6月阿闍羅山/4名、7月名久井岳/6名、10月那須茶臼岳/2名(JAC1名) 5月難岳、9月岩手山、12月晩餐登山、2月厳冬期山行はコロナにより中止 3月冬山遭難救助訓練はコロナにより中止 11月20～21日：晩秋山行/八甲田山仙人岱ヒュッテ合宿(参加12名) 1月8～9日：山岳スキー研修/岩木山青森スプリングスキー場(参加10名)
	岩手	毎月1回、月例山行を実施した。参加者数は各回、支部会員10数名。毎年、新年度4月に支部総会を開催している。今年度は出席18名、委任状提出者35名だった。
	宮城	コロナへの感染防止の観点から公募型登山教室については共益事業に切り替え月例山行として実施する事としたが、開催6回、延べ参加者数60人に留まった。また、越境する夏山登山についても中止とした。5月の積雪時登山技術講習会も中止とした。
	秋田	支部山行：6月5日(土)矢立峠。支部会員9名 会員外が9名。(古道調査下見)。9月26日(日)白木峠。支部会員12名 会員外11名。(古道調査下見)。感染防止ルールを厳守して現地集合・解散で実施した。
	山形	2022年1月21～23日の「蔵王樹氷原を滑る会」は、参加範囲を県内に限定するなどの変更を加え、実施を目指したがオミクロン株の急速な拡大時期を迎え、開催することができなかった。4月23日には月山姥ヶ岳周辺で春スキーを楽しむこととなっている。
	茨城	「四支部合同懇談会」は、令和4年11月度に変更した(群馬支部担当)総会は6月に、例会は4月、11月、1月に、開催し会員の情報交換は行なうたが、支部山行は、全て個人山行にて、実施した。

事業名	支部名 委員会名	事業内容
IV - 1 会員向け事業 <山行、安全講習 など> ②	栃木	「春山行・夏山行・秋山山行・冬山山行」他「春山山行」は、5月23日に高鈴山で実施し、6名が参加した。 「夏山山行」は、8月末に尾瀬で予定したが、コロナ禍により中止した。 「秋山山行」は、10月16日～17日那須岳で実施し、11名が参加した。 「冬山山行」は、1月23日～24日焼森山・栄蔵室で実施し、11名が参加した。 「夏山懇親会」は、尾瀬で8月開催予定であったが、コロナ禍により中止とした。 「冬山懇親会」は、北茨城で実施し、8名が参加した。 支部内組織の「ユース栃木」の活動は、7月に赤岩の滝登攀(5名)、8月に穂高岳・槍ヶ岳縦走(3名)を実施した。「マスタース倶楽部」は、9月に多気山、11月に南平山、12月に赤雪山、1月に男抱山・半蔵山、2月に矢倉山にて実施した。毎回3～5名の参加であった。 コロナ禍であったが、宿泊2回を含め支部山行を年間12回計画し、雨天延期や予定変更もあったが、ほぼ予定通り実施した。座学に加え、初級者向けの実技講習を行なった(雪山初歩2回、読図)。 例年開催の初心者・初級者を対象とした登山入門講座を今年も実施。コロナ禍のため3回に縮小。各回10人程度が参加した。
	群馬	新型コロナウイルス感染症対策を考慮した小さな山歩きを実施した。6月：巻機山、6月：焼岳、7月：真昼岳・女神岳、9月：兵の沢遊行、10月：唐松岳～五竜岳、等
	埼玉	12月：忘年山行は、会員の卒寿祝いを兼ねて実施。参加者：34名
	千葉	コロナで6月から9月にかけて中止になった山行が多かったが、感染対策を心掛けて月に5、6回のペースで活発に山行を行なった。
	東京多摩	「定例山行・平日山行」会員の多様な山行ニーズに応えるため、定例山行と平日山行を実施。 ①定例山行 / 全国の山が対象のパラエティーに富んだ山行。4回実施、延べ43名参加。中止8回 ②平日山行 / 体力に合わせた気軽に楽しめる山行。4回実施、延べ29名参加。中止7回 安全登山講習会を実施。10月「事故発生時の現地対応シミュレーション講習会」会員17名参加 中級登山教室 5回実施、延べ50名参加。中止5回
	神奈川	ヒマラヤ未踏峰への挑戦を視野に入れた各種トレーニング、および山行を実施し、若手支部員のスキル向上を図る。(国内冬季登山、人口壁、沢登り、かながわ山岳誌プロジェクトHコースによるヤブ山山行の実施等)Hコース12回分計画し、6回はコロナ禍中止。実施は、6回。(3月実施予定)。Hコース延べ参加人員(31人+3月分)・・・ヤブ山山行実施3回含むそれ以外の活動は、コロナ禍のため中止とした。
	越後	支部山行(11/7御神楽岳)、スノ-トレッキング同好会山行(4/8魚沼日向倉山、12/26米山中止、1/10弥彦山、2/20北信袴岳中止、3/13魚沼北岳)、フォトスケッチ同好会山行(2/27阿賀出角山)
	富山	「例会山行」：年5回 参加総数25名 高頭山(6/7・11名)、立山登拝道(古道調査)：室堂～天狗平(8/27・3名)、立山三山～雷鳥沢(10/5・3名)、立山駅～美女平・ブナ坂(10/24・5名)、岩峠寺～芦峠寺(11/6・3名)
	石川	年間事業計画として実施 支部員延20名参加予定・・・すべて中止 新入会員対象の雪上訓練・救助訓練・・・中止
	東海	HPを利用した山行計画の案内・募集。対象は支部員及び支部友会員。山行数：計画64(実施20)、参加者延べ119人。 支部友会活動：東海支部の登山学校を卒業し、さらなる研鑽を積もうと努力する者、また支部友だよりを通じ募集・実施・51回計画の内18回実施、参加人数はのべ73人。集合イベントは中止。
	京都・滋賀	平日例会山行、山歩会、「未知の山旅、歴史と文化の山旅、スキー例会など」を実施。毎回の参加者は支部会員・支部準会員・会友・友の会会員5～15名。
	関西	月例会：5回28名、ゆるやか山行：5回119名、六甲山を歩く：1回9名、沢登り例会：3回18名、クライミング初級・岩場トレーニング：7回42名、「雪稜シリーズ」：5回20名、通算26回、延べ236名。 「特別事業補助金」対象事業として、山の天気ライブ授業2回(座学27名実技18名)を実施。参加者延べ45名 新規リーダー育成3回22名、道迷い講習会2回26名、山のファーストエイド1回14名。通算8回、延べ107名参加。 関西支部創立90周年記念事業・90周年記念事業委員会を立ち上げ、「関西のアルプス踏査6回、57名」、「ヒマラヤ登山塾5回、110名」を実施。

事業名	支部名 委員会名	事業内容
IV - 1 会員向け事業 <山行、安全講習 など>③	山陰	5月4、5日、密を避けテント持ちで氷ノ山山行等。
	広島	安全登山講習。(指導部)支部一般会員の向けで登山技術向上のため、1月雪崩講習、3月読図講習を実施延20名が参加。その他はコロナ禍で中止。(山行部)山行形態の目的、経験、年齢等で山行部を4つのクラブに分けて、各クラブで山行を実施、自主訓練とリーダー育成を行なった。
	四国	アルパインクラブユース会員の安全意識、登山技術向上のため、サポートメンバーを選任配置し山行計画指導を継続した。
	北九州	支部定例山行を実施、登山技術の向上と会員相互の親睦を図った。当初計画では月1回の実施予定であったが、コロナ禍の中、回数等規模縮小のうえ実施した。
	熊本	年間15回以上の月例山行を実施予定。登山に関する基礎的な知識や技術の習得を図る山岳専科の実施予定であった(4回)。山岳会内のリーダーを育成し、内部の指導員を養成する指導員研修を実施予定であった(4回)。ポレポレの会(同好会)で軽登山を12回実施予定であった。
	東九州	里山低山クラブ:宇土半島九州自然歩道ウォキング他、3回実施、延べ32名参加。トレッキング同好会:高岳、6名参加。
	宮崎	支部月例山行の実施:毎月1回、参加できる支部会員が集まって計画の山に登る。登る山は年度当初の定期総会で決めリーダーは役員が交代で務める。支部会員が参集できる支部唯一の定例行事である(参加者は10名~20名)。
	神奈川	定例登山を年間16回計画したが、うち7回はコロナのため中止した。支部定例登山研究会は毎月第1木曜日・年間12回の実施を計画したが、うち5回はコロナのため中止した。
	福井	自然観察会を年2回程度、実施する。また県外での自然観察会も実施。⇒3回計画し、コロナ禍のため、1回は、中止とした。相模川観察会(相模川厚木付近14名参加)、探鳥観察会(大和市泉の森8名参加)を各1回実施。
	広島	「森づくり」4月~11月まで、第一・第三土曜日の午前中、越前町糸生の現地にて活動、森づくり敷地内の①花壇整備②草刈り③池に繁殖したガマの除去④遊歩道の整備⑤小屋造り。
IV - 2 会員向け事業 <文化・自然保護 など>	熊本	山菜(さんがく)サロンを開催(上野講師・野鳥観察)。
	山行	花を愛でる会:小岱山登山他1回実施、延べ20名参加。写真愛好会:12月21日~令和3年1月16日、わいふ一番館にて写真展開催。出展者12名、52作品、記帳者105名。
	高尾	11月14日~15日「山行委員会研修会」を実施し、年間計画の策定を行なうとともに委員各自の研鑽と委員相互のコミュニケーションの向上を図った。
	青森	高尾の森づくりの会20周年記念会:当初、2021年11月に計画していた会の「20周年を祝う会」については、コロナ感染症5波のため、2022年2月に延期したものの再び第6波のコロナ感染症拡大のため、やむなく中止した。
	宮城	12月:晩餐会(晩餐登山とし、会食ではなく登山を計画していたが、コロナにより中止)第37回東北・北海道集会(青森支部担当):コロナにより中止(担当継続)
	山形	会員等の親睦事業として実施しているビールパーティ、支部晩餐会&オークションについてはコロナ感染症防止の観点から自粛した。
	栃木	11月6~7日の支部晩餐会には13名が参加、6日に大岡山、7日に三吉山登山を実施し各10名が参加した。
	東京多摩	北関東ブロック第14回四支部合同懇談会:群馬支部主管で開催予定であったが、コロナ禍により令和4年秋季に延期となった。
	越後	奥多摩BC開きと氏神様初詣1月会員4名、家族1名、委員7名計12名参加。 支部会員交流事業の推進(新入会員歓迎会)4月参加者15名、新入会員オリエンテーション6月参加者14名)
	富山	YOUTH育成事業:当初計画した4回の登山セミナーは、コロナ禍で中止となったため各種行事(子ども登山教室や公募登山等)で指導的役割する計画も中止となった。しかし、本部YOUTHと藤島蔵書見学会や菅名岳・弥彦山への交流登山を実施して今後のきっかけを作った。
石川	「例会・忘年会」12月15日に開催。山行報告他。19名参加。	
関西	5支部懇親山行10月石川支部担当(令和2年度中止の為)・・・募集案内前に中止(令和元年度は40名参加)。 上高地山岳研究所集会・・・中止とした	
		交流の場として山行ひろばをりモートで開催(4回、延べ53名)。

事業名	支部名 委員会名	事業内容
	総務	コロナ感染防止のため説明会をオンライン会議 (Zoom) で行なう。41 名。
	DM	JAC メールサービス維持管理 (JAC 会務メールサービスおよびメールアドレス変更メールマガジン発行) 会員用ホームページ運営 (会務データの掲載、規則等の公示) YouTube や Zoom で会務の Web 配信と構築
	医療	会報「山」に山岳医療のコラムを掲載 (2021 年 11 月号 918 号に「新型コロナウイルス感染拡大のなか登山者が留意すること (橋本しをり)」、 2022 年 3 月号 922 号に「春の山でホッとひと息と息ませんかー地形療法と山歩き (村上和子)」を掲載し、啓発活動を行なった。本コラムは医療委 員会 HP にアップして広報している。
	図書	会報「山」、年報「山岳」の図書紹介欄の執筆・運営: 図書委員会では、毎月、刊行された山岳図書を調べて、紹介すべき書籍を選択している。それ ぞれの委員会と打ち合わせしながら、原稿依頼、執筆、校正などの業務を委員会で担当し、毎月の「山」、毎年の「山岳」に発表している。
	会報	毎月 20 日、会報「山」(1 色刷り、約 5,000 部印刷) を編集、発行。ページ数は経費削減のため、20 ページ以内にとどめている。また、1 月、4 月、 7 月、10 月号に「YOUTH CLUB 山」(1 色刷り、4 ページ) を同封、若手会員向けに情報提供している。
	北海道	紀行文や随想、論考などを掲載する年 1 回発行の支部報「ヌブリ」を 4 月に発行、費用は本部の運営交付金活用。また、支部山行や集会など日々の 支部活動の告知、報告等を掲載する「支部通信」を 5 回発行。
	青森	4 月: 支部会報発行
	岩手	支部報「岩手支部通信」第 54 号 (年 1 回) を発行した。費用は支部会費及び本部からの活動助成金によった。
	宮城	宮城支部の情報誌として発行している「宮城山岳通信」は、事業自粛もあり年 4 回の発行となった。年 1 回の機関誌「宮城山岳」の発 光は計画通り行なった。
IV - 4	秋田	支部報「秋田山岳」を年 3 回発行。費用は支部会費及び本部運営交付金による。
会員向け事業	山形	支部報は 4 月に発行
< 情報発信 > ①	福島	支部報「秋田山岳」を年 3 回発行。
	茨城	年 1 回の支部報の発行は行ない、個人山行や会員相互の情報交換など記載。
	群馬	支部報を年間 3 号発行した
	埼玉	年 3 回の支部報発行。HP 閲覧を推奨し、支部報の郵送費削減を実施。
	千葉	「千葉支部だより」を年 4 回発行した
	東京多摩	「会報たま」作成 年 4 回 (5 月、8 月、11 月、2 月) 及び『メルマガたま通信』の配信 (毎週水曜日)
	神奈川	年間 4 回程度、支部報を発行 (pdf 版) し、支部会員に対してイベント参加を募集したり、山行などの活動報告について共有化した。(4 月、7 月、1 月に発行済 ... コロナ禍のため 10 月は発行中止)
	越後	広報誌「越後支部報」を年 3 回発行し、関連団体に支部活動の情報発信を行なった。
	富山	支部会報を年 2 回発行 (116 号 10/19、117 号 3/16)。
	石川	支部報を年 2 回発行 (3 月・9 月)。
	山梨	支部機関誌『甲斐山岳』13 号を 200 部発行し、県内図書館ほか関係先にも配布した。
	京都・滋賀	会員交流と情報提供として「支部だより」を年 4 回発行。
	山陰	創立 70 周年記念誌「雲伯百山」の出版準備を実施。石川支部ホームページ管理維持にて一般へ広報
	広島	広島支部報『JAC Hiroshima』(年 4 回 季刊) を発行。配布方法はメール配信 山岳図書及び資料の閲覧、貸し出しを実施 (H26/4 月以降)。蔵書約 1600 冊

事業名	支部名 委員会名	事業内容
IV - 4 会員向け事業 <情報発信>②	四国	年間活動記録である支部報「四国山岳（第8号）」を年1回発行。
	福岡	支部報 No.34 発行。年1回3月に発行。支部の山岳研究誌として価値あるものを目指している。
	北九州	支部報 No.34 を発行（年1回、3月）。支部の山岳研究誌として価値あるものを目指している。
	熊本	支部報を3回発行し支部活動の報告や情報提供、会員の登山報告等を行なった。支部通信を12回発行。
	総務	年次晩餐会：令和3年年次晩餐会はコロナ禍で中止。12月2日（木）～10日（金）に理事会の主催で「晩餐会ウィーク」を行なう。Zoomを利用したオンライン講演会を中心に溝手弁護士ら十数人に講演をいただき延べカウント数は662だった（3月14日時点でのYouTube再生回数は2312回）。なお、4日は日本外国特派員協会での秩父宮記念山岳賞の授賞式を行なって配信。5日は陣馬山での記念集中山行（山行委員会主催）で、グッズ販売などを行なった。 グッズ販売：12月に日本山岳会のマーク入りのシューズバッグを作成。また、「山岳」など書籍の販売も開始した。 新入会員オリエンテーション：9月4日（土）会員番号166671～16815、A0346～A0397の199名を対象とし、コロナ禍のためオンラインで開催した。 参加者36名。関係者の参加26名。 同好会連絡会議：10月18日（月）国立オリンピック記念青少年総合センターで行なう。16同好会が参加。 例会：月1回実施（オンライン会議）
	DM	諸委員会、支部、同好会、および登山計画書対応メンバーリングリスト運営
	遭難対策	「登山計画書提出及び事故連絡システム」運用 登山計画書提出システム及び事故発生時情報共有システムを管理・運用した。
	山研運営	毎月の委員会開催、さんげんブログの運営。
	支部事業	特別事業補助金の募集・審査：「2021年度特別事業補助金」の申請を受け付け審査の結果を理事会に報告し承認をうけ補助金を交付する。 「5年後の各支部の運営」をキーワードとしたアンケートの実施：全支部から回答まとめ結果を今後の委員会運営に生かしたい。
	家族登山普及 国際	各支部と連携し全国の本部としての機能を果たす / 支部の家族登山事業とネットワーク作りを行なう→コロナの為、実施できていない 毎月の委員会開催
図書	図書委員会の充実：昨年度は1度も全員が集まれる図書委員会を開くことができず、リアルとZOOMの併用となった。	
IV - 5 会員向け事業 <運営>①	資料映像	資料管理システム改善：資料整理、デジタルアルアーカイブ作成に活用するため、古くなっていったデータ管理パソコンを最新のスペックを持つ機種に更新して102号室に配置した。R2で購入したスキナーとあわせて、収蔵資料のデジタルアーカイブ作成に活用している。 アーカイブ映画会支援・委員会運営：コロナ禍で映画会等の事業がほとんど行なわれなかつたため、支援事業はなかつた。 月例委員会は、すべてZoomによるリモート開催とした。最初はリモート会議に慣れずトラブルもあったが、後半では順調に運営出来た。ただ、委員会と作業を同日に行なうことが出来ないため別日作業日と別日作業日とを設けたが、委員の参加数は少なかつた。R4の委員会運営としては、対面とリモート双方を取り入れたハイブリッド形式で進めていきたい。
	国土 地理院	令和4年1月20日の支部連絡会議において、国土地理院訪問と今後の国土地理院地形図における麓道と登山道変化の情報提供について協力方、案内した。
	青森	5月15日：支部総会開催（本人参加16名、委任状参加14名/41名開催時会員数）
	秋田	支部総会は年1回。令和3年度は書面表決。役員会は年2回。事務局会議は6回。
	山形	総会は4月に年1回。役員会は年3回実施。
	福島	支部専門部活性化：支部長以下支部役員会（12名）中心の専門部会合を年2回開催。
	群馬	隔月開催の例会は予定通り実施したが、コロナ禍のためZOOMによるリモート開催がメインとなった。参加者は各回20人前後。例会開催月の間に同じく隔月で開催する役員会も予定通り行なったが、ZOOM開催がメインとなった。通常総会（5月）はZOOMによる開催となった。
	埼玉	4月10日（日）、3年ぶりの総会を開催。

事業名	支部名 委員会名	事業内容
IV - 5 会員向け事業 <運営>②	千葉	5月に支部総会を予定したが、コロナで開催できず、郵送により議決を行なった。 年に1回支部総会を開催。コロナ禍のため、総会後の親睦会、忘年会、新年会は中止とした。
	神奈川	5/22新潟市万代市民会館で支部総会を実施（参加者36名と委任状105名で82.4%）。総会終了後の記念講演や翌日の親睦登山は、コロナ禍により中止とした。
	越後	支部役員会を2回（5/22、12/11）と委員長会議を3回（6/26、10/2、3/5）実施した。 例年12月第2土曜日の支部晩餐会と記念講演も、コロナ禍により中止とした。
	富山	支部総会は4月21日（19名参加）。
	東海	委員会協力。上高地山岳研究所敷地内の支障木を除伐した。
	総務	説明会のzoomでの継続。入会申込みアンケートの管理と支部への連絡
	DM	入会案内及び入会申し込み書式等のウェブサイトに掲載 ウェブサイト、FBはじめSNSを利用して諸行事や活動の紹介、及びイベント案内掲載 オンラインJAC動画編集制作、YouTube公開（委員によるポランティアワーク）
	山行	様々な機会を通じて、JACの素晴らしさ、当委員会の山行の楽しさをアピールして会員の勧誘に努めている。山行への非会員の応募者に対しては入会を促して参加するようにしている。
	YC	会員向けの講習会やオンライン講演会などを実施し、ユースメンバーの積極的参加をうながした。 学生部向けの講習等を通じて、卒業後の入会へのきっかけづくりをはかった。
	遭難対策	セミナー、講習会において参加者に日本山岳会の紹介を予定していた。
	山研運営	山研を利用・訪問された非会員等にJAC入会をPRした。
	自然保護	講演会を開催できなかったため、活動できなかった。
	家族登山普及	サイト、登山教室を通じて家族登山の情報提供をし、安全に登山を行ないたい会員（親）の増加に繋げる→コロナの為、実施できていない
	V 会員増加への取り組み①	科学
図書		図書室の充実をもっと外に向けてアピールする。まず主要な図書館めぐりをして、JACを積極的にアピールするところから始める。
山岳		委員会として積極的に会員増加に取り組むことは難しいが、なるべく現在の若年層の会員の原稿は取り上げていきたいと思っている。
会報		会報を新入会員獲得のためのツールとして活用できるよう、一般登山者の目も意識した紙面づくりを心掛けていく。また、「YC山」を年4回発行、若手会員の活動を紹介して、入会希望者にJACの活動内容をアピールしている。
資料映像		コロナ禍で具体的な事業がなかったため、会で所蔵する貴重な資料について会内外へ紹介し会の魅力を発信することがほとんど出来なかった。 開催した全国山岳博物館等連絡会議で、参加館へのPRを行なった。 収蔵資料のデジタルアーカイブ化を促進した。今後はアーカイブ化を進め、netを通じて広く会の魅力をアピールしていきたい。 会のデジタルミュージアムをオープンする構想を提案したので、この活動を介して会の魅力や価値を広くアピールし、会員増加につなげていきたい。
山の日		「山の日」関連イベント、全国山の日協議会」のHP連載を通してのJACへの入会勧誘
高尾		高尾の森づくりの会員で、日本山岳会会員は1割程度である。高尾の森づくりの会の会員数は170名、法人会員13社で、会員の高齢化に伴い会員数の減少問題に直面している。若い新入会員はあったものの会員は年間で減少した。
北海道		支部山行への体験的参加者に入会を勧誘するなどして新規会員獲得につとめたほか、フェイスタックによる支部活動の外部へアピールや支部会友の会員化にも取り組み、新規の会員、準会員の会員12名が入会した。※会員数は準会員含む。会員数162名（4/1）
青森		太平洋山開き市民登山の参加者に入会を勧めている。個人山行時にも声を掛けるようにしている。

事業名	支部分会名	事業内容
V 会員増加への取り組み②	岩手	会員増加への支部の取り組み：公開講座や月例山行、登山技術指導などを通して勧誘した。また地域の民放ラジオ番組(いわての山トレッキングガイド)や地元新聞、情報誌への連載を通して日本山岳岩手支部のPR活動を進めている。会員数62。新入会員1。
	宮城	「支部友」制度や、登山教室の開催などにより、会員増のための取り組みを行なっているが、一向に新入会員は無く、逆に、会員減が続いており、支部の存続自体が危ぶまれる事態が近づいてきている。
	秋田	太平洋山開き市民登山の参加者に入会を勧めている。個人山行時にも声を掛けるようにしている。
	山形	会員募集パンフレットの作成と配布。ホームページの公開。「学校から見える山」展望図の全体を地元新聞に掲載してもらい、支部活動の宣伝を行なった。会員数47。新入会員数2。
	福島	フリークライミング講習会、親子登山、公募登山等の参加者に入会の働きかけを行なったが入会者は1名のみであった。会員数56。新入会員数1。
	茨城	コロナ禍の現状で、退会者が3名あったが、現状は23名、今後は各会員の意識向上と活動を続けて会員増を目指していく。
	栃木	今年度新入会員1名が支部会員として新たに登録された。物故者もあり、会員数増加にはなっていない。支部会費は年間3千円。家族会員に対しては内1名の支部会費を免除している。会員数46。新入会員数2。
	群馬	家族会員も含めた会員の人間関係による入会とインターネットからの入会がほぼ同数になってきた。イベントでの入会は、コロナ禍でイベント開催が激減しているため1人にとどまったが、コロナ収束を期待したい。近年の傾向であるインターネットによる入会誘導を軸に、各種マスコミへの露出、イベントでの勧誘などにも引き続き力を入れたい。会員数60。新入会員数5。
	埼玉	埼玉やま塾の開催に伴う入会者と問合せによる入会者の相乗効果が約2歳若返りました。会員数148。新入会員数23
	千葉	デジタルメディア委員会の協力を得てホームページを刷新。支部への問い合わせが増えた。会友へJAC会員へなるように勧めている。新規入会者向けにOJTによる登山教育を行なっている。会員数95。新入会員数1
	神奈川	かながわ山岳誌PJT山行からの獲得。支部会員からの推薦活動。会員数144、新入会員0。他支部からは、1名転入
	越後	公募登山や登山セミナーが全て中止となり、入会勧誘の機会がなく痛手となった。弥彦山整備活動や支部山行に協力参加した一般参加者から、入会に前向きでも入会金(2万円)で尻込みされることが多い。会員数168、新入会員4。
	富山	例会山行、例会へ会員以外にも参加のよびかけや、入会勧誘を行なった。会員数60、新入会員1。
	石川	毎月1度の集会(登山報告や写真を映写)を実施、紹介者などには本会の説明会とした。会友制度があり会友から会員へ入会を推奨。令和3年度は1名が入会。新入会員本人への助成金制度を実施し、対象者2名に補助をした。
	静岡	ハイキングセミナーを通じて入会を促した(それによって2名が入会)。他に紹介によって2名が入会。4名とも準会員。
	東海	支部友会、青年部非支部員、東海ユース非支部員から正会員の移行の促進。40歳以下の本会入会には入会金の助成。
	京都・滋賀	支部の「友の会」、「登山教室」などで活動した一般人で、一定程度の登山力量などが認められる者に対して、日本山岳会員への加入を勧めた。京都・滋賀の学生登山団体・グループなどの支援を通じて日本山岳会への入会を勧めた。
	関西	支部会友から準会員への勧誘を図った。登山教室受講者へ入会を働きかけた。会員数推移、年齢別会員数分布を全役員で確認・共有し、会員獲得意識を高めた。
	山陰	各会員が個別に勧誘。
	広島	登山振興委員会による対外活動強化で、新入準会員の獲得増を図る。青年会員のための会費減免規程を継続。支部準会員の支部活動および講習等への参加を促し、正会員への移行を促進。支部ホームページの見直しと充実での対外アピール。
四国	定例山行などあらゆる機会を捉え、入会を勧誘した。今年度は2名の新入会員を得た。	
福岡	公益事業による交流と勧誘。	
北九州	指導員研修への参加者が入会。受講生は研修を終了すると会員になる規程なので支部友に受講してもらおうことで会員を増やす。 月例山行参加率の高い支部友に入会を勧める(これにより財政面も解決)。山岳専科についてはホームページによる一般募集を行なうとともに入会を勧める。	

事業名	支部名 委員会名	事業内容
V 会員増加への取り 組み③	熊本 東九州 宮崎	登山教室や研修会・写真展等にて会員募集の勧誘をすると共に入会案内を郵送。まず会友の募集勧誘を行ない、その後、会員への移行を勧める。支部行事の他、前同好会等の活動の中で、会員のニーズに応えようと共に参加機会を増やし会員・会友の増加を図る。 登山入門教室や青少年体験登山大会の参加者等に会員・会友への勧誘を実施。日常の登山活動でも勧誘を進めている。 公募によるとぎめき家族登山等の支部行事を通じて、会員・準会員の獲得に努力した。会友の中からも入会を勧めた。

## 第2号議案 令和3年度決算報告（案）承認の件

### 決算概要

令和3年度においても、新型コロナウイルス感染症に対応して緊急事態宣言及びまんえん防止等重点措置が繰り返され、感染防止の観点から登山活動や大規模集会の自粛等、本会の事業活動は引続いて非常に厳しい制約を課された。従来から継続して会員増強策を推進したが、当年度も入会者はあるが退会者も多く、会員数減少に歯止めはかからなかった。事業活動が思うように進められない環境の中、事業費は前年度を更に下回る結果であったが、平成28年度以来の赤字決算となった。

I 一般正味財産増減の部については、経常収益合計が65,561千円で、対前年度比19,213千円、22.7%減少した。経常費用合計は70,841千円となり、対前年度比6,188千円、8.0%減少した。この結果、当期経常増減額（経常利益）及び最終損益である当期一般正味財産増減額（当期利益）は5,279千円の損失計上となり、前年度より13,024千円の悪化となった（令和2年度は7,744千円の正味財産増加（黒字額））。

II 指定正味財産増減の部には、公益法人会計基準注解 注6の規定により、寄附者により用途が指定されている寄附金（山岳古道調査募金等）を2,500千円計上している。また、令和3年度に発生した120周年記念事業関連費用等に充てるため一般正味財産へ1,495千円と、基金として保有する預金利息1千円を振替額（減額）として計上し、当期指定正味財産増減額は1,004千円の増加となった。結果として、これら2部を合わせた正味財産増減額は4,275千円の赤字となった。

#### 収益の5年間の推移

（単位：千円）

	令和3年度	令和2年度	令和元年度	平成30年度	平成29年度
会費・入会金	49,639	50,294	52,636	53,848	55,625
事業収益	2,960	2,934	16,448	14,600	18,018
寄附金等	9,790	20,103	10,297	13,325	19,291
120周年記念事業関連収入	-	4,000	-	-	-
その他収入	5,671	8,155	9,519	6,064	6,458
	68,060	85,486	88,900	87,837	99,392

※寄附金等には受取寄附金振替額を除きII指定正味財産増減の部の寄附金収入を含めている。

#### 収益の推移

本会の令和3年度の経常収益合計額は65,561千円となり、対前年度比19,213千円、22.7%の大幅減少となった。

**会費・入会金**について、会員数の動向はここ数年一貫して減少傾向を示しており、令和3年度においても引続きコロナ禍の影響が減少傾向にさらに拍車をかけている。支部での登山講習会等の中止が相次ぎ新たな入会の機会が大幅に減っている。正会員については、退会者が入会者を大きく上回る傾向は継続しており、当年度における正会員数の純減（増加数と減少数を差引）は100名であった。準会員については毎年100名近くが安定的に入会していたが、昨年度・当年度は減少している。以上により、受取会費は46,759千円となり、対前年度比965千円、2.0%の減少、会費と入会金の合計額についても49,639千円で対前年度比655千円、1.3%の減少となった。

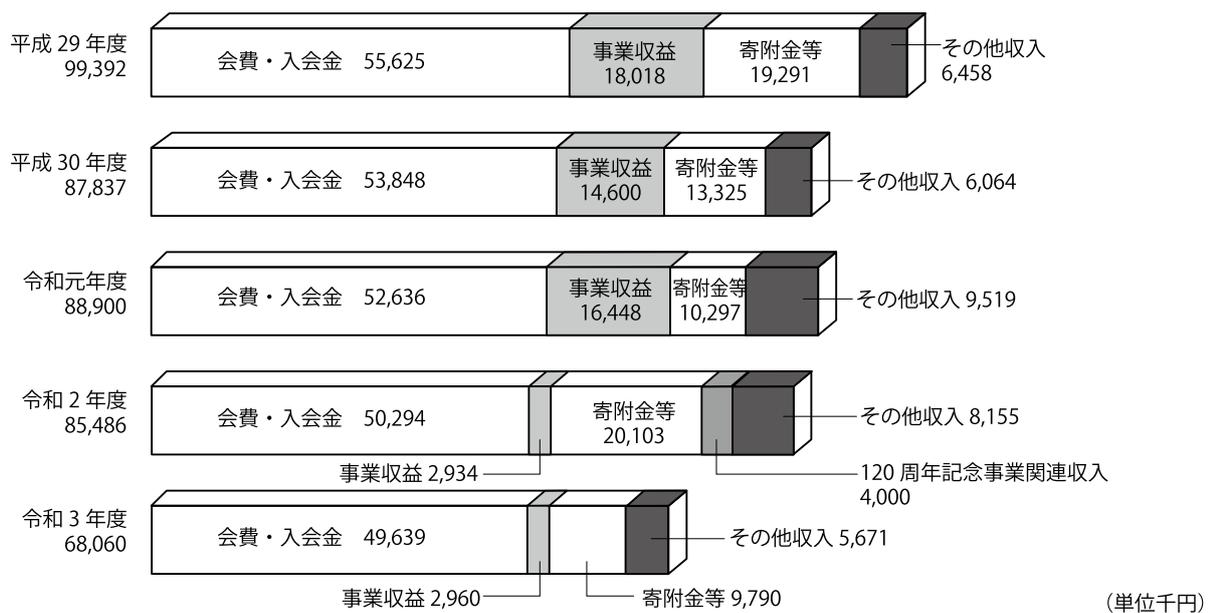
**事業収益**は、合計で2,960千円となり、対前年度比25千円、0.8%増とほとんど同額であった。

前期、当期とも年次晩餐会の中止、支部での登山講習会等の中止と同様の状況であり、新型コロナウイルス感染防止のため山研利用者も同じような水準に留まったこと（令和2年度 267名、令和3年度 291名）による。

**寄附金等**については、補助金等が880千円で、対前年度比131千円増加した。寄附金は指定正味財産増減の部に計上されているものを合わせても8,910千円で、対前年度比12,154千円、57.7%の大幅な減少となった。柱であった会員寄附金が減少し、昨年度は多額であった個人からの寄附も低調であった。法人からの寄付が若干増えたものの、結果として当年度は9,790千円、対前年度比10,313千円、51.3%の減少となった。

**その他収入**の内訳は、支部開催行事参加費や保険取扱手数料収入等雑多なものが含まれるが、当年度は合計額で5,668千円となり、対前年度比5,480千円、49.2%の大幅減となった。この要因は120周年事業として実施したグレート・ヒマラヤ・トラバースの参加者負担金3,000千円がないこと、新型コロナウイルス感染症予防対策に係る雇用調整助成金収入が1,177千円減の1,143千円、日本山岳会会員名簿販売収入が855千円減の241千円になったことによるものである。支部行事負担金は、今期も同様に全国で行事中止が相次ぎ当年度は128千円減少の3,723千円であった。

収入の5年間推移



## 事業費と管理費の推移

事業費と管理費については、総額で70,841千円となり、対前年度比6,188千円、8.0%の減少となっている。冒頭に説明のとおり令和3年度もコロナ禍により支部・委員会とも事業実施に制約を受け、公益事業については事業の中止・縮小が発生している。120周年記念事業についても海外往來を含む事業については再度の延期を余儀なくされている。

事業費について、費目別には昨年度大きく減少した会議費及び旅費交通費は本年も少ないままであった。これは月例会や催行等の中止が続いていることがその主因である。

事業費は「公益法人会計基準運用指針」に例示された科目により表示しているが、事業ごとの成果を明らかにするため、ここでは本会で管理のために利用している事業区分に従って説明する。

	(単位千円)	
	令和3年度	令和2年度
出版事業費	13,051	13,761
図書管理事業費	5,667	5,664
支部事業費	15,092	14,378
高尾の森づくり事業費	2,003	2,004
YOUTH CLUB事業費	1,058	1,023
山岳研究所等事業費	7,205	6,727
120周年記念事業	1,118	6,091
その他事業費	3,739	4,042
事業管理費	17,831	19,117
管理費	4,072	4,219
合計	70,841	77,030

**出版事業費**は、13,051千円となり、対前年度比710千円、5.2%の減少となった。印刷コスト(印刷製本費)の上昇は高止まり感はあるが当期は一服している。

**図書管理事業費**は、図書委員会の活動費と本会の有する山岳図書館の管理費用からなっており、経費節減に努め、当年度は5,667千円となり前年度比3千円と横ばいであった。

**支部事業費**は、各支部に交付した運営交付金及び支部事業助成金5,880千円と新入会員獲得奨励金584千円、特別事業補助金等980千円を原資の一部とする支部の活動費用である。当年度は、15,092千円となり、対前年度比714千円、5.0%の増加となった。コロナ禍により中止・縮小を継続していた支部事業が一部の地域で再開できたことによるものである。

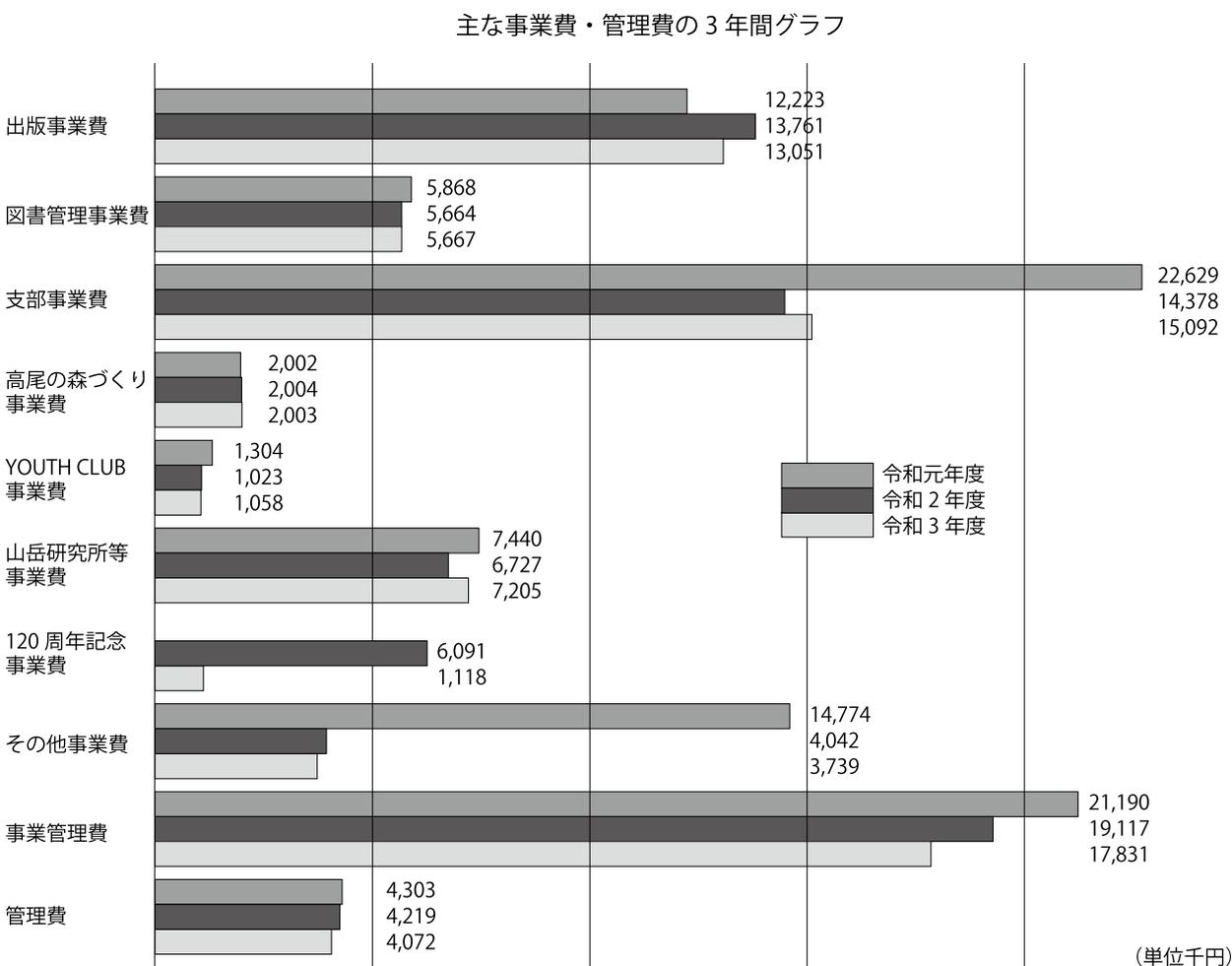
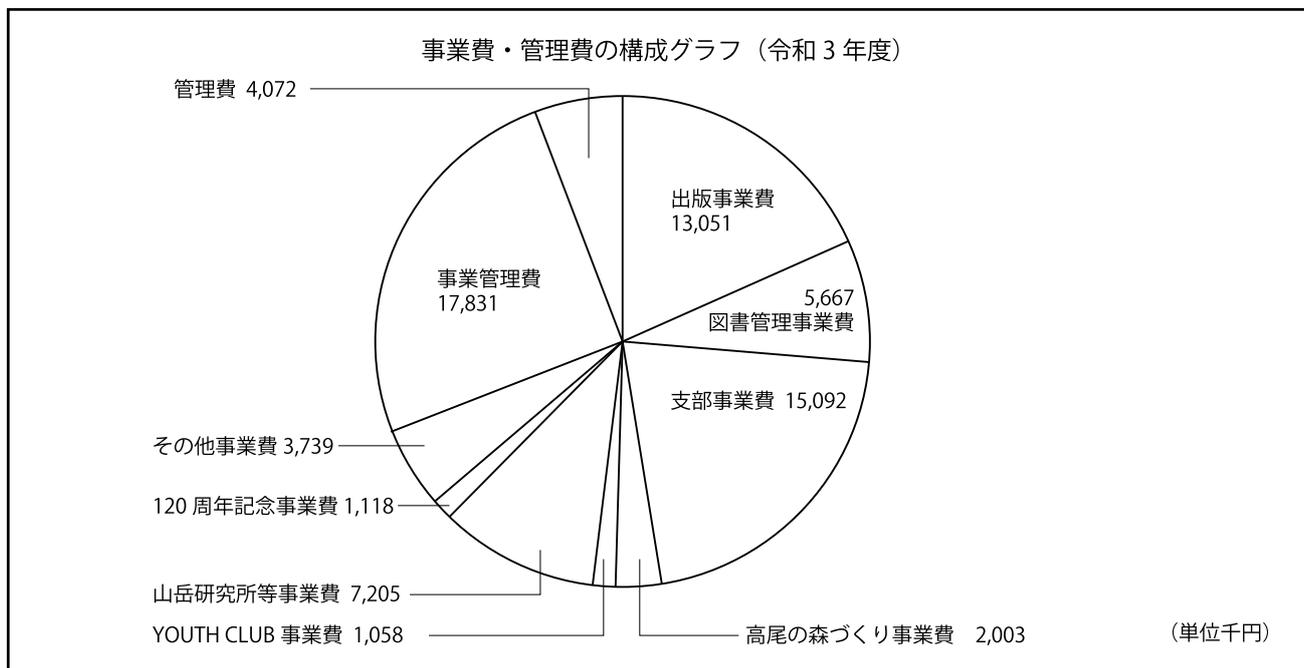
**山岳研究所等事業費**(ミニ水力発電事業費含む)は、当年度は7,205千円、前年度比478千円、7.1%の増加となった。上高地山岳研究所は新型コロナウイルス感染症予防の観点から密を避けるべく利用者の制限を行ったが、建物設備の減価償却費、修繕費等の発生は通年と同様であり、運営コストは変動費部分の減少のみであった。

一昨年度から120周年記念事業がスタートしているが、当年度においてはグレート・ヒマラヤ・トラバース、ヒマラヤキャンプといった海外関係の行事が延期を余儀なくされ、実施できたのはエベレスト登頂50周年記念フォーラムに留まった。この事業費用が**120周年記念事業費**として1,118千円計上されている。

その他の事業費については、**高尾の森づくり事業費**が2,003千円、**YOUTH CLUB事業費**が1,058千円と対前年度比横ばいとなった。**その他事業費**は本年度も年次晩餐会の中止により開催費用が発生せず、一方で資料・映像委員会やデジタルメディア委員会等の行う調査研究事業の支出は423千円増加している。その他事業費全体では3,739千円となり、対前年度比303千円、7.5%の減少となった。

**事業管理費及び管理費**(間接費)は、本部事務所の維持費用及び人件費、通信費、支払手数料

等である。これらについては全般的な経費節減に努め合計で 21,903 千円、対前年度 1,433 千円、6.1%の減少となった。緊急事態宣言時の本部ルームの閉鎖やその後の利用制限継続による変動費の減少がその要因である。



## 貸借対照表の説明

令和4年3月末現在の貸借対照表において、**現金及び預金**は44,443千円となり、対前年度比で11,319千円、20.3%の減少、**流動資産合計**では51,814千円となり、10,164千円、16.4%減少している。これは運転資金としての振替貯金が9,315千円減少したこと等によるものである。

固定資産について、**基本財産**は8,000千円で変動はない。

特定資産である**秩父宮記念基金**（15,200千円）は、本会の秩父宮記念山岳賞の顕彰賞金を支給するための基金である。**海外登山基金**（14,289千円）は、今後の海外登山等の助成金及び120周年記念事業の海外登山の助成金を対象として留保された資金である。**遭難防止事業基金**（10,000千円）を含めて当年度の変動はない。**長期計画準備金**（36,512千円）は、上高地山岳研究所の修繕費用又は再建費用として留保している資金である。昨今の建築資材等の値上がりを考慮して積増しを行っている。**退職給付引当資産**は職員への退職金支給に備えるための預金で、当年度は要支給額の増加に伴い380千円を繰り入れている。また、**高頭仁兵衛翁寿像碑修復特定資産**は本年度その目的を達して取崩した。指定寄付金を受け120周年記念事業特定資産として3,090千円を組み入れた。その他指定寄付を受けた4件の組み入れ、実施した事業に対応して3件の特定資産の一部または全部の取り崩しを行っている。以上の結果、**特定資産合計**は、90,844千円となり、対前年度比10,826千円、13.5%増加した。

**その他固定資産**は什器備品が135千円増加したのみで、減少は減価償却費の4,293千円である。

この結果、**固定資産合計**は234,077千円となり、特定資産の増加を反映し対前年度比で6,668千円、2.9%増加したが、**資産合計**は285,892千円となり、対前年度比3,495千円、1.2%の減少となった。

負債については、会報印刷、発送費等の**未払金**が1,045千円、対前年度比20千円、2.0%の増加、**前受金**は会費前受分で180千円、対前年度比32千円、15.1%の減少、源泉所得税や次年度支出等の**預り金**が対前年度比で411千円、22.6%増加し2,228千円となった。これに職員の**退職給付引当金**7,749千円（対前年度比380千円増加）を加えた**負債合計**は11,203千円、対前年度比779千円、7.5%の増加となった。

以上の結果、当年度末の**正味財産合計額**は、274,689千円となり、対前年度比で4,275千円、1.5%の減少となった。

（注1：表示方法について）

決算概要において、数値の記載は表示単位未満を切り捨て、比率の記載は表示単位未満を四捨五入して表示している。

## 貸借対照表(案)

令和4年3月31日現在

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
<b>I 資産の部</b>			
<b>1. 流動資産</b>			
現金及び預金	44,443,109	55,762,408	△ 11,319,299
未収会費	2,976,000	2,640,000	336,000
貯蔵品	539,990	679,347	△ 139,357
前払金	141,898	0	141,898
仮払金	3,713,902	2,897,574	816,328
流動資産合計	51,814,899	61,979,329	△ 10,164,430
<b>2. 固定資産</b>			
<b>(1) 基本財産</b>			
定期預金	8,000,000	8,000,000	0
基本財産合計	8,000,000	8,000,000	0
<b>(2) 特定資産</b>			
秩父宮記念基金	15,200,000	15,200,000	0
海外登山基金	14,289,792	14,289,792	0
遭難防止事業基	10,000,000	10,000,000	0
長期計画準備金	36,512,491	29,160,206	7,352,285
退職給付引当資産	7,749,743	7,369,698	380,045
120周年記念事業特定資産	3,090,000	0	3,090,000
生物保護特定資産	300,000	0	300,000
森林保全特定資産	300,000	0	300,000
古道調査特定資産	300,000	0	300,000
図書管理特定資産	0	132,000	△ 132,000
施設整備特定資	1,784,452	1,784,452	0
YOUTH CLUB活動特定資産	500,000	400,000	100,000
くじゅう山遭難碑維持管理特定資産	317,937	328,484	△ 10,547
坂口三郎基金	500,000	0	500,000
高頭仁兵衛翁寿像碑修復特定資産	0	1,353,000	△ 1,353,000
特定資産合計	90,844,415	80,017,632	10,826,783
<b>(3) その他固定資産</b>			
土地	90,546,120	90,546,120	0
建物	36,442,296	38,946,493	△ 2,504,197
建物附属設備	6,176,255	7,523,793	△ 1,347,538
什器備品	1,111,278	1,272,115	△ 160,837
機械装置	152,669	190,837	△ 38,168
水道施設利用権	804,934	912,134	△ 107,200
その他固定資産合計	135,233,552	139,391,492	△ 4,157,940
固定資産合計	234,077,967	227,409,124	6,668,843
資産合計	285,892,866	289,388,453	△ 3,495,587
<b>II 負債の部</b>			
<b>1. 流動負債</b>			
未払金	1,045,625	1,024,987	20,638
前受金	180,000	212,000	△ 32,000
預り金	2,228,048	1,816,888	411,160
流動負債合計	3,453,673	3,053,875	399,798
<b>2. 固定負債</b>			
退職給与引当金	7,749,743	7,369,698	380,045
固定負債合計	7,749,743	7,369,698	380,045
負債合計	11,203,416	10,423,573	779,843
<b>III 正味財産の部</b>			
<b>1. 指定正味財産</b>			
寄付金	39,972,382	38,967,932	1,004,450
指定正味財産合計	39,972,382	38,967,932	1,004,450
（うち基本財産への充当額）	8,000,000	8,000,000	0
（うち特定資産への充当額）	33,962,385	30,897,936	3,064,449
<b>2. 一般正味財産</b>	234,717,068	239,996,948	△ 5,279,880
（うち特定資産への充当額）	49,132,287	41,749,998	7,382,289
正味財産合計	274,689,450	278,964,880	△ 4,275,430
負債及び正味財産合計	285,892,866	289,388,453	△ 3,495,587

## 正味財産増減計算書(案)

令和3年4月1日から令和4年3月31日まで

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益			
基本財産受取利息振替額	429	637	△ 208
特定資産運用益			
特定資産受取利息	1,667	2,860	△ 1,193
特定資産受取利息振替額	506	1,918	△ 1,412
受取入会金			
受取入会金	2,575,000	2,300,000	275,000
準会員入会金	305,000	270,000	35,000
受取会費			
通常会費	45,451,300	46,170,700	△ 719,400
終身会費	44,000	93,600	△ 49,600
準会員会費	1,264,500	1,460,500	△ 196,000
事業収益			
広告料収益	781,260	600,000	181,260
印税収益	103,490	337,472	△ 233,982
刊行物売上収益	87,375	62,140	25,235
山研使用料収益	891,101	900,810	△ 9,709
登山講習会収益	515,000	407,500	107,500
その他事業収益	582,000	627,000	△ 45,000
受取補助金等			
受取地方公共団体補助金等	840,136	748,410	91,726
受取民間助成金	40,000	0	40,000
受取寄附金			
受取寄附金	53,897	10,290,000	△ 10,236,103
募金収益	0	651,000	△ 651,000
会員寄附金	1,160,694	4,488,164	△ 3,327,470
受取法人寄附金	3,700,000	2,503,102	1,196,898
受取寄附金振替額	1,495,550	1,709,550	△ 214,000
雑収益			
受取利息	424	1,303	△ 879
支部行事負担金	3,723,457	3,851,908	△ 128,451
120周年事業個人負担金	0	3,000,000	△ 3,000,000
雇用調整助成金収入	1,143,674	2,321,006	△ 1,177,332
会員名簿販売収入	241,000	1,096,000	△ 855,000
雑収益	560,220	879,397	△ 319,177
経常収益計	<b>65,561,680</b>	<b>84,774,977</b>	△ 19,213,297
(2) 経常費用			
事業費			
給料手当	10,777,646	10,979,603	△ 201,957
通勤手当	112,168	101,168	11,000
臨時雇賃金	111,090	87,000	24,090
退職給付費用	344,321	343,415	906
福利厚生費	2,102,430	2,084,982	17,448
旅費交通費	2,088,445	2,797,595	△ 709,150
通信運搬費	7,951,022	8,070,669	△ 119,647
会議費	2,419,006	2,213,418	205,588
什器備品費	1,020,462	1,303,816	△ 283,354
消耗品費	2,169,616	4,894,334	△ 2,724,718
修繕費	0	169,400	△ 169,400
印刷製本費	10,969,570	13,145,882	△ 2,176,312
燃料費	45,321	29,221	16,100
光熱水料費	1,113,601	947,493	166,108
電話料	282,559	292,121	△ 9,562
賃借料	81,192	80,680	512
保険料	531,580	899,779	△ 368,199
租税公課	841,271	844,655	△ 3,384
諸謝金	2,294,018	823,472	1,470,546
負担金	311,880	223,430	88,450
支払手数料	7,594,146	10,076,895	△ 2,482,749
販売品購入費	487,018	617,899	△ 130,881

(次頁に続く)

(前頁より)			(単位:円)
科 目	当年度	前年度	増 減
建物減価償却費	2,443,239	2,443,239	0
建物附属設備減価償却費	1,344,689	1,405,273	△ 60,584
什器備品減価償却費	287,196	257,275	29,921
機械装置減価償却費	38,168	119,283	△ 81,115
水道施設利用権減価償却費	107,200	107,200	0
支部助成費	0	0	0
海外登山費用	0	0	0
海外登山助成金	300,000	0	300,000
事務所管理費	1,957,118	1,968,906	△ 11,788
その他管理費	380,415	480,767	△ 100,352
雑費	6,262,850	5,002,208	1,260,642
事業費計	66,769,237	72,811,078	△ 6,041,841
(2) 経常費用			
管理費			
給料手当	3,061,107	3,149,813	△ 88,706
通勤手当	55,472	55,472	0
退職給付費用	35,724	35,630	94
福利厚生費	190,584	188,756	1,828
旅費交通費	1,080	16,675	△ 15,595
通信運搬費	94,268	86,514	7,754
会議費	11,366	19,727	△ 8,361
什器備品費	5,529	10,440	△ 4,911
消耗品費	20,589	31,583	△ 10,994
印刷製本費	43,857	42,481	1,376
光熱水料費	27,709	25,171	2,538
電話料	18,035	18,645	△ 610
保険料	10,670	9,212	1,458
租税公課	38,679	38,895	△ 216
負担金	4,800	3,000	1,800
支払手数料	189,138	219,192	△ 30,054
建物減価償却費	60,958	60,958	0
建物附属設備減価償却費	2,849	2,849	0
什器備品減価償却費	8,721	8,721	0
事務所管理費	124,922	125,674	△ 752
その他管理費	24,281	30,687	△ 6,406
雑費	41,985	39,333	2,652
管理費計	4,072,323	4,219,428	△ 147,105
経常費用計	70,841,560	77,030,506	△ 6,188,946
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 5,279,880	7,744,471	△ 13,024,351
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	△ 5,279,880	7,744,471	△ 13,024,351
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△ 5,279,880	7,744,471	△ 13,024,351
一般正味財産期首残高	239,996,948	232,252,477	7,744,471
一般正味財産期末残高	234,717,068	239,996,948	△ 5,279,880
II 指定正味財産増減の部			
受取寄附金	1,000,000	160,000	840,000
会員寄附金	600,000	1,263,000	△ 663,000
受取法人寄付金	900,000	0	900,000
基本財産受取利息	429	637	△ 208
特定資産受取利息	506	1,918	△ 1,412
一般正味財産への振替額	△ 1,496,485	△ 1,712,105	215,620
当期指定正味財産増減額	1,004,450	△ 286,550	1,291,000
指定正味財産期首残高	38,967,932	39,254,482	△ 286,550
指定正味財産期末残高	39,972,382	38,967,932	1,004,450
III 正味財産期末残高	274,689,450	278,964,880	△ 4,275,430

正味財産増減計算書内訳表

2021年4月1日から2022年3月31日まで

(単位:円)

科 目	公益目的事業会計			小計	収益事業等会計			法人会計	合計
	登山振興事業	山岳研究調査事業	山岳環境保全事業		共通	共通	共通		
<b>I 一般正味財産増減の部</b>									
1. 経常増減の部									
(1) 経常収益									
<b>基本財産運用益</b>									
基本財産受取利息振替額	0	0	0	0	0	0	0	429	429
<b>特定資産運用益</b>									
特定資産受取利息	0	0	0	2,026	0	0	0	147	2,173
特定資産受取利息振替額	0	0	0	1,520	0	0	0	147	1,667
<b>受取入会金</b>									
受取入会金	0	0	0	1,592,500	0	0	515,000	772,500	2,880,000
準会員入会金	0	0	0	1,287,500	0	0	515,000	772,500	2,575,000
<b>受取会費</b>									
通常会費	0	0	0	24,014,650	0	0	9,098,060	13,647,090	46,759,800
終身会費	0	0	0	22,728,150	0	0	9,089,260	13,633,890	45,451,300
準会員会費	0	0	0	22,000	0	0	8,800	13,200	44,000
<b>事業収益</b>									
広告料収益	206,405	891,101	0	1,264,500	0	0	1,316,230	0	1,264,500
山岳広告料	52,030	0	0	546,490	0	0	729,230	0	2,960,226
会報広告料	52,030	0	0	0	0	0	0	0	781,260
印税収益	0	0	0	103,490	0	0	729,230	0	52,030
刊行物売上	78,375	0	0	4,000	0	0	5,000	0	729,230
山岳売上	31,375	0	0	0	0	0	0	0	0
会報売上	0	0	0	0	0	0	0	0	103,490
その他売上	47,000	0	0	4,000	0	0	5,000	0	87,375
山研使用料収益	0	891,101	0	0	0	0	0	0	31,375
登山講習会収益	76,000	0	0	439,000	0	0	515,000	0	5,000
その他事業収益	0	0	0	0	0	0	0	0	51,000
物品販売収益	0	0	0	0	0	0	582,000	0	891,101
晚餐会収益	0	0	0	0	0	0	582,000	0	515,000
<b>受取補助金等</b>									
受取地方公共団体補助金等	0	0	0	880,136	0	0	0	0	880,136
受取民間助成金	0	0	0	840,136	0	0	0	0	840,136
<b>受取寄附金</b>									
受取寄附金	100,000	140,000	2,153,114	3,400,550	0	0	401,477	215,000	6,410,141
募金収益	0	0	0	0	0	0	53,897	0	53,897
会員寄附金	100,000	140,000	153,114	205,000	0	0	347,580	215,000	1,160,694
受取法人寄附金	0	0	2,000,000	1,700,000	0	0	0	0	3,700,000
受取寄附金振替額	0	0	0	1,495,550	0	0	1,495,550	0	1,495,550
<b>雑収益</b>									
受取利息	0	0	0	1,408,183	0	0	2,577,874	1,682,718	5,668,775
支部行事負担金	0	0	0	1,398,183	0	0	2,325,274	424	424
その他雑収益	0	0	0	10,000	0	0	252,600	1,682,294	3,723,457
名簿販売収益	0	0	0	0	0	0	241,000	0	1,944,894
雇用調整助成金	0	0	0	0	0	0	0	0	241,000
その他雑収益	0	0	0	10,000	0	0	11,600	538,620	1,143,674
<b>経常収益計</b>	306,405	1,031,101	2,153,114	31,844,535	0	0	13,908,641	16,317,884	65,561,680

科 目	公益目的事業会計			小 計	収益事業等会計		合 計
	登山振興事業	山岳研究調査事業	山岳環境保全事業		共通	共益	
(2) 経常費用							
事業費							
給料手当	19,609,621	18,759,044	9,688,918	781,159	48,838,742	17,930,495	66,769,237
通勤手当	2,184,381	6,408,884	2,184,381	0	10,777,646	0	10,777,646
臨時雇賃金	39,584	33,000	39,584	0	112,168	0	112,168
退職給付費用	0	0	111,090	0	111,090	0	111,090
福利厚生費	65,367	213,587	65,367	0	344,321	0	344,321
旅費交通費	348,729	1,404,972	348,729	0	2,102,430	0	2,102,430
通信運搬費	1,269,298	337,940	340,577	13,020	1,960,835	127,610	2,088,445
会議費	1,952,427	585,555	592,642	64,012	3,194,636	4,756,386	7,951,022
什器備品費	775,542	102,527	387,346	114,164	1,379,579	1,039,427	2,419,006
消耗品費	65,259	183,490	512,735	0	761,484	258,978	1,020,462
修繕費	548,773	296,687	944,736	0	1,790,196	379,420	2,169,616
印刷製本費	3,976,698	226,603	754,525	0	4,957,826	0	10,969,570
燃料費	0	45,321	0	0	45,321	0	45,321
光熱水料費	96,984	822,649	96,984	0	1,016,617	96,984	1,113,601
電話料	63,124	93,187	63,124	0	219,435	63,124	282,559
賃借料	0	81,192	0	0	81,192	0	81,192
保険料	37,346	419,542	37,346	0	494,234	37,346	531,580
租税公課	135,376	435,143	135,376	0	705,895	135,376	841,271
諸謝金	1,538,130	11,137	434,740	210,000	2,194,007	100,011	2,294,018
慶弔費	55,000	0	0	0	55,000	0	55,000
支払手数料	106,800	171,480	16,800	0	295,080	16,800	311,880
販売品購入費	2,121,515	1,662,332	1,305,580	15,563	5,104,990	2,489,156	7,594,146
建物減価償却費	421,021	1,595,512	213,353	0	2,229,886	487,018	487,018
建物附属設備減価償却費	9,972	967,445	9,972	0	987,389	213,353	2,443,239
水道施設減価償却費	0	347,328	0	0	347,328	0	347,328
什器備品減価償却費	30,525	195,621	30,525	0	256,671	30,525	287,196
機械装置減価償却費	0	38,168	0	0	38,168	0	38,168
水道施設利用権減価償却費	0	107,200	0	0	107,200	0	107,200
海外登山助成金	300,000	0	0	0	300,000	0	300,000
事務所管理費	437,228	645,434	437,228	0	1,519,890	437,228	1,957,118
その他管理費	84,986	125,457	84,986	0	295,429	84,986	380,415
雑費	2,945,556	1,201,651	541,192	364,400	5,052,799	1,155,051	6,207,850
管理費							
経常費用計	19,609,621	18,759,044	9,688,918	781,159	48,838,742	17,930,495	66,769,237
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 19,303,216	△ 17,727,943	△ 7,535,804	31,063,376	△ 13,503,587	△ 4,021,854	70,841,560
評価損益等調整	0	0	0	0	0	0	0
当期経常増減額	△ 19,303,216	△ 17,727,943	△ 7,535,804	31,063,376	△ 13,503,587	△ 4,021,854	△ 5,279,880
当期一般正味財産増減額	△ 19,303,216	△ 17,727,943	△ 7,535,804	31,063,376	△ 13,503,587	△ 4,021,854	△ 5,279,880
一般正味財産期首残高	0	0	0	0	0	0	239,996,948
一般正味財産期末残高	△ 19,303,216	△ 17,727,943	△ 7,535,804	31,063,376	△ 13,503,587	△ 4,021,854	234,717,068
II 指定正味財産増減の部							
受取寄附金	0	0	0	1,000,000	1,000,000	0	1,000,000
会員寄附金	0	0	0	600,000	600,000	0	600,000
受取法人寄附金	0	0	0	900,000	900,000	0	900,000
基本財産受取利息	0	0	0	0	0	0	429
特定資産受取利息	0	0	0	506	506	0	506
一般正味財産への振替額	0	0	0	△ 1,496,056	△ 1,496,056	0	△ 1,496,485
当期指定正味財産増減額	0	0	0	1,004,450	1,004,450	0	1,004,450
指定正味財産期首残高	0	0	0	0	0	0	38,967,932
指定正味財産期末残高	0	0	0	1,004,450	1,004,450	0	39,972,382
III 正味財産期末残高							
							274,689,450

## 財務諸表に対する注記(案)

### 1. 重要な会計方針

- (1) 棚卸資産の評価基準及び評価方法  
貯蔵品は個別法による原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)によっている。
- (2) 固定資産の減価償却の方法
  - ・有形固定資産の建物、建物附属設備、什器備品及び機械装置は定額法によっている。
  - ・無形固定資産は定額法によっている。
- (3) 引当金の計上基準  
退職給付引当金は職員の退職給付に備えるため、当年度末における退職給付債務に基づき、当年度末において発生していると認められる額を計上している。  
なお、退職給付債務は期末自己都合要支給額に基づいて計算している。
- (4) リース取引の処理方法
  - ・ファイナンス・リース取引  
リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっている。
- (5) 消費税等の会計処理は税込方式によっている。

### 2. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。 (単位:円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
定期預金	8,000,000	0	0	8,000,000
小 計	8,000,000	0	0	8,000,000
特定資産				
秩父宮記念基金	15,200,000	0	0	15,200,000
海外登山基金(注1)	14,289,792	0	0	14,289,792
遭難防止事業基金	10,000,000	0	0	10,000,000
長期計画準備金(注2)	29,160,206	7,352,285	0	36,512,491
退職給付引当資産	7,369,698	380,045	0	7,749,743
図書管理特定資産(注3)	132,000	0	132,000	0
施設整備特定資産(注4)	1,784,452	0	0	1,784,452
YOUTH CLUB活動特定資産(注5)	400,000	100,000	0	500,000
くじゅう山遭難碑維持管理特定資産(注6)	328,484	0	10,547	317,937
高頭仁兵衛翁寿像碑修復特定資産(注7)	1,353,000	0	1,353,000	0
120周年記念事業特定資産(注8)	0	3,090,000	0	3,090,000
生物保護特定資産(注9)	0	300,000	0	300,000
森林保全特定資産(注10)	0	300,000	0	300,000
山岳古道調査特定資産(注11)	0	300,000	0	300,000
坂口三郎基金(注12)	0	500,000	0	500,000
小 計	80,017,632	12,322,330	1,495,547	90,844,415
合 計	88,017,632	12,322,330	1,495,547	98,844,415

(注1) 海外登山基金は、本会又は外部団体の海外登山等の助成金及び120周年記念事業を対象とする助成金支出に充てるために保有するものである。

(注2) 長期計画準備金については、上高地山岳研究所建物など本会資産の再取得または修繕に備えるために保有するものである。

(注3) 図書管理特定資産は、本部図書室の設備、備品などの更新または修繕に備えるために保有するものである。当年度は図書管理ソフトウェアに係る保守料相当額を取り崩している。

(注4) 施設整備特定資産は、本部事務所の設備、備品などの更新または修繕に備えるために保有するものである。

(注5) YOUTH CLUB活動特定資産は、本部 YOUTH CLUBにおける活動を助成するために保有するものである。

(注6) くじゅう山遭難碑維持管理特定資産は、東九州支部におけるくじゅう山遭難碑の維持管理活動を助成するために保有するものである。当年度は利息を計上し、発生した維持管理費用相当を取り崩している。

(注7) 高頭仁兵衛翁寿像碑修復特定資産は、越後支部における高頭仁兵衛翁寿像碑の修復事業を助成するために保有するものである。当年度は修復工事終了のため全額を取り崩している。

(注8) 本会創設120周年(2025年)に向けて開催される記念事業に関わる諸費用に充てるため保有するものである。

(注9) 山岳環境保全事業の中で特に森林生物保護を目的に受入れ管理するものである。

(注10) 山岳環境保全事業の中で特に森林環境保護を目的に受入れ管理するものである。

(注11) 120周年事業の一つである山岳古道調査に特化して受入管理するものである。

(注12) 本会栃木支部の会員活動を活発化する目的で創設された基金である。

3. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位:円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味財産 からの充当額)	(うち一般正味財産 からの充当額)	(うち負債に 対応する額)
基本財産				
定期預金	8,000,000	(8,000,000)	—	—
小 計	8,000,000	(8,000,000)	—	—
特定資産				
秩父宮記念基金	15,200,000	(15,200,000)	—	—
海外登山基金	14,289,792	(2,000,000)	(12,289,792)	—
遭難防止事業基金	10,000,000	(10,000,000)	—	—
長期計画準備金	36,512,491	—	(36,512,491)	—
退職給付引当資産	7,749,743	—	—	(7,749,743)
施設整備特定資産	1,784,452	(1,784,452)	—	—
YOUTH CLUB活動特定資産	500,000	(200,000)	(300,000)	—
くじゅう山遭難碑維持管理特定資産	317,937	(317,930)	(7)	—
120周年記念事業特定資産	3,090,000	(1,090,000)	(2,000,000)	—
生物保護特定資産	300,000	(300,000)	—	—
森林保全特定資産	300,000	(300,000)	—	—
古道調査特定資産	300,000	(300,000)	—	—
坂口三郎基金	500,000	(500,000)	—	—
小 計	90,844,415	(31,992,382)	(51,102,290)	(7,749,743)
合 計	98,844,415	(39,992,382)	(51,102,290)	(7,749,743)

4. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。

(単位:円)

科 目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
建 物			
事務所	50,662,465	37,973,937	12,688,528
上高地山岳研究所建物	118,000,000	96,115,247	21,884,753
広島支部ルーム	3,945,694	2,076,680	1,869,014
静岡支部文珠山荘	1	0	1
建物附属設備			
広島支部ルーム	1,211,700	1,211,699	1
自動火災報知器(山研)	993,600	662,400	331,200
給排水設備(山研)	5,184,000	2,257,632	2,926,368
テラス(山研)	1,188,000	871,200	316,800
受水槽(山研)	1,566,000	358,483	1,207,517
屋根・外壁塗装(山研)	3,024,000	2,116,800	907,200
照明設備	708,779	221,610	487,169
什器備品			
液晶テレビ(山研)	121,800	121,799	1
給湯設備(山研)	413,532	339,542	73,990
石油ストーブ(山研)	125,000	31,312	93,688
電気冷蔵庫(山研)	295,610	90,505	205,105
エアコン	1,436,293	821,623	614,670
ノートPC	135,080	11,256	123,824
機械装置			
ミニ水力発電装置(山研)	3,816,750	3,664,081	152,669
水道施設利用権			
上高地山岳研究所	1,600,000	795,066	804,934

5. 補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高

補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高は、次のとおりである。

(単位:円)

補助金等の名称	交付者	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高	貸借対照表上の記載区分
補助金						
山岳レインジャー事業	山梨県	0	88,500	88,500	0	—
高山植物盗掘パトロール	北海道	0	351,636	351,636	0	—
猿投の森づくり	国土緑化推進機構	0	350,000	350,000	0	—
弥彦・国上エリアの持続可能な 利用促進プロジェクト	新潟県三条地域 振興局	0	50,000	50,000	0	—
合計		0	840,136	840,136	0	

6. 指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳

指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳は、次のとおりである。

(単位:円)

内 容	金 額
経常収益への振替額	
基本財産受取利息計上による振替額	429
特定資産受取利息計上による振替額	506
受取寄附金計上による振替額	1,495,550
合計	1,496,485

7. 資産除去債務関係

上高地山岳研究所に係る土地の借地契約に伴う原状回復義務を資産除去債務として認識しているが、使用期間が明確でなく、現在のところ施設の撤去並びに退去も予定していないことから、資産除去債務を合理的に見積ることができないため、当該債務に見合う資産除去債務を計上していない。

## 附属明細書(案)

1. 基本財産及び特定資産の明細

基本財産及び特定資産の明細については、財務諸表に対する注記 2. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高に記載している。

2. 引当金の明細

(単位:円)

科 目	期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高
			目的使用	その他	
退職給付引当金	7,369,698	380,045	0	0	7,749,743

退職給付引当金の計上基準は、財務諸表に対する注記 1. 重要な会計方針の(3)に記載している。

## 財産目録(案)

令和4年3月31日現在

(単位:円)

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金額	
(流動資産)	現金	本部手元保管	運転資金として	68,400	
		越後支部保管	運転資金として	270,926	
	預金	振替貯金	ゆうちょ銀行 00130	運転資金として	5,381,794
			ゆうちょ銀行 00180	運転資金として(寄附受入口座)	15,695,906
			ゆうちょ銀行 00150	運転資金として(会員証発行口座)	281,044
			ゆうちょ銀行 00150	日本山岳会120周年記念事業募金口座	9,560
			普通預金		
			りそな銀行市ヶ谷支店	運転資金として	996,471
			三菱UFJ銀行市ヶ谷支店	〃	2,803,991
			三井住友信託銀行芝営業部	〃	389,692
			みずほ銀行市ヶ谷支店	〃	477,827
			三井住友銀行飯田橋支店	〃	293,303
			三菱UFJ銀行新宿支店	〃	167,834
			三菱UFJ銀行市ヶ谷支店	運転資金として(保険用口座)	190,884
			もみじ銀行広島駅前支店	広島支部 遭難対策資金として	1,977,562
	通常貯金				
	ゆうちょ銀行 10070	運転資金として	47,158		
	定期預金				
	三菱UFJ銀行新宿支店	運転資金として	4,800,000		
	みずほ銀行市ヶ谷支店	〃	4,289,000		
	三井住友銀行飯田橋支店	〃	6,301,757		
	未収会費	令和3年度以前の未収会費	会費請求に対する未収分	2,976,000	
	貯蔵品	服飾品など	会員へ頒布	539,990	
	前払金(前払費用)	年払ソフトウェアの使用料、サポート料の未経過分	本部使用パソコン	141,898	
	仮払金	令和3年度支部繰越予算ほか	本部助成金及び特別助成金繰越額等	3,713,902	
流動資産合計				51,814,899	
(固定資産)					
基本財産	定期預金	三井住友信託銀行芝営業部	運用益を管理業務に使用している。	8,000,000	
特定資産	秩父宮記念基金	定期預金	公益目的保有財産であり、秩父宮家等から寄贈され、長期間保有することにより、その運用益を秩父宮記念山岳賞の顕彰賞金を支給するための基金である。	15,200,000	
		三菱UFJ銀行新宿支店			
	海外登山基金	定期預金	特定費用準備金であり、日本山岳会または外部団体の海外登山の助成金及び120周年記念事業を対象とする助成金支出に充てるため保有する基金である。	14,289,792	
		りそな銀行市ヶ谷支店			
	遭難防止事業基金	定期預金	会員から寄附された遭難防止事業への助成金及び会員等の遭難対策費用に充てるための基金である。	10,000,000	
		みずほ銀行市ヶ谷支店			
	長期計画準備金	定期預金	資産取得資金であり、公益目的事業・管理業務用資産の再取得または、修繕に充てるための基金である。	36,512,491	
		みずほ銀行市ヶ谷支店			
	退職給付引当資産	定期預金	職員への退職金支給に備えるための預金である。	7,749,743	
		りそな銀行市ヶ谷支店			
施設整備特定資産	振替貯金	登山振興事業、山岳研究調査事業及び共益事業と管理業務のために管理されている預金である。	1,784,452		
	ゆうちょ銀行 00180				
YOUTH CLUB活動特定資産	振替貯金	本部YOUTH CLUBにおける活動を助成するために保有されている預金である。	500,000		
	ゆうちょ銀行 00180				
くじゅう山遭難碑維持管理特定資産	普通預金	東九州支部におけるくじゅう山遭難碑の維持管理活動のために管理されている預金である。	317,937		
	大分銀行本店				
120周年記念事業特定資産	振替貯金	2025年までに予定されている120周年記念事業を遂行するための預金である。	3,090,000		
		ゆうちょ銀行 00150			

(次頁へ続く)

(前頁より)

(単位:円)

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金額
特定資産	生物保護特定資産	振替貯金 ゆうちょ銀行 00180	山岳環境保全事業の中で特に森林生物保護を目的に受入れ管理する預金である。	300,000
	森林保全特定資産	振替貯金 ゆうちょ銀行 00180	山岳環境保全事業の中で特に森林環境保護を目的に受入れ管理する預金である。	300,000
	古道調査特定資産	振替貯金 ゆうちょ銀行 00180	登山振興事業の中で特に古道調査を目的に受入れ管理する預金である。	300,000
	坂口三郎基金	定額貯金 ゆうちょ銀行 10740	栃木支部の支部活動(主に共益活動)の活発化を目的に受入れた基金である。	500,000
その他固定資産	土地	97.724264㎡ 東京都千代田区四番町5番4	事務室以外は公益目的保有財産であり、登山振興事業、山岳研究調査事業の施設として利用しており、事務室は共益事業および管理業務の施設として使用している。	86,737,705
		13.805312㎡ 広島県広島市南区大須賀町142番地1	公益目的保有財産であり、登山振興事業の施設として使用している。	3,443,246
		15,416㎡ 愛知県瀬戸市上山路町102番,103番	公益目的保有財産であり、山岳環境保護事業の山林として使用している。	365,168
		2,823㎡ 静岡県静岡市葵区牛妻字中平2480番1	公益目的保有財産であり、登山振興事業の施設として使用している。	1
	建物	266.73㎡ 東京都千代田区四番町5番4	事務室以外は公益目的保有財産であり、登山振興事業、山岳研究調査事業の施設として利用しており、事務室は共益事業および管理業務の施設として使用している。	12,688,528
		274.09㎡ 長野県松本市安曇4469番地1	公益目的保有財産であり、山岳研究調査事業の施設に使用している。	21,884,753
		62.35㎡ 広島県広島市南区大須賀町142番地1	公益目的保有財産であり、登山振興事業の施設として使用している。	1,869,014
		66.00㎡ 静岡県静岡市葵区牛妻字中平2480番1	公益目的保有財産であり、登山振興事業の施設として使用している。	1
	建物附属設備	本部照明設備 東京都千代田区四番町5番4	事務室以外は公益目的保有財産であり、登山振興事業、山岳研究調査事業の施設として利用しており、事務室は共益事業および管理業務の施設として使用している。	487,169
		広島県広島市南区大須賀町142番地1	公益目的保有財産であり、登山振興事業の施設として使用している。	1
		山岳研究所給排水設備	公益目的保有財産であり、山岳研究調査事業の施設として使用している。	2,926,368
		山岳研究所受水槽	〃	1,207,517
		山岳研究所の屋根・外壁塗装	〃	907,200
		山岳研究所テラス	〃	316,800
		山岳研究所自動火災報知器	〃	331,200
		本部 液晶テレビ、エアコン、給湯設備	公益目的事業、共益事業及び管理業務の用に使用している	738,494
	什器備品	山岳研究所 テレビ、冷蔵庫等	公益目的保有財産であり、山岳研究調査事業の施設として使用している。	372,784
		ミニ水力発電装置 長野県松本市安曇4469番地1	公益目的保有財産であり、山岳研究調査事業に使用している。	152,669
	水道施設利用権	山岳研究所の水道組合加入権	公益目的保有財産であり、山岳研究調査事業に使用している。	804,934
	固定資産合計			
資産合計				285,892,866
(流動負債)				
	未払金	取引業者の未払金	会報印刷費、発送費などの未払金。	1,045,625
	前受金	会員からの前受金	令和4年度会費前受分。	180,000
	預り金	前受終身会費他	終身会費、源泉所得税などの預り金。	2,228,048
流動負債合計				3,453,673
(固定負債)				
	退職給付引当金	職員に対するもの	職員に対する退職金の支払いに備えたもの。	7,749,743
固定負債合計				7,749,743
負債合計				11,203,416
正味財産				274,689,450

(写し)

## 監 査 報 告 書

令和4年5月11日

公益社団法人 日本山岳会

会長 古 野 淳 殿

監事 黒 川 恵 ⑩

監事 佐野 忠則 ⑩

私どもは、公益社団法人日本山岳会の令和3年度（令和3年4月1日から令和4年3月31日まで）の監査を行いました。その結果を次のとおり報告します。

### 1. 会計に関する監査

会計に関する監査のため、期中の取引に関する帳簿、証憑書類を閲覧し、期末資産及び負債の残高について検査を行いました。

監査の結果、令和3年度の財務諸表（貸借対照表及び正味財産増減計算書）及びその附属明細書並びに財産目録は、いずれも法令及び定款に従い、公益社団法人日本山岳会の財産及び損益の状況を、すべての重要な点において適正に表示しているものと認めます。

### 2. 業務に関する監査

会計以外の業務の監査のため、理事会に出席し、必要に応じて理事等に面談して質問すること等を行いました。

監査の結果、事業報告は、法令及び定款に従い、公益社団法人日本山岳会の状況を正しく示しているものと認めます。

また、理事の職務の遂行に関し、不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められませんでした。

以 上

## 報告事項 令和4年度事業計画及び予算

### 1. 本会の現状

令和4年度は、公益社団法人に移行してから11年目を迎える。公益社団法人に移行したことにより、盤石な社会的信頼を得ることができ、自治体や他団体との協力関係もいっそう強化することができた。また、寄附金の税制控除など寄附金を受ける環境が整い、収益の拡大を図るうえでの有力な手段となっている。

さらには、自然保護活動、登山教室、講習会、講演など公益的な社会活動の充実を図ることにより、本会の役割や存在意義が明確になってきた。

一方で、会員の減少と高齢化が目立つ。若手を中心とした入会者の増加を見込んだ準会員制度を実施して7年目にあたるが、準会員から正会員への移行率は約44%である。高齢者の退会による会員減少には、歯止めがかからない。とくに、支部の高齢化傾向と高齢者の退会数は上昇の一途であり、3分の1の支部が在籍支部員50名以下となっている。

コロナ元年と言われる令和2年から2年を経て、計画通りに活動ができない支部、委員会も多数ある。活動が不活発化すると、退会者の増加や新入会員の減少にもつながることが予想される。コロナ以前の社会に戻ることは想定できないため、withコロナの登山、登山社会の構築、日本山岳会のあり方、具体的活動について、十分な話し合いや検討をすることが重要となつてこよう。

### 2. 基本方針

以上の状況を踏まえ、今年度は次の5点を軸に事業計画を策定した。

- (1) with コロナでの活動：新型コロナウイルスの感染状況を鑑みながら、十分な感染対策を講じ、活動を継続していくことが重要である。コロナ以前の活動に戻すのではなく、事業の規模や開催方法などを工夫しながら、新たな展開を模索したい。
- (2) 会員数の維持：会員数を維持するためには、入会者を増やすことと退会者数を減らすことが必要だ。これまで入会者数を増やすことを念頭においてきたが、同時に退会者数を減らすことも重要である。会に不満があるといったような理由による退会を減らしたい。支部を中心とした公募登山や講習会、講演会など外部に向けた事業を活発化させ、これらをスムーズに情報発信することを重要視したい。また、入会後の受け皿、とまり木と呼ばれる会員の居場所、会員が魅力と思う活動を増やしたい。
- (3) 支部活動の活発化：大半の会員が所属する支部の活動を、いっそう活発化させることは会員数の維持、会全体の活発化に繋がる。支部と本部・理事会の連携を強めること、支部と支部間の交流の充実も重要。また、120周年記念事業のひとつである「全国山岳古道調査」においても支部の役割は重要であり、この事業をひとつのきっかけとして、支部活動のさらなる活発化を考えたい。また、支部に所属しない会員が集える場(新しい支部、もしくはとまり木の役割をするグループなど)を作ることも考えていきたい。
- (4) YouthClub / 若手会員の活動の活発化：YouthClub 委員会は、本会が公益法人に移行した際に設置され、今年度で11年目になる。YouthClub、ワンゲル、青年部、大学山岳部(指導者と部員)の活動の充実化を図りたい。また、他の委員会や支部と連携することにより、若手会員の活動を会全体に広めていくことを図りたい。
- (5) 120周年記念事業：2025年度の120周年に向けて、これまで実施してきた120周年記念事業の継続と、新規事業の始動、また120周年記念事業全体の財源確保に努める。

## [事業計画]

本会の公益目的事業は、Ⅰ 登山振興事業、Ⅱ 山岳研究調査事業、Ⅲ 山岳環境保全事業の実施を目的としている。各事業のポイントは以下の通りである。

### [1] 公益目的事業（詳細は別表①）

#### Ⅰ 登山振興事業（公益目的事業 1）

定款 4 条第 1 項に定める本会事業は多岐に渡っているため、同条第 2 号から第 5 号に定める山岳研究調査及び山岳環境保全事業を除く事業を、登山振興事業とする。

##### 1 秩父宮記念山岳賞

定款第 4 条第 1 項第 9 号

秩父宮家より拝受した遺贈金を基金として積み立て、山に関する顕著な業績に対してこれらを表彰し、登山活動の奨励と山岳文化の発展に資することを目的としている。平成 10 年度より継続しているこの事業を、令和 4 年度も継続する。

##### 2 海外登山助成金による助成

定款第 4 条第 1 項第 6 号

外部団体を含む海外登山の助成及び海外登山を目標とするプロジェクトへの支援を図ることを目的とし、年 2 回実施する。助成先の登山隊からは本会に報告をもらい、登山の内容を本会からも登山社会に情報発信する。

##### 3 機関誌『山岳』発行事業

定款第 4 条第 1 項第 7 号及び第 8 号

『山岳』1906 年に発行されて以来、100 年以上に渡って、山岳に関する多くの情報を社会に発信してきた。登山、探検、地理・地質、気象、自然保護、人物史、図書紹介などの記録、研究・論考などを掲載しており、その内容は会員に向けた機関誌に留まらず、全国各地の図書館、山岳博物館、登山愛好者、山岳環境の保全に関心を寄せる人たちに読み継がれてきている。オンライン販売もしており、会員外でも購読ができる。また巻末に英語のサマリーを載せ、海外にも送付しており、各国から貴重な情報として高い評価を得ている。令和 4 年度は、第百十七号を 6 月に発行する予定である。

##### 4 安全登山の推進事業

定款第 4 条第 1 項第 4 号及び第 6 号、第 8 号

###### (1) 雪山天気予報

定款第 4 条第 1 項第 4 号

北アルプスおよび八ヶ岳における冬山、春山（年末年始、ゴールデンウィーク）の天気予報を、山岳専門気象予報士に依頼。予報はきめ細かく作成し、登録者宛てに電子メールで配信。登録は会員に限らない。

###### (2) 登山教室、登山講習会、講演会など

定款第 4 条第 1 項第 4 号

遭難対策委員会が年 2 回実施する「山岳遭難防止セミナー」をはじめ、安全登山のための講習会を多数開催している。令和 4 年度は、支部主催の講習会が複数計画されている。YouthClub 委員会では大学山岳部指導者講習会（新規）を予定。医療委員会では講演会やメディカルハイキング、コロナ感染対策の広報を予定。科学委員会、医療委員会、遭難対策委員会の共同作業としては、安全登山ハンドブックの発行を予定している。また、自治体や他の山岳関連団体から依頼のある講師派遣も継続する予定である。

(3) 指導者育成講習会

定款第4条第1項第4号

安全登山を目的とした指導者養成の一環として、「安藤百福記念自然体験活動指導者センター」で集中講習を実施している。令和4年度は2回実施予定。

(4) 若手登山者の育成

定款第4条第1項第4号

YOUTH CLUB 委員会や各支部の青年部を中心に、若手会員の活動の場の活発化、リーダー育成を目的とした、登山技術講習、安全登山講習などを実施する。また、120周年記念事業のひとつである「ヒマラヤキャンプ」も、若手会員で構成されており、この事業を通じて若手登山者の育成に努めると共に、会の活発化に繋げたい。

(5) 登山道整備

定款第4条第1項第4号

各支部で、登山道の刈り払い、倒木除去、案内板の設置などの登山道整備を実施している。秋田支部の「太平山歩道整備」や栃木支部の「那須クリーンキャンペーン」などは毎年継続して実施。千葉支部が台風被害で通行止めとなった房総の山々の登山ルートの復旧活動を行なうなど、自然災害によって崩壊した登山道を修復させる活動も全国の支部で行なわれている。登山道を整備することで、道迷いや転倒・滑落などの事故を減らす一助となり、登山の安全を高めると共に、植物保護のための有用な手段となっている。

5 インターネットによる情報提供事業

定款第4条第1項第9号

デジタルメディア委員会と広報準備委員会を中心に、本会が行なう公益目的事業をはじめ、山岳地域や登山に関する有益な情報をインターネット（ホームページ、SNS）を介して提供している。

デジタルメディア委員会では、120周年記念事業の一環として、会報「山」や年報『山岳』などの当会出版物や、当会所有の山岳に関する貴重な資料をデジタル化して、ホームページ上にて公開している。令和4年度も、引き続き所有図書・資料のデジタル化による公開を進める。

また、オンラインで行なわれた講習会や座談会、講演の映像を編集し、YouTubeにて公開をしているが、令和4年度も引き続き、オンラインによる活動を充実させたい。

家族登山普及委員会では、独立行政法人国立青少年教育振興機構の「こどもゆめ基金」の助成を受けて作成したウェブサイト「親子で楽しむ山登り」を運営している。全国の家族登山コースや親子登山教室、安全登山への啓発、子供に山への興味・関心を持ってもらうためのコンテンツなどを引き続き提供していく。

6 登山文化の普及事業

定款第4条第1項第1号及び第9号

(1) 全国山岳博物館等連絡会議開催

昨年度に引き続き、資料映像委員会では、全国の山岳関係博物館（対象20館）との会議を立案・実施し、相互の情報交換を毎年1回実施する。

(2) 所蔵資料・データの貸出しなど

資料映像委員会、図書委員会、デジタルメディア委員会では、映像資料（フィルム、VHS、DVD等）や図書を収集、保管・管理すると共に、資料や図書、デジタルデータの貸出し、共有化を行なう。

(3) 「山の日」推進事業

「山の日」事業委員会が中心となり、全国の支部で「山の日」に関連した記念イベントや講演会、親子

登山などを実施する。自治体や他の山岳関連団体などと連携して行なうこともある。これらの活動は、地域への貢献度が高く、永続的な事業となっている。

また、全国山の日協議会との連携をさらに強化し、「山の日」記念全国大会や「山の日 2022」開催への協力を行なう。全国山の日協議会のホームページにて連載中の「通信員レポート」では、全国支部の会員が持ち回りで執筆し、各地の山の様子を伝える。

支部では、「ぐんま山フェスタ 2022」「山の日イベント in 谷川岳」（以上、群馬支部）、「山の日記念親子登山」（福島支部）などを開催。

#### (4) シンポジウム、講演会、展示会、映画祭等の実施

「登山を楽しく科学する」（科学委員会）、本会の収蔵品や歴代会長など歴史的人物、遠征隊を紹介する講座（資料映像委員会）を行なう。

#### (5) 登山教室、講習等の実施

令和3年度に関西支部が始めた登山文化の伝承を目的とした「ヒマラヤ登山塾」は、令和4年度も継続。くわえて、同内容を全国の会員に向けて YOUTHCLUB 委員会も開催する。

#### (6) 活字媒体を利用した山岳文化の啓発活動

山陰支部では、創立70周年を記念し、古事記にも登場する出雲・伯耆地方の山々を調査し「雲伯100山」（仮称）の出版を予定。また神奈川支部では県内全山踏破による「日本山岳誌」神奈川県版の作成を計画しており、令和4年度も継続する（かながわ山岳誌プロジェクト）。

#### (7) 家族登山、子ども登山などの開催

「第4回糸魚川世界ジオパーク子ども登山教室」（越後支部）をはじめ、石川支部、栃木支部、山梨支部、静岡支部、関西支部など多くの支部および本部で、家族・親子登山教室や子ども登山教室あるいは幼稚園のサポート登山を実施予定。コロナ感染対策を講じながら、with コロナのなかでも継続できる方法を模索している。これらの事業は、家族で登山を楽しみ自然との触れあうことにより、家族の絆を深める絶好の機会となっている。

#### (8) 障がい者支援登山

障がい者（身体障がい、知的障がい、精神障がい等）が自然に親しみ、安全で楽しい登山活動を行なうために必要な支援を行なう。本会として公益性を重視した事業として位置づけるとともに、本会会員においては、障がい者との登山をとおして交流を深め、広く障がい者の理解を図ることを目的としている。東海支部では視覚障害者の支援登山を行なっており、茨城支部では自閉症者協力登山、また熊本支部では知的障がい者対象支援登山教室を行なっている。ほかの登山同様、コロナ感染対策に努める。

#### (9) 少年の補導委託登山

試験観察中の少年を対象に、家庭裁判所からの委託を受け、家庭裁判所調査官、少年友の会、保護者合同の登山支援を行なっている。登山の経験やそこで得た感動が、少年に大きな影響を及ぼすと、関係者、保護者から評価を得ている。家庭裁判所が行なう短期補導委託として、東海支部、熊本支部、宮崎支部では、少年たちとの登山を実施している。コロナ感染対策に努める。

7 地域社会および地域文化の維持発展 定款第4条第1項第1号

山岳文化およびそれに関連する地域の文化を継承維持するため、信濃支部主幹の上高地でのウエストーン祭をはじめ、本会では多くの記念祭や碑前祭を行なっている。

古来より伝わる弥彦灯籠まつりで行なわれる越後支部の高頭祭（弥彦松明登山祭）、播隆上人の業績顕彰のために行なわれる富山支部の播隆祭、泰澄大師を偲ぶ福井支部の泰澄祭などがあり、山岳界の偉人を偲んだ石川支部の「久弥祭」ほか、山梨支部「田部祭」「木暮祭」「深田祭」、関西支部「藤木祭」、四国支部「小島烏水祭」、北九州「槇有恒碑前祭」、宮崎支部「宮崎ウエストーン祭」などが例年通り予定されている。

8 120周年記念事業 定款第4条第1項第1号

2025年に本会は創立120周年を迎える。当該年には記念式典などを開催する予定であるが、それらに加えて、本会の将来にもつながる長期的事業も継続して実施中である。

①山の天気ライブ授業

安全登山の啓発活動の一環として、屋内での講義及び登山の現場での観天望気の方法などの登山技術を身につけてもらうための講習会を、支部主催で会員・一般登山者を対象に行なう。

②グレート・ヒマラヤ・トラバース

日本山岳会や登山界がこれまでに実践したヒマラヤ高峰登山の足跡を辿りながら、ヒマラヤの踏査を通じて、自然環境の変動や生活環境の変化を検証し、新たなヒマラヤ登山の方法や楽しみ方を模索し、今後のヒマラヤ登山やトレッキングへの興味を高めることを目的とする。令和4年度は、ポストモンスーン期に「日本山岳会東ネパール踏査隊2022 (East Nepal Travers of The Japanese Alpine Club2022)」が、ネパール・チベット国境上のTipta La（青木文教入蔵の峠）、及びルンバサンバ～マカルーエリアを踏査する予定。

③ヒマラヤキャンプ

若手登山者の育成を主目的として、広くメンバーを募り実施。未踏峰の高峰登山活動を通じて、技術の向上と「登山文化の継承と発展」を目指す。令和4年度は、ポストモンスーン期に、ネパールヒマラヤにあるペリヒマール山群のPhungi峰（6524m・未踏峰）を目指す予定。

④エベレスト登頂50周年記念フォーラム

昨年度に実施した記念フォーラムと共に開催した「写真で振り返る日本人のエベレスト展」について、令和4年度は各支部や山岳展示施設との共催なども視野にいれ、広く登山愛好者にも参加を呼びかけ開催予定。今後の会員獲得にも寄与する写真展としたい。

④全国山岳古道調査

文化的・歴史的・地理的な観点から精査した120の古道を全国支部を中心に調査をする。調査記録を纏めその記録した情報などをホームページなどに公開。今後の古道の保全や、公開によって一般登山者の関心を集めると共に、地域社会の発展にも寄与することを目指す。

⑤デジタルミュージアム

資料映像委員会を中心に、収蔵品、人物（歴代会長等）、遠征隊等の資料調査、資料のデジタル化を実施。デジタルミュージアムの開設に向けてのコンテンツ作成。

⑥日本・エクアドル外交関係樹立100周年記念友好合同登山

令和3年度にエクアドル山岳会員16名を日本に迎え、富士山、槍ヶ岳、立山への合同登山を予定したが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、海外渡航やビザの発給が停止したため実施できなかった。令和4年度は、8月28日～9月8日に実施予定。

## II 山岳研究調査事業（公益目的事業 2）

定款第 4 条第 1 項に定める本会事業は多岐にわたるため同条同項第 2 号及び第 5 号にかかわる事業の内、山岳研究調査にかかわる事業を一つにまとめた。主な内容は下記のとおりである。

- 1 上高地山岳研究所 定款第 4 条第 1 項第 5 号  
上高地における登山活動の支援、安全登山の啓発、海外からの登山隊の接遇、小規模水力発電設備などの山岳研究の基地として活用する。  
また、遭難対策および山岳地域の気候変動や野生動物調査等に資するため、試験的に上高地山岳研究所に設置した気象観測装置およびネットワークカメラにより、通年において継続的な気象データ（気温・湿度・風速・風向・降水量・積雪深）の観測。野生動物調査データを蓄積し将来の研究に生かすため観測を引き続き行なう。
- 2 小規模水力発電の研究 定款第 4 条第 1 項第 5 号  
神奈川工科大学との共同研究により、山小屋等での効率的な発電・運用を目的としたミニ水力発電のシステム開発と検証を行なっている。自然エネルギーへの関心の高まりから、上高地山岳研究所の開所期間中は見学を受け付ける。自然エネルギーの利用促進のため、昨年度に引き続き、建物内照明等の電気設備電源のミニ水力化工事を山岳研究所運営委員会と連携して進める。
- 3 山岳図書館の運営事業 定款第 4 条第 1 項第 8 号  
日本有数の山岳専門図書館として、本会の内外で利用されている。蔵書は明治以降の日本の山岳に関するあらゆる分野の図書を網羅しており、蔵書数は和書約 12,000 冊、洋書約 3,900 冊。開架式で、読書のためのスペースが用意されている。また、ホームページでは蔵書を検索することができる蔵書検索サービスを実施している。
- 4 資料映像研究 定款第 4 条第 1 項第 2 号  
本会発足以来 100 年以上にわたって蒐集してきた山岳、登山技術に関する研究資料、絵画、映像資料などの調査・研究を行ない、併せて収蔵資料の公開、資料貸出しなどを行なっている。令和 3 年度も引き続き実施する。
- 5 山岳地域の空間放射線量測定 定款第 4 条第 1 項第 5 号  
福島第一原子力発電所事故による放射能汚染実態を把握するために吾妻山、安達太良山、那須・甲子山系の山岳地域において測定中であり、引き続き福島支部において実施する。
- 6 登山道調査等国土地理院との連携事業 定款第 4 条第 1 項第 3 号  
国土地理院との協定に基づき登山道の変化情報を提供し、地形図上の登山道の正確な記述を通して登山者の安全と便宜に供していく。また、地形図におけるビッグデータを利用した登山道の更新に際して、ビッグデータでは解析できない登山道や施設等の情報を提供していく予定である。

## III 山岳環境保全事業（公益目的事業 3）

定款第 4 条第 1 項第 5 号にかかわる山岳環境保護及び保全事業を一つにまとめた。主な内容は下記のとおりである。

## 1 森づくり活動

定款第4条第1項第5号

東京都八王子市の「高尾の森」、愛知県瀬戸市の「猿投の森」を中心に、青森支部や福井支部、静岡支部、京都・滋賀支部、関西支部、山陰支部、宮崎支部など全国十数カ所で、会員を中心としたボランティアによる「森づくり」活動を行なっている。

「高尾の森づくりの会」では、毎月2回の小下沢国有林などにおける森林管理の定例作業を多数の参加者により実施している。さらに、普段自然に接する機会の少ない都会の小中学生対象とした「親子森林体験スクール」や、「親子キャンプ」の開催、また、学生や社会人を対象とした森林や自然に関するセミナー、展示会の開催を計画している。さらに「三宅島の緑化再生事業」などを実施している。これらの活動には本会会員以外にも多数の一般ボランティアが参加。令和4年度も引き続き実施の予定である。

また、支部においても、林野庁や地方自治体、関係団体などと協力した森づくりが多数行なわれている（詳細は別表参照）。

## 2 山岳環境の保全保護活動

定款第4条第1項第5号

森林が国土の7割を占める日本において、山岳地帯をフィールドとする本会にとっては、山岳地域の環境保全及び保護は重要な目的の一つである。創立当時、城数馬が「高山に於ける植物の保護」(「山岳」第2号)を発表し、また、わが国の自然保護運動の原点とも言われる尾瀬ヶ原ダム建設への反対運動など、多くの環境活動を行なっており、自然保護が本会活動の大きな柱であることが歴史からもうかがえる。

令和3年度の事業として、「山のトイレ整備」「高山植物盗掘防止パトロール」(北海道支部)、「岩手山避難小屋管理」(岩手支部)、「三つ峠アツモリソウ保護活動」「御前山カタクリ保護活動」(以上、東京多摩支部)、「スズタケコ枯死の実態調査」(東九州支部)のほか、青森・秋田・福島・千葉・東京多摩・富山・石川各支部の登山道整備、北九州・熊本・東九州・宮崎各支部の国有林森林保全巡視、岩手・栃木・埼玉・越後各支部の清掃登山などがある。

## 3 自然保護の啓発活動

定款第4条第1項第5号

本部及び各支部の自然保護委員会を中心に、自然保護の啓発活動を全国で行なっている。自然保護委員会は「自然保護全国集会」を開催し、機関誌「木の目草の芽」を発行。岩手・群馬・埼玉・東京多摩・石川各支部では自然観察会を開催。信濃支部は「信州豊かな環境づくり県民会議」の会員として環境保全のPRなどを行なう。

### [2] 会員向け事業（共益事業）《詳細は別表②》

会員を対象とした会員のための事業としては、概ね下記の事業を実施する。

- (1) 会員を対象に山行を行なう。
- (2) 会員を対象に安全登山に取り組む。
- (3) 会員を対象に文化活動や自然保護活動を推進する。
- (4) 会員もしくは支部相互の交流および懇親を行なう。
- (5) 総会、周年事業、会議などを行なう。
- (6) 会報「山」を発行する。
- (7) 会員向けにメールマガジンやホームページなどでの情報発信を行ない、各支部では支部員向けに支部報や支部独自のホームページでの情報発信を行なう。
- (8) 会員向け山岳傷害保険の斡旋を行なう。
- (9) 会員向けに上高地山岳研究所を研究のためのベースとして開放する。

(10) 入会検討者への説明会の開催、新入会員オリエンテーションを開催する。

(11) 会員向けに日本山岳会ロゴ入りグッズの頒布を行なう。

### [3] 法人管理

法人の業務執行決定機関である理事会が本会を運営し、公益社団法人として実施する各事業がコンプライアンスおよびガバナンスに則っているか管理している。具体的には、財務管理は、財務担当常務理事の下に財務委員会で行なわれ、総会・理事会等の会議運営管理、議事録等の管理などは総務担当常務理事の下に事務局や関係する各委員会で行なわれている。また、定款や諸規則・規程の整備などは公益法人運営委員会が担当している。

#### 1 業務執行体制

##### (1) 財政基盤の確立

本会が安定した財務基盤を確立するためには、会費収入、寄附収入、事業収入がともに拡充し、維持されることが必須である。しかし、ここ 10 年以上の会費収入の減少によって、通常業務の維持が困難になりつつある。この状況を打破するため、会員増強や支部活性化のための様々な対策を講じられてきた。YOUTH CLUB などの施策によって若手の会員の入会者が増えてはいるものの、会員の多数を高齢者が占めているため退会者および会費免除の永年会員が増加し、会の財政状況は依然として悪化の一途を辿っている。平成 28 年度（2016 年度）から準会員制度を導入するなどの施策を講じてきたが、成果は上がっていない。そのため永年会員への寄附の依頼や紺綬褒章授与などを利用した寄附の拡充を推し進めている。

会員増強のための方策としては、一部の支部で取り組んでいる登山教室が有効な方法であることは実証されており、これら具体策を視野に入れ会員増強の検討を進める。

##### (2) リスクマネジメントの確立

社会及び経済環境の変化が著しい近年にあって、コロナウイルスの感染拡大はさらに環境の変化を加速させた。本会が安定した運営を維持するためには、リスクを許容し、将来発生するであろう潜在的に抱えるリスクを把握し、そのリスクに適切な対応を行なうことが必要である。

そのため、理事会および公益法人運営委員会を中心に、公募登山における旅行業法の啓発や個人情報保護法の制定・実施などを行ってきた。本年度はパワハラ防止法（改正労働施策総合推進法）の周知・啓発を進めるとともに、著作権の管理、登山リスクを軸とした山岳事故の安全対策の推進などを行なう。また、広報委員会を発足させ、ソーシャルメディア時代における的確な危機管理や情報発信を図る。

##### (3) 本会の将来に向けての改革

本会の会員は、公益活動に取り組むと共に、当会でのクラブライフを謳歌している。山好きの仲間が集い登山活動や会務での活動、ボランティア活動などに日夜励んでいる。しかし近年、情報化の進展に伴って本会を取り巻く社会的環境が変化し、また会員の意識も変化している。長期にわたるコロナの感染状態は、さらなる変化をもたらすと考えられる。こうした変化により適切に対応し、会を持続させ、また会を円滑に運営するために、改革事業委員会による議論を進めている。

##### (4) 会員の情報共有の促進

この 2 年間は新型コロナウイルス感染防止対策により、理事会や通常総会、支部合同会議、委員会など、多くの会議がオンラインにて開催された。直接顔を合せて話す機会は減少したが、支部からの出席につい

では移動がなくなり、負担が大幅に減り、希望する支部員が出席できるという利点もあった。また、動画サイトなどを積極的に利用したため、全会員が閲覧できることとなり、会員の情報共有機会が大きく前進した。今後もオンラインによる会議を積極的に行なっていきたい。

なお、これまで支部長・事務局長との全体会議は年間2回だったが、1回あたりの時間を短縮し、年3回開催することとする。これにより、情報交換を密にする中で組織運営の充実を図っていく。

## 2 寄附金募集についての周知

平成24年（2012年）4月に公益社団法人に移行して以降、本会への寄附は増加の傾向にある。これまで税額控除対象法人としての証明を取得し、紺綬褒章の授与申請を行なう法人として内閣府から認定を受けていることも影響している。寄附金や助成金は、新規事業への取り組みなど本会の社会的存在意義の明確化、ひいては会員増強の要因と考えられるため、各会員及び一般への寄附金税制の周知を図り、一層の寄附金獲得に務める。

## 3 事務処理の効率化

事務処理の増大に対応するため、会員管理システムの更新や本会会費などのオンライン化を推進し、事務処理の効率化を図る。またあわせて会員の利便性を向上させることを検討したい。

# 別表 令和4年度 事業計画（公益）

（凡例：山研＝山岳研究所運営委員会、高尾＝高尾の森づくりの会、DM＝デジタルメディア委員会、YC＝YOUTH CLUB 委員会）

事業名	支部名 委員会名	事業内容
I - 1 秩父宮記念山岳賞	秩父宮記念	秩父宮記念山岳賞の推薦を受け付け、審査後に発表。授賞式と受賞者の講演会を開催。コロナ次第で対面、対面＋オンラインのハイブリッド、オンラインのいずれかの方法を選択する。
I - 2 海外登山助成金による助成	海外登山助成	海外登山助成金の申請を受け付け、審査後、発表。助成対象の登山隊の活動を広報する。また、登山終了後に報告を受け会報や年報、webなどで発表する。
I - 3 機関誌「山岳」発行事業	山岳編集	年1回の年報として、機関誌『山岳』第117号・2022年を発行。2年前から特集を巻頭につけるようにしたが、昨年はコロナ関連でページをとってみた。今年はコースの現状、課題、展望などを中心にページを取りたい。ここ2-3年はコロナのために海外の記録が掲載できなくなってしまったが、減ページも仕方ないと思っている。その他は、これまでどおり読み物、調査、研究を中心とした書籍の編集、制作、発行に尽力する。
	YC	学生部事業：①学生部主催でクライミング大会、マラソン大会（50年以上継続）を開催。②雪上講習会、アイス＆雪山ナビゲーション講習会、さまざまな講習会を実施し、大学山岳部員、WV部員の安全登山に寄与するとともに、大学クラブ間の横のつながりをつくる。
	DM	大学山岳部指導者講習会：大学山岳部の監督、コーチを対象にした講習会（研修会）を開催し、指導者に最新の技術を学んでもらうとともに、大学山岳部指導者間の横の連携を強化する。あわせて、日本山岳と大学山岳部指導者間のつながりをつくる。
		冬山天気予報の配信。年末年始、ゴールデンウィークの2回。
		山岳遭難防止セミナー：年2回、無雪期向け（7月）、積雪期向け（11月）に開催。一般参加者各回50名（公募）。講師は現場の各県警山岳救助隊などから招聘し、安全登山普及啓発を進める。
	遭難対策	安全登山講習会：年2回、6月と10月に開催。一般参加者各回30名（公募）。ファーストエイド、ロープワーク等の安全登山技術を習得し、山行に活かすための内容で開催。他の委員会との共催、委員派遣等を実施する。
I - 4 安全登山の推進事業①	山研	「山の安全ノート」：「山のマナーノート」（2018年8月発行）の続編として、安全登山の普及及び遭難事故防止を目的とした「山の安全ノート」を企画、作成。遭難対策委員会が中心となり、科学委員会、医療委員会の協力のもと進める。最近のトピックとして、登山における新型コロナウイルス対策を含める。山岳関係機関、登山イベント等で配布予定。
	医療	登山講習会へのサポート（開所中）。 山の医療関係の講演会を開催し、一般の方へJACの活動を広報する機会とし、浸透を図り、あわせて会員増加に寄与する。 会員以外を主な対象としてメディカルハイクングを開催して、登山による健康増進と安全登山の普及に努める。
	科学	コロナ禍における登山中の感染予防対策を広報する。 安全登山ハンドブックの発行：登山愛好者を対象に安全登山の啓蒙を図る目的で安全登山ハンドブックを発行する。昨年度発行予定であったがコロナ禍で中断。本年度は完成を目指す。各地の登山センターや山小屋に配布予定。遭難対策委員会、医療委員会との共同作業。
	北海道	登山講演会：支部主催で一般及び会員、会友を対象に安全登山の啓発、登山技術の向上、登山文化の継承などを目的に講演会を開催。講師は著名登山家を招聘し11月か12月に札幌市内で開催。参加者は一般100名、会員50名程度の見込み。
	青森	雪崩講習会：NPO法人、他の山岳団体と連携し会員および一般を対象に雪崩事故防止のための机上講習、実地訓練を実施。時期は1月中、下旬、参加者は会員、一般合わせて15名～20名。 八甲田山岳スキー遭難防止対策用誘導ポール設置事業：事業主体＝八甲田振興協議会山岳スキー振興部会、八甲田振興協議会事務局、青森市経済部観光課。事業内容＝春スキーコースにおける遭難防止対策用誘導ポールの設置。年2回2月と3月に実施。一般参加者5名、支部会員5名、自衛隊・警察機動隊20名。規定の春スキーコースに八甲田山岳振興協会所属ガイドの誘導で標識ポールを設置。

事業名	支部名 委員会名	事業内容
	青森	山の日登山教室・安全登山講習会：「山の日」制定記念登山行事青森県内の里山からフィールドを選び、一般参加者も登山に慣れ親しめるように配慮している。祖父母と孫、親子での一般参加者に、クイズ形式で登山知識の提供も行なっている。新たに安全登山講習会を同時開催する事で幅広い層の参加を求めていく。一般参加者予定 15 名 支部会員 10 名。
	岩手	公募登山：コロナの感染状況に慮じて開催したい。時期は 10 月。対象者は登山に関心のある一般県民。参加支部員数 = 10 名
	福島	クワイミング講習会の開催：一般登山者を対象としたフリークワイミング講習会を開催する。これまで(過去 6 回開催)は岩壁クワイミングであったが、今回は民間のボルダリング施設において公募で実施。
	茨城	講演会：4 月、6 月、9 月、11 月、1 月、の年 5 回実施。一般参加者については状況により検討。登山と自然・山関連、海外登山の情報や体験報告をスライドで映写して開催。山への関心を高めるための普及活動と会員増加に努める。
	栃木	「山」の講演会：年 1 回。一般参加者 80 名程度。安全登山や山岳文化活動の啓発を行なう。今回で 15 回目。(一般財団) 栃木県青年会館と共催、栃木県山岳・スポーツクワイミング連盟の後援を得る予定。支部会員はボランティアで企画・準備を行ない、司会・会場整理などに補助員として参加。
	群馬	健康登山に関する事業：2018 年に始まった一般を対象とした講習登山。今年度は過去の経験・実績を踏まえ Web 上での開催を考えている。
		山のグレイディング：2015 年度に作成され 20 年 2 月に改訂された群馬の山のグレイディングの更なるフォローアップ。
		「ぐんま県境稜線トレイル」に関すること：県境稜線トレイルの安全調査・安全講習会等。
		会員及び一般登山者を対象とした安全登山普及活動として講演会、講習会：2022 年 6 月 4 日。天覧山周辺、安全登山講習会：講師 = 瀬藤武氏 (埼玉県山岳・スポーツクワイミング協会避難対策委員長) 参加者 20 名。2022 年 11 月 19 日 ~ 20 日。
I - 4 安全登山の推進事業②	埼玉	日本山岳会 120 周年記念事業：「山の天気ライブ」講師 = 猪熊 隆之氏 (山岳気象予報士)。座学 19 日：参加者 30 名。20 日フィールドワーク 15 名。2022 年 12 月 7 日。
		安全登山講演会「尾瀬 原の小屋管理人の話」講師 = 高妻 潤一郎氏。参加者 50 名。2023 年 1 月 21 日。 安全登山講演会「埼玉県警察山岳救助隊の話」講師 = 工藤 大介氏 (埼玉県警察山岳救助副隊長)。参加者 30 名。2023 年 2 月 18 日。
		安全登山講習会「ファーストエイドの話」講師 = 恵秀英彦氏、参加者 30 名。
	千葉	講習会：登山事故防止のために、各専門家またはガイドを招き安全登山講習会を開催する。詳細は未定だが、年度内に 1 回以上行なう。
		登山教室運営：4 月 ~ 3 月 受講生 20 名、スタッフ 10 名。講座 4 月 2 回、5 月 2 回、6 月 1 回、12 月 1 回、計 6 回。登山実習 4 月三頭山、5 月御前山、6 月犬岳山、7 月高水三山、8 月大菩薩嶺、9 月上高地・岳沢、10 月川苔山、11 月七ツ石山、1 月笹尾根、2 月入笠山、3 月三ツ峠山。
	東京多摩	安全登山啓発活動：①安全登山講演会 (山岳救助隊員による遭難事故事例から学ぶ安全登山啓発活動)。外部講師 11 月予定 参加者 50 名予定、(うち支部会員 20 名) ②安全登山等周知活動 (一般登山者に対する山の日 PR と安全登山啓発活動)。奥多摩駅前等で登山者に対する山の日周知と安全登山啓発のチラシ配布 8 月 11 日
	神奈川	救急法講習：救急法とアウトドアレスキュー講習会を一般公開で実施。実習項目として AED の取り扱い、止血法、骨折対応、搬送法、熱中症の対応等。定員は 20 名程度を想定 (会場と講師の面から)。
	神奈川	県民登山案内活動：神奈川県山岳連盟傘下としての活動として、県民登山の登山ガイド作業を行なう。(対象は、丹沢山域)。支部会員は、ボランティアでリーダー (4 名程度) として参加。
		講師派遣：県山協主催の登山講習会などに講師派遣などを行ない、安全登山の普及に務める。
	越後	公募登山関係：6 月 4・5 日に日本山岳会猪熊隆之氏を講師に迎え、「山の天気ライブ授業」講習会を実施する。1 日目は新潟市で定員 100 人規模の座学講習会を開催し、2 日目は新潟市秋葉区新津丘陵で 20 人程度のフィールド講習で実施する。
	富山	コロナ禍でも実施可能な「現地集合・解散の日帰り山行」として、平日トレッキング・スノートレッキング・写真スケッチ山行なども計画する。 指導者派遣：県教委、富山市主催の集団登山指導者講習会、県民登山教室、富山市民登山への指導者派遣。富山県山岳連盟主催の各種講習会、研修会に指導者・リーダーを派遣している。

事業名	支部名 委員会名	事業内容
I - 4 安全登山の推進事業③	山梨	第8回やまなし登山基礎講座：初級・中級登山者を対象に安全登山に関する知識・技術・判断力・危機管理・遭難事故防止などの机上講座、実践登山および山岳文化に関する講座（9月、10月に7回程度開催）。受講生見込み=15~20名。講師・スタッフとして支部会員が各回10名程度参加予定。 やまなし登山基礎講座修了生を主な対象に2017年度から実施している公募企画。支部山行11回、2018年度新設した雪山ステアプアップ登山講習を引き続き2回開催。また家族・親子登山教室も1回実施。各山行は日帰りまたは1泊2日山行とし、講座修了生以外にも参加者を増やし、JACのPRも兼ね支部会員の増加を目指す。各山行、一般参加者5名を見込み支部会員は10名参加予定。
	静岡	ハイキングセミナー：一般対象に5月、10月、3月の3回実施。各回15名程度募集。支部会員10名程度が随伴。
	東海	登山学校：自立した登山者の育成を目的にスタート。第6期の今回は7月に開校。指導員は支部員が務め、1クラスの受講生を5名程度に絞りきめ細かな指導を。月1回、年12回の現地学習山行に加え、気象、読図、装備など年7回の机上講習会を実施。技量に応じた3コースで、広く一般募集を行ない、受講生は支部友として入会してもらう。
	京都・滋賀	安全登山講習会：4月、5月、6月、7月、8月、9月、10月、11月の年8回。一般参加者=各回10名（年75名）程度予定。滋賀岳連後援。県立比良山岳センターで。支部会員は指導者4名、補助員10名が参加予定。
	関西	登山教室：初級・中級・上級各クラスごとの座学と実技講習。「安全登山の普及」を目的に、初心者から雪山や岩登り等の本格的な登山を目指す方々を一般公募して実施。
	山陰	大山冬山山岳パトロール：1~3月の期間の土日に山小屋に泊まり込み、1泊2日で2回行なう。各回、鳥取県警から2名、山陰支部から3~4名の計5~6名で、大山寺~頂上までのパトロールを実施。
	熊本	登山教室：年2回春秋に実施。会員・会友と一般参加者（定員45名）。花鑑賞を兼ねた登山教室で、会員は班長やリーダーを担当（昨年度はコロナ感染症の影響で秋季のみ会員のみに実施）。
		登山研修会：夏、冬2回、会員のリーダー研修と参加者の登山技術研修を実施（参加者=各回会員20名、一般20名）夏の沢登り、冬の雪山登山を通じてリーダー養成と登山技術の向上を図る。それぞれ岩登り講習会、冬山登山講習会を事前に開催し、その後、沢登り、冬山登山を実施（昨年度はコロナ感染症の影響で中止）。
		干支の山：年度末にその年の干支の山を登山。一般募集も実施、定員40名。20年以上毎年実施している行事で会員外の参加者も多い。
		フーストエイド講習会：登山における傷病者への初期対応技能の向上を図り、事故や遭難の減少、救命率の改善、後遺症の軽減をめざして開催。一昨年度、昨年度とコロナ感染症の影響で実施できなかったため、今年度は一般参加者を含め実施したい（当会参加者20名）。
東九州	九州脊梁山脈トレイルランへの協力：運営スタッフとして協力。9月下旬。	
	第9期登山入門教室：座学3回、実践講座4回、計7回の初心者向け登山教室。教材、講師等全て会員の手作りで実施（定員は30名程度）。	
宮崎	宮崎市山岳協会共催の登山：宮崎県内の他山岳と共催で山岳関連事業（山の日記念事業・山開き・登山技術講習会・山岳遭難事故対策・講演会など）に取り組み、安全登山の振興に努める。	
	外部からのサーバー攻撃に対応した新たなHP構築に取り組み。	
I - 5 インターネットによる情報提供事業①	DM	JAC広報ホームページ運営、維持管理（事業等情報公開、入会案内、JACからの広告など）。
		JACメールアドレス維持管理（JAC委員会、支部、同好会の会務メールアドレスの提供）。
		Webサーバーにて会務データ処理と活動記録データの電子保存。
		YouTube、Zoom等で会務のWeb配信の構築。
		ウェビナーをYouTube配信用に動画編集。
		主管庁関連の登山事業、環境保全事業、山岳研究調査事業の紹介掲載等。
JAC所蔵資料等の公開、表彰事業のHP上の告知。		
委員会、支部等主催の各種行事の案内掲載。		

事業名	支部名 委員会名	事業内容
I - 5 インターネットによる 情報提供事業 ②	DM	支部が運営するホームページを会員募集手段としてデザインと閲覧性をスマートフォン向けに向上させる。 悪意あるメールやウイルス送付に対するセキュリティ強化を図る。
	YC	図書室や資料映像委員会が管理する、図書及び資料のデジタル化（120周年記念事業）。
	自然保護	語りの場：経験豊富な山の先輩の体験や思いを語ってもらおうオンライン講演会「語りの場」を実施する。 山岳環境の変化を検討する基盤となる「山岳写真データベース」の運用を行なう。
	家族登山普及 国際	サイト「親子で楽しむ山登り」の管理と運営：これまでに構築したサイトを通じて、安全な家族登山の情報を提供する。 日本山岳会のホームページを利用しての、日本の登山界の情報の編集及び発信。
	図書	「山岳図書を語る夕べ」「山岳史懇談会」などの講演会活動には力を入れるつもりだったが、コロナ禍のため、リアルなイベントはすべて中止。今年はおオンラインで「読書会」を実施できたので、リアルとオンラインでの併用による開催を模索する。できれば会員外も含めたZOOM講演会を、春と秋に1回ずつ実施していきたい。
	資料映像	デジタルミュージアム（DM）に向けてのコンテンツ作成：収蔵品、人物（歴代会長等）、遠征隊等の資料調査、資料のデジタル化を実施。DM開設に向けてのコンテンツ作成。（120周年記念事業）
	山の日 事業	2020年～21年に『山』に連載した「地域発山の日レポート」の継続：全国山の日協議会からの要請に協力する形で同会のホームページに継続連載。
	YC	ヒマラヤ登山塾：ヒマラヤなど海外の高峰へ憧れる登山者を対象に、定期的な座学や講演を実施し、身近なものだけでなくつつあるヒマラヤ登山の知識、体験、情報を下の世代に受け継いでゆくことを目的とする。
	山研	日本山岳会および信濃支部が主幹するウエブサイトの運営に協力する。
	科学	フォーラム「登山を楽しくする科学」の開催：登山や自然を科学の目を通して見る楽しさを紹介する12回連続の好評イベント。このイベントは2009年を第1回として2019年まで11回連続して開催してきたが、コロナ禍のため中断。本年度こそは開催すべく準備する。時期は10月頃を予定。一般登山愛好者150名程度の参加を期待。
I - 6 登山文化の普及事業 ①	資料映像	資料映像委員会講座の実施：収蔵品、人物（歴代会長等）、遠征隊等を紹介する講座をリモート併用で年4回開催。 展示製作：展示物（パネル等）を製作して年次晩餐会、外部への巡回展等に供する。
	家族登山普及	家族（子供）登山の実施及び普及：年6回の家族登山教室を開催し、安全な家族登山の普及を行なう。
	山の日 事業	「山の日」記念イベントへの参加、協力：山形県で開催される第6回「山の日」記念全国大会（8月）への参加、協力。 夏フェスタ名古屋、同福岡など、各地で開催される「山の日」イベントへの協力。
	岩手	一般財団法人 全国山の日協議会との連携：全国カバナーのネットワークを持つ公益法人JACへの期待に応えるべく連携を深めたい。 地域の環境保全、文化活動、健康増進などでの協働。多岐にわたる情報発信のコンテンツ作りでの貢献、情報交換。
	宮城	「山の日」公募登山：8月11日（木）山の日の制定記念として、ほとんどの人が登っていない里山に、市民公募登山を企画している。明治26年正岡子規がひとりりて通過した街道で、人家は一軒もなく、紀行文に懐かしい道中だったと記している。現在は笹峠および秋田県横手市の黒森峠など一部を残して自動車道が利用できるため、歴史探訪の登山奨励を行なう。岩手支部会員が10名、一般5名の参加を予定。
	秋田	親子登山：9月に開催する。目的は登山文化の普及活動。対象者は登山に関心のある親子。参加支部員数=10名（コロナウイルス感染状況によるが状況に応じて開催）。
		自然学習センター主催の小学生の太平洋登山に年2回程、ボランティア協力する予定。
		太平洋観光開発が主催するトレッキング登山やスノーシュートレッキングにボランティア協力する予定。

事業名	支部名 委員会名	事業内容
1 - 6 登山文化の普及事業②	山形	「学校から見える山」イラストプレゼント及び展示会：支部で実施してきた「学校から見える山イラストプレゼント事業」は7年目を迎える。今年度は前年作成した「朝日連峰、月山・葉山」のイラストを増刷し山形市内の小中学生に贈呈。併せて地元山に関する講話を行ない、子どもたちの自然への関心、山への愛着を高める。また「山の日」全国大会（山形県）の開催に合わせて、これまで作成してきたイラスト作品の展示会を行なう予定。
	福島	山の日親子登山：8.11「山の日・親子登山」はコロナ感染拡大により過去2年間中止した。今年度は新たに県岳連も加わり、支部・県岳連・地方紙（福島民報社）との3者共催で実施することとした。特に地方紙は広報の面で県内読者に強い影響力があり、参加者拡大と登山文化の敷衍に努める。
	茨城	自閉症者協力登山：年1回、7-8月頃に自閉症者とその家族に協力している。昨年度はコロナ禍で要望がなかったが、状況により応援体制は検討する。
	栃木	親子登山教室：年1回、夏休み期間中（7月）に実施。一般参加者30名程度。今回で10回目。大自然に触れながら親子の絆を深め、他人と協働しながらの人格育成の一助とする。栃木県教育委員会、日光市教育委員会、日光市教育委員会、栃木県山岳・スポーツクラクライミング連盟の後援を得る予定。支部会員はボランティアで準備を行ない、指導者・補助員として参加。
	群馬	ぐんま山フェスタ2021：県岳連、県労山との共催で実施予定。支部会員はボランティアで講師、相談員、補助員として参加。詳細は未定だが資料展示などを想定。昨年実績では縮小開催のため1200人の来場だったが、以前は6000人以上が来場。今年度は通常開催の形に戻し大幅な来場者増を目指したい。
群馬	山の日イベント in 谷川岳：年1回、山の日に実施（一昨年、昨年は中止）。みなかみ町、県岳連、県労山、谷川岳エコツーリズム推進協議会とともに、谷川岳周辺で実施。自然観察から登山まで数コースに分かれて山を楽しむイベント。例年100人前後の一般参加があり。群馬支部は山麓の自然観察ハイキングを実施。谷川岳山頂へのツアーや清水峠越えなどにも講師、スタッフとして参加。	
埼玉	チャレンジキッズ：県岳連主催の子ども登山体験事業に協力。 大久保春美記念・障がい者とのふれあい登山：4月3日。一般社団法人埼玉県障害者スポーツ協会と埼玉支部の共同主催で開催する。第12回「ふれあい登山」は東武東上線寄居駅を起点に鐘撞堂山周辺で実施予定。参加者は障がい者（自力歩行が可能な方）とその家族、支援者、埼玉県障害者スポーツ協会。関係者（約50名）及び埼玉支部会員（約30名）。	
千葉	青少年の育成事業：①児童養護施設 社会福祉法人「晴香園」の課外活動を、自然に親しみ・安全に登山する目的で支援する。3回～4回/年。児童・職員 約10名。支部会員はボランティアで指導者・補助員として各回5～10名が参加予定。②茂原市子どもセンター主催の「親子登山」を支援する。千葉支部共催、茂原市教育委員会後援。親子15組程度。支部会員は、指導・補助員として5名程度参加。12月実施予定。③支部の宿泊施設のある千葉県銚南町にて親子登山教室の開催を行なう。銚南町と共同で開催予定。支部会員は、指導・補助員として5名程度参加、実施時期未定。	
東京多摩	「山の日」関連事業の実施：8月11日の国民の祝日「山の日」に、県内山岳団体（千葉県山岳・スポーツクラクライミング協会、勤労者山岳連盟）と共同で講演会を行なう。講演者は著名登山家を検討中。一般参加者を公募、定員は500名規模を予定。教育・啓発事業：房総の山の植生や地形、地質をメインに観察しながらウォーキング。地域の自然愛好者向けに一般公募とする。4-5回/年。一般参加者10名程度。支部会員はスタッフとして参加者の支援を行なう。県内の史跡めぐりが健康ウォーキングを行なう。一般公募として、6回/年・程度を開催する。	
神奈川	「山の日」のPR：「山の日」を迎えるにあたり、PR活動を8月6日～14日の土曜、日曜に行なう。 「新春の集い」開催：前半に会員以外も参加可能な講演会を開催（会員80名、会員外20名程度）1月。 かながわ山岳誌プロジェクト：神奈川支部設立を記念した5年計画（コロナのため2,3年延期の見込み）で、神奈川県下の2.5万分の1地形図に記載された山名と峠及び登山対象となるピークのすべてに登り、日本山岳誌の神奈川県版を作成し、それらの情報提供などを通して社会に貢献する。 山の日関連事業の実施：記念講演会を一般公開で実施する。(1) 神奈川大学体育会山岳部（団体会員）による活動報告。(2) 外部講師による講演会。 かながわ山の日イベント協力：神奈川県山岳連盟傘下としての活動として、かながわ山の日イベントとしてフォトロゲイニングを支援する。スタッフとして2名程度派遣。	
越後	第5回糸魚川ジオパーク子ども登山教室：8月11日「山の日」記念の支部行事として、第5回子ども登山教室を糸魚川市の戸倉山登山か兵馬の平で植物観察会を実施する。糸魚川地域の小学生を中心に20～30名程度募集し、自然保護委員会となり役員関係者が全面的にバックアップする。過去2年はコロナ禍で中止・延期を余儀なくされており、宿泊やバスチャーターなどをやめ日帰り現地集合・解散とする予定である。更に糸魚川子ども登山教室のノウハウを各地域にも波及させて、子ども登山教室を実施する環境を模索して行きたい。	

事業名	支部名 委員会名	事業内容
I - 6 登山文化の普及事業③	富山	第12回山岳講演会：5月中旬実施予定。一般参加者を含め80名程度。エベレスト登頂50周年記念写真展と支部会員によるヒマラヤ登山についての講演を予定。富山県カナルデラ砂防博物館と日本山岳会富山支部の協賛で実施。 「山の日記念」親子登山：山の日を記念して一般募集の親子登山を実施。参加者は20~30名程度。夏の猛暑考慮し9月開催も含めて検討。場所未定。 第7回白山親子登山教室（座学7月、登山8月）。一般参加15名、支部員10名。座学日程は登山前月の一日を想定、山の楽しみ方・天候・歩き方・緊急時対応など支部会員により講義。登山は支部員サポートにて白山室堂泊1泊2日の予定。 第5回秋山親子登山。10月 一般参加10名 支部会員10名。白山親子登山の初回から7回目までの参加者・参加希望者を優先とする。支部員はボランティアとしてサポート。
	石川	岳都松本山岳フォーラムの実行委員として運営に参加。
	信濃	山の日記念「親子登山教室」：富山山周辺（高鉢から西白塚）で。新聞等で募集。親子10組程度を予定。講師を含め支部会員15名程度が随行予定。
	静岡	第5回南アルプス写真展：山岳4団体（県岳連、市岳連、労働山、日本山岳会）で各団体の会員に募集。静岡県、静岡市、静岡県教育委員会、静岡市教育委員会、地元新聞社等に後援を依頼。
	東海	ボランティア活動、視覚障がい者支援登山：春と秋の2回開催予定。参加者（一般視覚障がい者、支部員）。 知的障がい者支援登山：SON愛知と協働。参加者（知的障害者、SON愛知サポーター、支部員）。 親と子のふれあい登山：自由が丘幼稚園。参加者（幼稚園児親子、幼稚園職員、支部員）。
	京都・滋賀	試験観察中少年支援登山：名古屋家庭裁判所と協働。年1回開催予定。参加者（少年、裁判所サポーター、支部員）。 「山の日」記念の関連事業の実施：京都新聞社の後援を得て、11月に「ファミリー登山」を実施。50名程度の一般・会員参加を予定。支部会員は指導者、補助員としてボランティアで参加。
	関西	山水会講演活動：京都新聞社、京都府山岳連盟、滋賀県山岳連盟等の後援や協賛を得て「登山活動」「登山文化」の啓蒙の為に講演会を実施。年2回程度、4月、10月頃に実施。会員、一般を含め80名程度が参加見込み。支部会員は会場要員、補助員として参加。 「山の日」関連事業：「大阪府山の日」は11月。8月に「山の日講演会」、秋に子供を中心とした「わんぱく探検」を実施。11月に山岳図書の著者による講演と懇談の「著者と語る会」を開催。
	広島	「登山文化の伝承」を継続実施：登山が他のスポーツにない側面として持つ文化的行為を広範囲に捉え、これまで関西支部が実施してきた文化的活動の幅を広げ「登山文化の伝承」を継続実施中。山岳書、山岳画、山の音楽、山の民俗・宗教、関西岳人伝次の5つのパートに分けて順次実施し継続中。 親子登山教室：平成29年度休止した支部継続事業の親子登山教室を令和2年度、公益事業部に登山振興委員会を新設し再開した（年4回）。コロナ対策で再開2年目の令和3年度は1回の実施に止まったが、従前の実績を生かし、広島市教育委員会の後援を得て募集案内を市内全小学校へ配布したり、地元新聞に募集広告を掲載（無料）。年4回実施で児童延60名、保護者延40名、支部会員差ポーター延40名が参加予定。
	四国	ひろしま「山の日」県民の集い事業：「山の日」制定を働きかけた「ひろしま『山の日』県民の集い』実行委員会の主要メンバーに当初から広島支部会員が加わり、官民一体となってひろしま「山の日」県民の集いを実施してきた。令和4年は6月5日（日）に北広島会場でジュニアアツリークライミングおよび初心者登山教室を実施。参加者はジュニア（小学生以下）を含め延100名、スタッフ延40名を予定。従来行なってきた東広島会場の登山教室は調整中。
	福岡	「山の日関連事業」及び「3支部交流事業」：「山の日」に徳島県や他団体と連携し、「親子で学ぶ安全登山（仮称）」を実施する。参加予定は親子10組程度、高校生10名程度。 ロングトレイル・古道をテーマとした登山教室：地域の大縦走路をテーマとし会員、一般の方々双方を対象に「登山教室」を開講予定。背振山系全山縦走（基山から十坊山まで約75km）、宝満山から英彦山修験道トレイル（約75km）を、それぞれを何回かに分けて全山縦走と古道調査を行なう予定。
北九州	家庭裁判所が行なう短期補導委託（登山）：非行を犯した少年に登山を経験させることによる、更生意欲等の喚起を期待しての取り組み。少年、家族、裁判所職員、当支部で実施。今年、2回を予定（総勢1回15名程度）。	

事業名	支部名 委員会名	事業内容
I - 6 登山文化の普及事業④	北九州	幸幼稚園ハイキングサポート登山：北九州市門司区幸幼稚園児の風師山ハイキングをサポート。会員・園児、保護者、未就園児、職員の総勢 120 人参加予定。年度末に同幼稚園児の風師山ハイキングお別れ登山総勢 120 人参加予定。 知的障がい者対象支援「登山教室」：8月に里山を中心に知的障がい者とその保護者を対象に実施。（参加者＝会員 25 名、障がい者 15 名、保護者 20 名）NPO 法人スベシアルアスリート熊本共済
	熊本	山の日登山：山の日制定以降、県山岳連盟と共に毎年 8 月 11 日に実施。例年、県内高等学校山岳部の協力を得て、生徒による山の日宣言を行なっている。昨年度、昨年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で中止したが、今年度はコロナの終息を期待して実施したい。当会参加者 30 名 山の日登山参加者 300 名を予定。
	東九州	「山の日」記念登山：昨年度は、全国「山の日」大会が大分県（九重町）で実施。この催しに関連し、県内 4 団体で作っている山の日登山実行委員会として取り組みを進めている。
	宮崎	青少年登山教室：第 19 回青少年体験登山大会。初心者に山登りの楽しさ面白さを体験してもらい登山の普及につなげていく。（一般初心者対象の一日体験登山、参加者＝例年 60 名～70 名予定、会員 10 名程度、久住山山頂を目指す） 少年の輔導登山（宮崎家庭裁判所から委託）：裁判官・調査官・友の会・保護者と共に会員約 15 名で実施する。 ときめき家族登山：小学生とその家族らを一般公募し、登山・野外活動などの自然体験活動を通して、自然を愛する感性豊かな子供の育成に努める（会員 20 名以上で実施）。
	山研	上高地町会行事（開山式、閉山式、一斉清掃等）への参加及び上高地消防隊活動に協力する（開所中）。
	山の日 事業	全国各支部への「山の日」関連事業の支援：「山の日」運動は従来のセレモニー、イベント中心の活動から、草の根的な広がりを持つ段階に入っているとの認識に立ち、各支部主催の講演会等の催しへの支援を通じて活性化に貢献する。日本山岳会独自のパンフレットの作成等による「山の日」の普及。地方自治体や企業などが主催する「山の日」関連事業への賛助、協力。
	秋田	太平山開き市民登山：毎年 6 月 2 日曜日に行なわれる。支援者を派遣し協力する予定。支部会員 10 名程度。秋田市地区からの参加者は 50 名程度見込む。
	福島	ふるさとふれあい登山支援：南会津町主催福島百名山「斉藤山（さいとうさん）登山」のふれあい事業に支援団体として支部員を参加させる。
	茨城	県南ロングトレイルのルート研究会：和田会員の主導による「茨城県北ロングトレイルプロジェクト」（320km）は、現在、袋田地区の第 1 回ルートが開通した。今後 5 年間の開通予定だが、茨城支部としては「県南ロングトレイル」を実現すべく、「ルート設定研究会」の 4 月発足から 3 年後を目標に、県と行政区住民やボランティア活動者の協力を依頼し、ルートの設定を進める活動を行なう。
	I - 7 地域社会および地域文化の維持発展①	群馬
越後		第 65 回高頭祭（兼弥彦山たいまつ登山祭）：「山の日」記念事前事業として 7 月 25 日高頭祭を開催する。本部・支部会員 80 名と一般 20 人の約 100 人規模を参加目標で広く呼びかける。弥彦山大平園地の高頭仁兵衛翁寿像碑前で遺徳を偲ぶ行事として実施し、本部からの米實をお招きして記念講演も行なう予定である。昨年に寿像修復工事を終え全面リニューアルしたが、今年は高頭翁寿像についての説明看板を新設して除幕式も行なう予定である。昨年はコロナ禍第 5 波の縮小開催で参加制限したため、今年は本部米實や募金寄付者関係者など多くの方々に参加を呼びかける。高頭祭終了後弥彦山本峰に行き、夕刻よりたいまつ登山祭に参加し山頂奥の院から御神火を神社まで運び弥彦駅まで市で行進する。
富山		高頭仁兵衛翁寿像碑の説明看板新設：弥彦山大平園地の高頭仁兵衛翁寿像碑設置場所近くに説明看板を新設する。昨年の寿像修復募金残余金による新規事業として、支部役員会で了承承認を得て説明看板新設することになり、設置場所の弥彦神社の許可、国定公園管理者の弥彦村や新潟県への申請、工事業者との経費折衝を行ない、7 月 25 日高頭祭でお披露目する予定を進める。新潟総合テレビ（NST）の弥彦山県民登山フェスティバルに協賛。例年 500 人程に登頂証明を発行したり各種支援協力を行なう。
石川		第 37 回播磨祭及び高頭山記念登山・6 月 5 日（日）に実施。一般参加者 40 名程度。富山市旧河内村の播磨上人頭頌碑前において、播磨上人の業績顕彰のための式典及び高頭山への記念登山を実施する。 山の日記念事業：久弥祭 深田久弥を愛する会と共催

事業名	支部名 委員会名	事業内容
I - 7 地域社会および地 域文化の維持発展 ②	福井	秦澄祭・秦澄ウオーク(秦澄塾との共催):5月29日、小川登山口から行者道を経て越知神社へ、ここで神事を行なう。昼食をしながら野外コンサートも。一般公募100-120余名、支部会員15名程が参加予定。
	山梨	第5回田部祭と記念登山:奥秩父の開拓者である田部重治を顕彰。遺徳を偲ぶ碑前祭と西沢渓谷周辺の記念登山(山梨市三富支所主催、山梨支部協賛)5月15日予定。下記木暮祭との連携のもと笛吹川源流、西沢・東沢渓谷入口で実施する。一般参加者30名の見込み。記念登山は一般参加者10名、支部会員10名参加予定。
	信濃	第62回木暮祭と記念登山:上記の田部重治とともに奥秩父の開拓者であり、当会第3代会長である木暮理太郎の遺徳を偲ぶ碑前祭と瑞牆山・金峰山・南アルプスを望む横尾山記念登山。主催は木暮碑委員会(構成団体=当支部・山梨県山岳連盟・増富ラジウム峡観光協会)。地元山梨県北杜市の協力支援のもと、当支部が主管する。10月16日、記念登山一般参加者5名、碑前祭一般参加者20名、支部会員20名参加の予定。
	信濃	第76回ウェストン祭:本部主催/信濃支部主幹 6月4日記念山行、5日碑前祭・午餐会。ウェストン師の功績を偲び、山の安全を祈願すると共に記念講演を通じて、登山の振興と環境保全等の啓発を行なう。前日4日の徳本峠越え記念山行は、現在徳本峠道が改修中で通行できないため、明神から徳本峠の往復等、実施方法および一般、子供達の参加の可否についても検討する。
	関西	上高地開山祭に参加。
	四国	藤本祭:9月に六甲山ロックガーデン入口の藤木九三レリーフ前にて、藤木九三を偲び、登山振興に繋げる祭事を行なう。大阪府山岳連盟・兵庫県山岳連盟共催で「山の日」事業として実施。
	北九州	第10回小島烏水祭:高松市峰山公園にて開催。顕彰碑前にて碑前祭を実施し、登山愛好家及び一般市民に対する登山振興を図る(主催:日本山岳会、主管:日本山岳会四国支部、実施予定日=11月、参加予定人員=80名、新型コロナウイルスの感染状況により規模等については再検討する。
	宮崎	第5回 横有恒 碑前祭:北九州市門司区の風師山横有恒記念碑前にて実施(総勢30名程度出席予定)。
	国際	第36回宮崎ウェストン祭:11月3日(文化の日)に高千穂町役場と共催で実施。参加者約170名、一般90名、地元小学生約20名、日本山岳会員60名(宮崎支部20名を含む九州5支部会員)が参加予定。式典後、地元村おこし協議会主催の安全祈願祭及び芸能大会に参加し、地元の人々および日本山岳会九州5支部会員との交流及び親睦を図り、登山の振興に努める。(令和2年および令和3年11月3日はコロナのため中止)。
	I - 8 国際相互理解の推 進	宮崎市主催の公民館祭りに参加し、パネル展示等を行なう。 各国の山岳会等との連絡を図り、情報交換、親睦に資する。 海外からの日本の山岳と登山に関する問い合わせの対応を行なう。 国際交流を目的とした国内外における登山、及び海外登山講演会の企画、開催を行なう。 松本市海外都市交流委員会(カトマンズ、グリーンデルバルト)に参加。
I - 9 120周年記念事業 ①	山の天気ライブ授業:安全登山の啓発活動の一環として、屋内での講義及び登山の現場での観天望気の方法などの登山技術を身につけてもらうための講習会を会員・一般登山者を対象に行なう。3月千葉支部・6月越後支部・10月神奈川支部・11月埼玉支部開催予定。 グレート・ヒマラヤ・トランス・トラバース:日本山岳会や登山界がこれまでに実践したヒマラヤ高峰登山の足跡を辿りながら、ヒマラヤの踏査を通じて、自然環境の変動や生活環境の変化を検証し、新たなヒマラヤ登山の方法や楽しみ方を模索し、今後のヒマラヤ登山やトレッキングへの興味を高める。 2022年ブレモンズーン期は、「日本山岳会東ネパール踏査隊2022(East Nepal Travers of The Japanese Alpine Club2022)」が、ネパール・チベット国境上のTipta La(青木文教入蔵の峠、及びルンバサンバマ・マカルーエリア)を踏査する予定。 ヒマラヤキャンプ:若手ヒマラヤニストの育成を主目的として、未踏峰登山を目的として広くメンバーを募り実施。ポストモンスーン期に実施予定。 高峰登山活動を通じて、登山技術の向上と「登山文化の継承と発展」を目指す。2022年度は、ブレモンズーン期に、ネパールヒマラヤにあるペリヒマール山群のPhungi峰(6524m・未踏峰)を目指す予定。 エベレスト登山50周年記念フォーラム:昨年度に実施した記念フォーラムと「写真で振り返る日本人のエベレスト展」は好評であった。今後は主要な支部や山岳展示施設との共催なども視野にいれ、広く登山愛好者にも参加を呼びかけ、今後の会員獲得にも寄与する写真展を開催する。 山岳古道調査:文化的・歴史的・地理的な観点から精査した120の古道を全国支部を中心に調査をする。調査記録を纏めその記録した情報などをホームページなどに公開。今後の古道の保全や、公開によって一般登山者の関心を集めると共に、地域社会の発展にも寄与することを目指す。	

事業名	支部名 委員会名	事業内容
I - 9 120周年記念事業 ②	記念事業	デジタルミュージアム(DM)：資料映像委員会を中心に、収蔵品、人物(歴代会長等)、遠征隊等の資料調査、資料のデジタル化を実施。DM開設に向けてのコンテンツ作成。 日本・エクスドル外交関係樹立100周年記念友好合同登山:2021年にエクスドル山岳会員16名を日本に迎え、富士山、槍ヶ岳、立山への合同登山を予定したが、コロナ禍で海外渡航やビザの発給が停止したため実施できなかった。12月にエクスドル山岳会長フラード氏と連絡を取り合い、2022年8月28日~9月8日に実施することで予定している。
I - 10 全国山岳古道調査 (各支部)	北海道	第一次対象に選定された「増毛山道」「殿様街道」の調査を令和3年度に引き続き実施すると共に第二次対象に選定された「猿留山道」「様似山道」「濃屋山道」「本願寺道路(中山峠旧道)」についても順次調査に着手する。調査山行の参加者は1回の調査で5~10名の見込み。(主催・支部関係者)
	青森	恐山をめぐる参拝道(川内口コース)。
	秋田	白木峠の踏査を行なう。5月中旬岩手支部と共同で秋田街道の調査を行なう。
	宮城	今年度から本格的に調査活動を開始する。調査担当者を設定し分担して調査する。
	群馬	支部の最重点事業として、プロジェクトチームを中心に全体で取り組む。
	千葉	引き続き県内の山岳古道の調査を行なう。調査時期は11月~3月ごろを予定している。
	東京多摩	対象地域 山岳古道「日原往還と富士信仰の道」と山岳古道「古甲州道」 地元への協力依頼とヒアリング、現地調査、「深堀スポット」等の選出と情報結果の取り纏め
	神奈川	対象は足柄古道(神奈川県側の旧道&静岡県側の足柄まで)、箱根街道(神奈川県側の旧街道&静岡県側の三島まで)。
	越後	越後山岳古道調査プロジェクト主催の調査山行に、地域や地元関係者を含めたヒアリングを行ない資料まとめを行なう。
	石川	6月・7月 第2土曜/日曜日 支部員4名調査 移動サポート2名予定。
信濃	信濃支部担当古道の実地調査を行なう。信濃支部が担当する5古道が決まったので、古道毎にプロジェクトを結成し、調査およびまとめを行なう。	
山陰	大山古道、石見銀山古道の2ルートの古道調査。令和3年度は文献調べ、車による調査(大山)、及び一部踏査(石見銀山)を行なったが、雪解けを待つて4月以降本格踏査に入る。	
広島	活動エリア内の山岳古道を文化的、歴史的、地理的な側面から調査し、本部に報告することで「日本山岳古道120選」の編さんに協力する。本部の2025年公開(書籍発刊等)により地元はもとより全国に向けて地域内山岳古道を紹介して、それらの意義を高める。調査はプロジェクトメンバーを中心に会員の参加を求めて選定古道別で実施。参加支部会員延150名を予定。	
熊本	支部計画に基づき実施をはかる。	
東九州	「峯入りの道」を実施。支部員有志で行なう。	
II - 1 上高地山岳研究所	山研	山研施設の随時見学を受け付ける。(開所中) 遭難防止対策他、山岳地域の気候変動や野生動物調査等に資するため、試験的に山研に設置した気象観測装置およびネットワークカメラにより、通年において継続的な気象データ(気温・湿度・風速・風向・降水量・積雪深)の観測および野生動物調査データを蓄積し将来の研究に生かすため観測を引き続き行なう。
	山研	自然エネルギー利用研究:神奈川工科大学との共同研究により、山小屋等での効率的な発電・運用を目的としたミニ水力発電のシステム開発と検証を行なう。取水効率向上と管理人による保守作業軽減のため引き続き取水口の改良を行なう。
II - 2 小規模水力発電の研究	山研 (ミニ水力発電)	ミニ水力発電の施設公開:山研開所期間中(4月下旬から11月初旬)は、ミニ水力施設を随時見学受付する。自然エネルギー利用研究への取り組みと発電施設の説明を山研委員会と連携して行なう。 自然エネルギーの利用促進:昨年度に引き続き、建物内照明等の電気設備電源のミニ水力化工事を山研委員会と連携して進める。山研における発電電力の利用モデル構築について山研委員会と連携し検討を行なう。

事業名	支部名 委員会名	事業内容
II - 3 山岳図書館の運営 事業	図書	日本有数の山岳専門図書館として、蔵書の保管と収集のさらなる充実を図り、広く公益に資するよう努める。 2年続けて「図書交換会」が実施できなかった。今年こそ年次晩餐会の復活とともに「図書交換会」も復活させたい。首都圏の会員だけでなく地方会員も参加できるため、会員相互の交流としても有効なものだと思ふ。ぜひリアルな開催を望みたい。
II - 4 資料映像研究	資料映像	全国山岳博物館等連絡会議（第25回）：連携館との情報交換、収蔵資料紹介、展示協力等を行なう。ネパール国際山岳博物館連携を含む。
II - 5 山岳地域の空間放 射線量測定	福島	県内主要山域の放射線測定と集約4月から10月までの間、月ごとに吾妻山系、安達太良山系、那須・甲子山系3地点における放射線量測定を過去10年間実施してきたが、今年度も実施する。
II - 6 登山道調査等国土 地理院との連携	国土 地理院	会員に呼びかけ、会員からの地図修正情報を国土地理院に提供する。
	自然保護	森づくり連絡協議会との連携：森づくり連絡協議会と連携して当会における山岳環境保全について協働する。
	青森	白神山地ブナ林再生事業：森の再生事業を通して白神山地の自然に親しみ、環境保全の思想の普及、啓発を図る。年2回6月と9月に実施。一般参加者年10名。会員年10名。津軽森林管理署の協力を得て、一般参加者と共にブナ苗木植樹、育成地草刈などの森林整備作業を行なう。
	福井	森づくり：4月～11月まで月2回作業を行なう。敷地内の花壇整備、草刈り、池に繁殖したガマの除去、遊歩道の整備、小屋造り（今年こそは完成することを期待）。4月～11月まで月2回作業を行なう。
	東海	森づくり活動（猿投の森づくりの会）：愛知県有林「やまじの森」での森づくり活動・生物多様性豊かな環境林作りを行なう。雑木林・自然観察道の整備、人工林の間伐などを実施する。森の大切さや機能についての教育、講座を行なう。保健保安林・土砂流出防備保安林としての機能維持・整備を図る。
	京都・ 滋賀	森づくり等の緑化支援活動：春と秋に滋賀県比良山麓のダンダ坊遺跡の登山路整備と緑化支援活動。年に会員、一般40名程度が参加予定。滋賀県大津市藤尾奥町の滋賀県有林、結いの森（藤尾の森）で、日本山岳会森づくり協議会の事業のひとつとして森林保全活動を行なう。併せて滋賀県の後援を受けて一般への「作業実務指導」も開催。毎月1回～3回実施。会員・一般を含め年100名程度が参加見込み。支部会員はボランティアで指導者5名・補助員10名として参加予定。
III - 1 森づくり活動	関西	本山寺山の森づくり活動：大阪府高槻市の「日本山岳会関西支部本山寺山の森」で、「社会貢献の森」の協定による森づくり活動を行なう。近畿中国森林管理局長と協定（2020年4月～2025年3月）締結中。関西支部管轄指導の下に活動主体団体「本山寺山森林づくりの会」で森林の保全、整備活動を月2回以上行なう。「関西支部自然保護委員の委員会」を定期的に開催、「本山寺山森林づくりの会」に対し支援する。
	広島	八幡温泉再生化事業：八幡温泉再生協議会を支援して、過去に失われた生態系、その他の自然環境を取り戻し、生物多様性の確保を通して自然と共生する社会の実現を図ることを目的に再生事業を行なう。広島支部は「霧ヶ谷湿原自然再生地」（下流部2.5ha・上流部1ha）の保全活動（除伐、除草）などを、4月17日と6月5日に実施。両日合せ参加支部員延60名を予定、その他3団体が延20名が参加する。
	宮崎	森づくり活動等自然保護活動：宮崎市山岳協会（市山協）の一員として、昨年植樹した双石山小谷登山口の森づくりについて、市山協の仲間と下草刈等の手入れ作業を実施。宮崎支部が団体加入している「水源の森づくり」をすすめる市民の会の育林作業は、呼びかけに応じ随時参加。年末の清掃登山では登山前に双石山の登山口周辺の清掃作業を宮崎市山岳協会に所属する8団体と共同で実施。
	高尾	小下沢国有林の森づくり活動：東京都八王子市北高尾の小下沢国有林において、除間伐、下刈り、植樹、作業道の補修など森林整備作業を、毎月1回高尾の森づくりの会員及びび法人会員参加者で実施する。年間延べ千名の参加者を予定している。また、間伐材を利用した木工工作、並びに親子森林体験スクールなどの自然環境教育活動も併せて予定している。自然環境教育活動の会員参加者は延べ約50名、受講者は延べ200名程度。 木下沢国有林の森づくり活動：八王子市裏高尾の木下沢国有林において、除間伐、作業道の補修などの森林整備作業を毎月1回主催し会員参加者で実施する。年間延べ200名の参加者を予定している。4月には植樹祭を予定している。また、青少年を対象とした自然教育活動でも植樹を予定している。 三宅島緑化再生活動：春と秋に三宅島の火山災害跡地の緑化再生活動を主催し実施する。三宅島へ赴き、植樹や道（遊歩道）づくりなどの作業を地元ボランティア。一般募集者を含め15名（延べ30人日）の参加を予定している。例年は、年2回の予定であるが、本年度はコロナ禍のため未定である。

事業名	支部名 委員会名	事業内容
Ⅲ - 2 山岳環境の保全保 護活動①	北海道	山のトレイル整備：北海道山岳9団体が構成する「美瑛富士トレイル管理連絡会」のメンバーとして、十勝連峰美瑛富士避難小屋に夏山シーズンに設置される携帯トイレブースの点検・清掃活動と小屋周辺の環境整備を実施（6月下旬～9月下旬に日帰りまたは1泊2日で会員等数名が参加予定）。 高山植物盗掘防止パトロール：北海道生活環境部の生物多様性保全事業「大雪山高山植物盗掘防止監視業務」を受託。6月～10月に大雪山国立公園内のパトロール業務に協力。支部の会員、会友約30名が参加し、のべ120日程度のパトロールを実施。事前に参加者を対象に説明会を兼ねた自然保護研修会を5月に開催予定。費用は北海道庁からの助成金による（自治体の委託事業）。
	青森	八甲田山登山道整備ボランティア：事業主体＝青森県観光国際戦術局観光企画課、事業内容＝北八甲田山系の登山道維持活動。6月から10月の期間、登山道の刈払作業をメインに、破損・危険箇所等のチェック、報告を行なう。青森県内山岳団体延べ180名、JAC青森支部参加者10名
	岩手	清掃登山：比較的集落に近い位置にありながら、藪が手強くてほとんど登られていない方面森（カタツラモリ・749m）を探索。行政境界の尾根道の清掃整備は容易と思われるが、取り付き方のルート選定を研修（9月19日予定。支部会員の参加見込み15名）。 岩手山避難小屋管理：岩手県山岳協会が受託管理している岩手山8合目避難小屋に、共催（割当て当番）として参加。燃料食糧等の荷上げ、小屋清掃、山岳パトロール等の活動に、今年度も10名ほどの会員が参加予定。経費は県山岳協会の負担。
	秋田	太平洋登山道整備：年1回、10月に実施。太平洋歩道の刈り払いや、案内板、ベンチ等の補修、設置等を行なう。支部会員8名程度を見込む。
	福島	秋田県生活環境部自然保護課の「山の環境整備協働事業」等に参加。秋田中央地区山岳協議会の「太平洋国立自然公園内登山道整備」に参加、協力する。
	栃木	登山道整備活動：県内主要山域の中で一般登山道の整備が進んでいない吾妻、安達太良、那須・甲子山系の登山道について、県山岳連盟加盟の山岳団体自然保護団体などへの働きかけを行ない、3か所、3日間の活動を計画実施する。 日光清掃登山：年1回、7月第1日曜日に実施。一般参加者200名程度。栃木県山岳・スポーツクライミング連盟・栃木県勤労者山岳連盟と共催で、日光山系の清掃登山を行ない、山岳環境の保全に努める。 那須クリンキャンペーン：年1回、9月第1日曜日に実施。一般参加者200名程度。栃木県山岳・スポーツクライミング連盟と共催で、那須岳周辺の登山道整備と清掃を行ない、山岳環境の保全に努める。
	埼玉	清掃登山（会員及び一般登山者を含む）：2022年7月予定：清掃登山を実施。（場所未定（県内）：参加者30名
	千葉	山岳環境保全事業：2019年の台風被害で通行止めとなった房総の山々の登山ルートの復旧活動を行なう。千葉県山岳・スポーツクライミング協会、勤労者山岳連盟、他関係団体、千葉県各自自治体と協力しながら、まずは一般ハイカーも訪れるハイキングルートの早期復旧を目指す。 登山道整備及び清掃登山：東京都レンジャーなどとの協働活動で登山道整備を実施。雲取山石尾根の石積みによる登山道複雑化の防止。5-6月、参加支部員数5名。
	東京多摩	三ツ峠アツモリソウ保護活動：三ツ峠山荘主人（東京多摩支部会員）の指導で除草作業。6月下旬。 御前山カタクリ保護活動：都岳連カタクリパトロールに参加。4月。参加支部員5名。 身近な水環境の全国一斉調査に参加：多摩川/秋川合流点付近の水質調査 6月 参加支部員数4名。
	越後	弥彦・国上エリアのパトロール及び清掃登山：令和3年度公益地域振興助成事業（一般財団法人新潟県職員互助会）で採択された「弥彦・国上エリアの持続可能な利用を促進。プロジェクト」は終了したが、支部自然保護委員会に移行し継続して行く。春季に雪割草・カタクリなどの植生保護パトロールや観察会、夏季に大平園地の芝生養生管理や登山道の草刈り、秋季に登山道整備清掃登山を実施。支部会員がリーダーとなり、広く毎回公募。参加10人程度を目標と呼び掛けるが、一般登山者へのマナー遵守や自然保護への興味を高めるように指導する。
	富山	高頭山登山道整備：5月28日に実施（コロナの状況によっては、令和3年度に実施した播磨祭の後の高頭山記念登山に登山道整備も実施することも検討）。
	石川	登山道整備：火燈山、火燈古道=5月第4土曜日。支部員10名参加予定。杉峠登山道=6月第4土曜日、支部員10名参加予定。
	信濃	山岳環境保全事業：信州豊かな環境づくり県民会議（長野県）の会員として、環境保全のPR等の啓発活動を行なう。高山植物等保護対策協議会（林野庁）に参加協力。徳本峠の登山道整備に参加し、豪雨災害で寸断された古道徳本峠道の復旧維持に協力する。
	東海	自然保護委員会の活動：①環境省事業モニタリング1000調査一山桜フィールドに於いて実施予定、②猿投の森の動物調査、③自然観察山行の実施、などを予定。

事業名	支部名 委員会名	事業内容
Ⅲ - 2 山岳環境の保全保 護活動②	北九州	森林保全巡視活動：九州森林管理局より受託している森林保全巡視員で九州地区の山を巡視活動を実施し報告している。
	熊本	森林巡視登山：年2回、春と秋に実施。森林管理局から委託された森林監視員を中心とする会員で、熊本県内の登山道の保全と清掃を実施。参加者は会員15名（昨年度はコロナ感染症の影響で秋季のみ実施）。
	東九州	スズタケ枯死の実態調査：平成25年から続けている「スズタケ枯死とシカカの食害実態調査」を、大分県植物研究会との共同作業で実施。6月、10月の年2回、定点観測と地点移動観測の調査する。
	宮崎	宮崎森林管理署から委嘱を受けている国有林森林保全巡視員（6名登録）について、山行等において国有林内の異常等があれば宮崎森林管理署に報告。
	自然保護	自然保護全国集会：令和4年時期未定（2日間）の日程で開催（主管支部未定）。参加者80名程度。支部自然保護委員会主催で開催。1日目は基調講演・支部活動報告、2日目はワールドスタディーを実施。基調講演については一般参加も考慮する。
	自然保護	機関紙「木の目草の芽」の発行：年4回（3・6・9・12月）発行予定。当会各部門、関連団体、一般購読希望者に配布する。自然保護関連の特集、コラム、委員会活動報告等を掲載する。
	自然保護	山岳団体自然環境連絡会への参加：月1回の定例会に出席して意見交換を行ない、「山岳団体自然環境連絡会」構成団体としてシンポジウム等を共同開催する。
	岩手	講演会・視察会：適時開催。山岳における自然環境問題をテーマに開催する。
	群馬	自然観察会：岩手県一戸町は令和3年、御所野縄文遺跡がユネスコ世界遺産に指定され注目を浴びている。特別天然記念物「珪化木」の観察地もある。登山対象は九戸村との境界に位置する二つ森（621m）の双耳峰で、自然観察のフィールドとして山行を企画した。4月24日、支部会員15名の参加予定。
	Ⅲ - 3 自然保護の啓発活 動	埼玉
埼玉		4月16、17日、高尾グリーンセンター森づくり研修会＆観察会（春）＝参加者10名
埼玉		5月15日、第8回大高取山自然観察会（春）＝参加者30名（会員及び一般登山者を含む）
埼玉		7月24～26日、白馬岳自然観察会「白馬岳の花」＝参加者10名（会員及び一般登山者を含む）
埼玉		9月11日、みどりの活動支援補助事業＝参加者10名（会員及び一般登山者を含む）
埼玉		10月15～16日、高尾グリーンセンター森づくり研修会＆観察会（秋）＝参加者10名（会員及び一般登山者を含む）
埼玉		11月27日、大高取山「秋の自然観察会」＝参加者30名（会員及び一般登山者を含む）
埼玉		3月25日「埼玉の自然を知ろう」シンポジウム＝参加者30名（会員及び一般登山者を含む）
埼玉		自然保護講演会 自然保護の啓発：11月 公募参加者：30名 参加支部員数：30名
東京多摩		自然観察会：地域山域内での自然観察会を実施。一般の人を募集し、自然環境に触れ親しみと癒しを楽しんでもらう。御岳山レンジョウマ観察会。参加者30名、参加支部員10名 8月
石川	東京都野火止用水歴史環境保全地域の保全活動：毎木調査11～3月、倒木整理1～2月、下草刈り4～11月、もやかき・落葉かき11～3月。定例活動は月2回（第2日曜日、第4火曜日）。運営会議は月1回（第4火曜日）。参加支部員数＝各回10名。	
福岡	自然観察会：参加支部会員10名予定。	
高尾	自然観察会：地質・ジオパークをテーマとする。福岡支部の会員関係者には地質の専門家が何名かおり、その方々を講師に、「ユネスコジオパーク」など地元九州の山歩きを味わいながら、山の地形や地質など、自然環境をまじかに観察し、さらに最近頻発する自然災害や復興など、人間社会との関わりを考えるための、野外活動を立案。	
高尾	森づくり展示会などの開催：「高尾の森の生き物たち」展示会を、3月末の1週間、高尾山のふもとの TAKA0599 ミュージアムにて実施する予定である。会員の説明員としての参加者は延べ約40名、来訪者は延べ約600名程度。また、東京都や八王子市の自然環境教育などの展示会にも出店して広報活動を行なっている。	

# 別表 令和4年度 事業計画 (共益)

(凡例：山研 = 山岳研究所運営委員会、高尾 = 高尾の森づくりの会、DM = デジタルメディア委員会、YC = YOUTH CLUB 委員会)

IV 会員向け事業 <山行、安全講習 など>①	山行	国内外の各種山行の企画・実施：当委員会の使命を踏まえ、会員のニーズに応える各種山行等を企画、実施する。「安全に楽しく、全国の仲間と一緒に、憧れの山に登ろう」が実施のコンセプトである。年間7回程度の山行等を実施予定。
	YC	①ユースクラブメンバー (青年部、WV部、学生部) 向けの講習会 (気象、ファーストエイド、その他) を実施し、メンバーの技術、知識の向上に努め、あわせてユースクラブ活動への積極的参加につなげる。 ②青年部、WV部それぞれの部において講習会を実施し、部員のレベルアップをはかるとともに、次期リーダーを育成する。 ③地方支部のユース年代会員の指導をサポートし、あわせてユースクラブメンバーと地方支部会員との交流を促進する。
	山研	登山講習会へのサポート (開所中)。
	支部事業	登山講習会 (登山教室指導者養成講習会)：公益財団法人 安藤スポーツ・食文化振興財団後援を得て支部登山指導者養成を目的とした講習会を、長野県小諸の安藤百福センターを基地として開催する。
	医療	ルームでの山の医療関係の講習会によって会員の啓発活動を行なう。
	科学	会員と支部主催の登山教室受講生を対象として山の医療の実地講習会を行ないJAC入会を促進させる。 探索山行：山の地形、地質、植生など山岳の自然や、歴史的文化的山岳遺産などを訪ねての1泊2日の山行。科学委員会委員を主対象とするが、興味を共有する一般参加者の参加も可。50名程度、6月頃を予定。 研修山行：始どの事業がコロナ禍で中断する中、せめて委員の自己研鑽としての山行を継続してきた。11月頃を目的に本年度も引き続き実施予定。20名程度の参加を見込む。
	北海道	支部山行・登山技術研修事業：四季を通じて沢登り、山スキーを含む多様な山行を道内各山域および道外の山で実施。毎回の参加者は5~20名程度。岩登り、沢登り、沢登り、氷雪技術等の技術研修も随時実施。
	青森	山岳スキー研修会：1月、青森スプリング・スキーリゾートで実施。参加者10名。支部春山山行：GWに酸ヶ湯近隣にベースを設け、八甲田山岳スキーを行なっている。参加者10名。
	岩手	支部晩秋山行：11月下旬、初冬の八甲田山仙人峠とヒュッテに泊り、雪山の感覚を確認する。参加者10名。遭難防止講習会：定期開催。技術指導体制を整備することで、ステップアップしたいと考えている初心者や若手会員に成長の機会を提供。講師を招聘した講演会や指導員を招いた技術講習会、遭難防止対策講習会を企画・開催し幅広く勧誘機会を作る。
	宮城	月例山行：毎月1回継続。3密回避を念頭におき県外への登山は避ける。幹事は交代で務め、毎回何らかのテーマ(安全登山、史跡案内等)を示して実施。 月例山行：4月~3月。集会委員会で月例山行企画開催。今年度から本格的に古道調査も進めることから兼ねて開催することもある。現在の会員層を考えると、土日以外の山行も考えていきたい。
	秋田	支部山行等：春1回、秋1回 秋田の里山巡りを行なう予定。参加者は支部会員10名程度。会員外が5名程度。
	山形	夏の集合登山、冬スキー会、春スキー登山：支部会員登山として、8~9月に「それぞれの上高地」、1月に「蔵王樹氷原を滑る会」、4月に「月山春スキー」を実施。毎回参加者は支部会員15名程度。6月にアルパインフォト・ビデオクラブ写真展を1週間の予定で行なう。
茨城	支部山行：月1回以上を目標に、忘年山行は12月に行なう。	
栃木	春山山行・夏山山行・秋山山行・冬山山行：四季に合わせた支部会員向け年間行事として、春(4月)・夏(8月)・秋(10月)・冬(1月)に開催。時期、場所は、その都度計画し決定。支部会員20名程度参加予定。	
群馬	支部山行の充実：幅広い支部会員が参加できる山行を年12回実施。リーダー層の育成にも力点を置きたい。 登山入門講座：初心会員向けの講座だが、将来的には一般へも広げ公益事業化も図りたい。	
埼玉	定例山行及び「四季の山」等：定例山行(1月)及び四季の山(随時)は、コロナ禍を考慮した日帰り及び宿泊山行を計画。会員の希望する山歩き(例：百名山・標高百山等)に必要な登山技術(岩トシ、雪山歩き等)の習得サポート体制の構築。	

事業名	支部名 委員会名	事業内容
IV 会員向け事業 <山行、安全講習 など>②	千葉	<p>定例山行の実施ほか、4~5回/月程度の定例山行を会員・会友向け行事として実施。リーダー養成として個人山行の実施、各種講習会参加を奨励する。最新の登山用品の使い方・選び方の説明会を会員向けに開催する。</p> <p>定例山行・平日山行：会員の多様な山行ニーズに応えるため、定例山行と平日山行を実施。</p> <p>①定例山行/毎月1~2回、全国の山を対象にパラエティに富んだ山行を計画。毎回12名ほど参加。</p> <p>②平日山行/毎月1回、体力に応じた気軽に楽しめる山行を計画。毎回8名ほど参加。</p> <p>安全登山講習会：会員の安全登山に寄与する講習会を年6回実施。</p> <p>①安全登山啓発講習会（計画書の作成・提出方法と事故発生時の現地対応方法等の机上講習）6月・3月</p> <p>②登山技術講習会（登山中の安全確保や緊急時のロープ使用法の講習会）7月。</p> <p>③山のセルフレスキュー講習会（登山中のケガや病気のための知識修得）2月。</p> <p>④安全登山講習会（遭難事故発生時の対策本部対応および救助活動シミュレーション研修）9月・12月。</p> <p>第2期中級登山教室（補講山行）：昨年度コロナのため中級登山教室ができなかったが補講山行として山行を実施。5月蝶ヶ岳（デント泊）、8月南八ヶ岳縦走（小屋泊）、10月朝日岳（デント泊）3月鳳凰三山（小屋泊）。</p> <p>若手支部員のスキルアッププロジェクト：ヒマラヤ未踏峰への挑戦を視野に入れた各種トレッキングや山行を実施しスキル向上を図る。（国内冬季登山、人口壁クライミング、沢登り etc）</p> <p>赤倉高原を中心とした山岳活動：県外の山行を実施すべく、赤倉高原（赤倉アーズイン）を中心に春、夏、秋、冬の各シーズンにてイベント山行を実施する。参加者は、各20名程度を計画。</p>
	越後	<p>山行行事・調査等：7月の榎海新道山行や10月の大朝日岳などを含め数回の山行を予定。スノートレッキング同好会が4月の日向倉山、12~3月まで月例山行を予定、フォト・スケッチ同好会も2回の山行を予定。</p>
	富山	<p>例会山行は年9回、支部会員並びに家族、友人にも参加を募って実施。参加者10名程度。</p>
	福井	<p>四季の支部山行：山行委員が年度始めに月数回、支部山行予定を協議し実行している。</p>
	山梨	<p>会員山行（会員対象）の充実：山行委員会を中心に安全登山に配慮しつつ充実した山行7回を計画・実施。</p>
	静岡	<p>支部会員の山行：休日の会員山行を4月、5月、11月の休日に実施。平日の会員山行を9月、10月、翌年2月に実施。合宿山行を7月、9月、11月、翌年2月に実施。</p>
	信濃	<p>支部山行の実施：高齢化する会員の実態と実力に合わせた山行を計画実施。安全意識と山岳保険の加入促進を勧めリスク管理意識を高める活動も行う。海外山行については、新型コロナウイルス感染症状況を考慮し、安全な海外山行可能性を継続調査する。</p>
	岐阜	<p>新入会員対象の雪上訓練・救助訓練を年3回程度実施予定。技術指導委員会主催で5~20人の規模。</p>
		<p>各種研修会の参加：雪山研修・地図ナビ研修・リーダー研修・岩山を安全に通過する研修など、技術レベルアップのための研修会。延20名参加予定。</p>
	関西	<p>山行：月例会、ゆるやか山行、六甲山を歩く、岩場トレッキング、夏山合宿、雪稜シリーズ、スキー山行、関西のアルプス踏査、沢登り等を実施。支部90周年事業を含め、将来ヒマラヤ登山を目指す人材育成として「ヒマラヤ登山塾」を開催。</p>
	広島	<p>安全登山講習：技術向上のため講習（クライミング、沢登りなど）を実施。本部や関連団体に参加を促し、参加者による伝達講習を複数回実施。延参加数100名予定。</p>
	四国	<p>支部定例山行：概ね月1回程度、支部定例山行を実施し、登山技術の向上及び会員相互の親睦を図る。</p>
		<p>支部月例山行：年間15回以上実施予定。登山に関する基礎知識や技術習得を図る山岳専科を実施予定（4回）。</p>
	北九州	<p>山岳会内のリーダーを育成し、内部の指導員を養成する指導員研修を実施予定（4回）。</p> <p>ポレポレの会（同好会）で軽登山を12回実施予定。</p>
	東九州	<p>月例登山：毎月1回、参加できる会員が山に登る。計画は年初の総会で決め、リーダーは役員が交代で。</p>

事業名	支部名 委員会名	事業内容
IV 会員向け事業 <山行、安全講習 など>③	東九州	中級登山講習会：登山技術・技能のさらなる向上を目指す人のための講座。安全で楽しく幅の広い山登りには、正しい知識と正確な技術や技能が必要。ベテラン会員が手助けをする。
	熊本	毎夏、北アルプス等への登山を行ない、登山技術の向上と親睦を図る。 里山低山クラブ：体力に自信がない会員も参加可能な里山低山の登山を月1回程度実施。 トレーニング同好会：会員の体力の維持・向上を図るため計画的に実施。
	資料映像	収蔵資料（資料、絵画、映像）の収集・整理・保存・修繕：資料の収集、整理（データベース化）、調査研究を実施。収蔵品のうち未燻蒸品の追加燻蒸を実施。
	山研	山研をベースに、自然観察（火山、森林、河川、地質など）などを実施し会員の山研利用拡大を図る。なお、自然観察について他の委員会に協力をお願いする（開所中）。
	群馬	自然観察会の実施：共益事業として一部公募も行って実施した自然観察山行を、昨年から公益事業として実施。赤城山での自然観察会以外の数回の自然観察会を支部共益事業として実施予定。
	東京多摩	自然観察会：①都立長沼公園および都立平山城址公園の自然観察。11月中旬 対象者数：10名 参加支部員数：15名。 ②東京都野火止用水歴史環境保全地域での見学、観察会を実施。4月。参加支部員 15名。
	神奈川	支部員の自然観察スキルアップ活動：支部会員に対し樹木、草花の他、鳥や地質までを広くカバーした観察活動を行ない、単に山に登るだけでなく自然観察スキル向上を図る。（年3回。春、秋に植物関連。冬に野鳥関連。参加者＝各20名を想定）。また、神奈川県内だけの自然観察だけでなく、長野県等、他県での自然観察会も計画する。
	信濃	支部活性化のため山の自然観察教室を開催（昨年実施出来なかった浅間山周辺計画）。
	京都・滋賀	支部例会：登山・スキー。主に「平日例会山行」「山歩会」「未知の山旅」「歴史と文化の山旅」「スキー例会」「北山探訪」「巨木探訪」「スケッチ山行」「一等三角点山行」など。毎回の参加者は支部会員・支部準会員・支部準会員・会友・友の会会員5-15名程度。
	広島	山楽（さんがく）サロン：経験豊富な会員や外部者を講師として3回開催（野鳥観察、自然観察、安全登山講習）。
IV 会員向け事業<交 流・懇親>①	総務	新入会員オリエンテーション：新入会員が早期に日本山岳会に馴染み、会の活動に参加しやすくなるよう、オリエンテーションを開催し、併せて本部役員等との懇親を図る。
	山行	「晩餐会記念懇親山行」を企画、実施し、広く会員の交流、親睦の場の提供を図る。 支部との連携強化を目的に、支部とのコラボ山行を企画、実施する。
	山研	委員会の体制強化、情報共有、コミュニケーションの充実を旨とし、例会で検討するとともに「山行委員会研修会」を実施する。
	家族登山普及	「徳本峠越えとウエストン祭」に参加し、新人を含む会員相互の親睦を図るとともに、山研を会員に親しみを持たせ利用してもらう機会を設ける（6月）。 各支部と連携し全国の本部としての機能を果たす。支部の家族登山事業とネットワーク作りを行なう。
	図書	昨年から予定していた「山岳図書館巡り」を今年はずいぶん実施させたい。1泊2日の予定で信州と甲州の主要な図書館を回り、担当者と交流を図りながら情報を交換するように企画実施。
	青森	交流山行、晩餐会を開催。県内他山岳会に支部山行の案内状を郵送案内することで交流山行を増やし、相互に活動の活性化を図る事で入会を促す。
	宮城	新規入会者のフォロー目的に、出来るだけ山行に誘い、一緒に登山行動をすることで交流を深めていく。
	茨城	四支部合同懇談会：本年度は群馬支部担当で11月26日（土）～27日（日）で実施。
	栃木	夏山懇親会：年間行事として、夏山登山と合わせて懇親会を実施。支部会員20名程度参加予定。
	栃木	四支部合同懇談会：千葉支部・茨城支部・群馬支部・栃木支部の年間定例行事。11月に群馬支部主管で開催予定。登山と懇親会を実施。40名程度が参加予定。

事業名	支部分会名	事業内容
IV 会員向け事業<交 流・懇親>②	東京多摩	奥多摩BCの利用促進とイベント開催：納涼会と花火鑑賞会（8月13日）。「秋の芋煮会」と奥多摩渓谷散策（10月29日）。初詣山行と奥多摩BCルール開き（1月7日）。 支部会員交流事業の推進：新入会員との交歓散策。奥多摩山開きの日に奥多摩BCで懇親散策と懇親会を開催。20名程度（4月3日）。会員相互の懇親の機会を提供。参加会員40名程度（8月）。「新春の集い」開催。参加会員100名程度（1月）。
	神奈川	全国支部懇談会開催：全国支部懇談会を神奈川支部にて開催（10月8日、9日）。宿泊場所を横浜市栄区とし、山行は三浦アルプス、鎌倉アルプスを予定。
	山梨	第10回中部ブロック交流会への参加。信濃支部担当の中部ブロック交流会に参加し、会員相互の情報交換と親睦を図る。
	越後	越後 YOUTH により、本部 YOUTH Club との交流山山行として、西浦三山縦走や佐渡山行などを予定。
	富山	五支部合同懇親山行：富山支部、石川支部、岐阜支部、福井支部、京都・滋賀支部で、持ち回りで懇親山行を実施している。各支部の情報共有や活動状況についての意見交換。
	石川	上高地山岳研究所集会：現地集合として、当日と翌日に周辺での登山を実施。
	静岡	会員相互の親睦：支部管理の山荘「文珠山荘」で、4月、6月、9月、12月、翌年3月の年5回実施。暑気払いの会を8月に実施。新年会を翌年1月に実施。
	信濃	中部ブロック四支部交流会：近隣支部との親交と支部の活性化を図る（直近の2回は中止）。
	東海	支部友会：山に関心を抱き、山を愛し、山登りを始めたいという新人の入会を促し、充実した山ライフ活動を支援することが目標。在籍期限は3年。その後は支部に入会するか退会。現在在籍者は50名。会員対象は月4、5回の日帰り山行及び、夏には一泊山行を実施。支部員がボランティアで指導者として参加。
	山陰	月例会：米子市公会堂（年2-3回は山小屋で実施）。
	広島	支部交流会：中四国3支部（広島、四国、山陰支部）の交流会。
	四国	広島支部及び山陰支部との連携により、3支部交流会を開催し、支部活性化に向けた意見交換を行なう。
	熊本	宮崎支部との交流登山：年1回、隔年交代で担当。11月3日、宮崎ウエストン祭と翌日の記念山行。
	IV 会員向け事業<情 報発信>①	DM
会報編集		毎月20日、会報『山』（1色刷り20ページ、約5000部印刷）を編集、発行する。ページ数は経費削減のため、年間20ページにとどめている。1、4、7、10月号に「YOUTH CLUB 山」（1色刷り、4ページ）を同封し、若手会員向けの情報を発信。
図書		会報『山』や『山岳』の図書紹介欄を委員会が担当し、山岳図書と執筆者を選定し、依頼、入稿している。会報委員会や山岳編集委員会と相互に協力しながら、広く会員に図書の紹介をしていく。
山研		さんけんプログラムの運営（通年）。
支部事業		山の天気ライブ事業：株式会社ヤマテンと共同で開催し、支部主催の「山の天気ライブ授業講座」を支援。年4回の開催を目標とする。

事業名	支部分会 委員会名	事業内容
IV 会員向け事業<情報発信>②	医療	会報『山』に医療コラムを掲載し啓発活動を行なう。 HPで山の医療についての質問を受け付け、一般の方へJAC浸透を図る。
	国際	会員からの海外の山岳などに関する問い合わせの対応を行なう。
	北海道	紀行文や随想、論考などを掲載する支部報『ヌプリ』を年1回発行(4月)。 山行や集会等の日々の支部活動の告知・報告、登山情報等の周知のため『支部通信』を年5~6回発行。
	青森	支部会報を年1回発行する。
	岩手	『岩手支部通信』を年1回発行。
	宮城	支部報『宮城山岳』と「宮城山岳通信」(経費節減のためデジタル版としメール送信)を発行。
	秋田	支部会報『秋田山岳』を年3回発行予定。
	山形	支部報を年1回発行する計画。WEBでも公開する。
	福島	支部機関紙として『支部会報』を年4回発行する。現在36号まで発行。
	茨城	支部報を年1回発行。山行報告や会員相互の情報交換などを掲載し親睦を図る。
	群馬	支部報を年3回(1、5、9月)発行。
	埼玉	支部ホームページおよびFacebookとTwitter等による広報の充実を図る。
	千葉	支部報『彩の山』を年3回発行し、会員相互の情報の共有化を図り、他支部及び入会希望者に情報提供を行なう。 『千葉支部だより』を年4回発行。 見やすく利用しやすいホームページを更新し続ける。「会員専用ページ」で各種情報の提供と共有を図る。
	東京多摩	『会報たま』を年4回(5月、8月、11月、2月)作成。 「メルマガたま通信」の配信(毎週水曜日)。
	神奈川	支部報(pdf版)を年4回程度発行し、イベント参加者を募集したり、山行等の活動報告を共有。 『越後支部報』を発行:年3回。支部活動の取組内容を支部会員や関係者への広報活動を推進し理解を深めてもらう。
	越後	5年週刊支部機関紙『越後山岳14号』の発行:12月末目標に発行。支部関係者及び関係団体へ登山や自然保護の啓発を行なう。 支部ホームページの逐次見直し改定:支部活動の予定や報告と共に登山に関する最新情報を速報する。
	富山	『富山支部会報』を年2回発行(118号、119号)。
	石川	支部報を年2回発行。 「石川支部ホームページ」の管理維持で一般にも広報。
	福井	支部報を年1回発行する。 会報の継続発行。
	山梨	ホームページ・SNSの活用により、山行や活動動向を情報発信することで対外的にPRする。会員相互が情報を共有し意思疎通と連帯感を高め、組織の充実・強化を図る。
信濃	ホームページの支部活動等、伝達手段としてインフォメーションを作成し配布(年4回)。	
岐阜	支部活動の報告・記録として支部報を編集し発行(年2回)。 支部報『岐阜山岳』を年2回発行。	

事業名	支部名 委員会名	事業内容
IV 会員向け事業<情 報発信>③	京都・滋賀	『支部だより』を会員交流と情報提供として年4回発行。
	関西	支部報を年4回発行。
	広島	広島支部報『JAC Hiroshima』を発行(年4回、季刊季刊)。配布方法はメール配信。
	山陰	山岳図書及び資料の閲覧、貸し出しを実施(平成26年4月以降)。
	四国	70周年記念誌(仮称『雲白100山』)の発刊。出雲・伯耆地方の山々を古事記に絡めて調査・執筆中。
	福岡	年間活動記録である支部報『四国山岳』を年1回発行する。
	北九州	支部報を年1回発行(3月)。支部の山岳研究誌として価値あるものを目指している。
	熊本	支部報『北九だより』を4回発行予定(98号~102号)。
	宮崎	支部報を年3回発行し、活動の報告や情報提供・会員の登山報告等を行う。
	宮崎	支部報を年3回発行する。
IV 会員向け事業<運 営>	総務	令和4年度年次晩餐会の開催:時期=令和4年12月3日、場所=京王プラザホテル グッズの製作と販売:当会の収益向上と会員サービスを目的に、グッズ制作や販売方法等を拡充していく。 同好会連絡会の開催:同好会が本来の目的を達成できよう、所管委員会として業務上必要な事項の連絡、意見交換などを行ない活性化を図る。
	支部事業	特別事業補助金募集、審査、理事会報告。
	山研	山研委員会と連携して開所(4月下旬)および閉所(11月初旬)作業を実施する。 善六沢取水口の清掃および水源への見学コースの整備(草刈り)を実施する。
	遭難対策	「登山計画書提出及び事故連絡システム」運用:登山計画書の作成・管理について定めるとともに、本部への登山計画書提出システムを管理・運用する。 また、事故等が発生した際に、本部(事務局、理事、遭難対策委員)が速やかに情報を把握、共有するシステムを運用する。
	福島	支部専門部の活性化:これまでの支部運営は支部長以下支部役員(12名)を中心に担ってきたが、平成30年度に立ち上げた5専門部を活性化させる。 県内は地勢が3方部(会津、中通り、浜通り)に分かれるが、会員数の少ない会津と浜通り方部の活性化を目指す。
	茨城	支部総会=6月、例会=4月、9月、11月、1月
	越後	5月28日に支部総会を行なう。毎年参加者は50人前後。委任状を含め80%以上を確保する。支部総会後に記念講演と、翌日の親睦山行を会津地域で行なう予定(コロナ禍感染状況により中止)。 12月10日に支部年次晩餐会と記念講演会を新潟東映ホテルで開催(コロナ禍感染状況により中止)。
	富山	三役・委員長会議を年3回、役員会を年2回開催する。
	群馬	例会は年2回(8月、12月)、会員向けの山行報告と本部からの情報の報告。参加者20名程度。
	埼玉	例会と総会:例会は隔月(奇数月)開催。例会時にショートスピーチを実施。通常総会は5月。 総会等:4月8日に支部総会を開催、活動計画及び予算を審議し、当該年度の活動内容の周知を図る。
IV 会員向け事業<120 周年記念事業>	グレート・ヒマラヤ・トラバース:日本山岳会や登山界がこれまでに実践したヒマラヤ高峰登山の足跡を辿りながら、ヒマラヤの踏査を通じて、自然環境の変動や生活環境の変化を検証し、新たなヒマラヤ登山の方法や楽しみ方を模索し、今後のヒマラヤ登山やトレッキングへの興味を高める。 2022年プレモンスーン期は、「日本山岳会東ネパール踏査隊2022(East Nepal Travers of The Japanese Alpine Club2022)」が、ネパール・チベットの国境上のTipta La(青木文教入蔵の峠)、及びルンバサンバマカルエーアを踏査する予定。	
VII 会員増加への取り 組み①	会員増加への委員会の取り組み:各プロジェクトが主催する事業へ、会員外の人達を誘致すると共に、ホームページなどを通じて「事業内容」や日本山岳会への関心を高める策を講じる。	

事業名	支部名 委員会名	事業内容
VII 会員増加への取 組み②	総務	会員増加への委員会の取り組み：「入会検討者への説明会の開催」。ホームページ等で会員募集。説明会を開催し入会促進を図る。(ただしコロナ下であるため、当分Zoomで開催) 「新入会員のためのフォロー」。支部への情報提供など。 「入会促進のための取り組みを行なう」。入会案内書、入会ビデオなどの作成・修正・入会希望者の管理など。
	北海道	令和4年4月会員見込数160名(準会員含む)、年間新入会員見込数7名。SNS等を活用し北海道の登山情報、支部の山行や事業活動を発信。本部や各支部の活動、イベント情報、特典なども盛り込んで日本山岳会のメルマガもアピールし、幅広い会員獲得に取り組み。支部会友から会員への勧誘、支部事業への一般参加者の勧誘も積極的に行なう。
	青森	令和4年4月会員見込数39名、年間新入会員見込数4名。SNSによる情報発信で、登山を始めたいと思っている人の興味を深め、一緒に山行する機会を作ること、会員勧誘のきっかけを図る。
	岩手	令和4年4月会員見込数62名、年間新入会員見込数2名。月例山行や公開講座等への参加者を勧誘し、毎年新会員の加入を得ている(支部長が岩手放送ラジオの毎週の定期番組「いわての山トレッキングガイド」を持っており、ローカル誌に里山トレッキングの紹介記事を毎月連載してPRしている効果も大である)。
	宮城	令和4年4月会員見込数1名、年間新入会員見込数5名(目標)。若返り対策として、1月定例山行で会員の人脉を活用して参加者を人数限定で募る。特定の団体に絞って継続的に勧誘を行なう。SNSの活用で活動をこまめに発信していく。
	秋田	令和4年4月会員見込数49名、年間新入会員見込数1名。太平山山開き市民登山の参加者に入会を勧める。支部山行に参加の人にも入会を勧める。個人山行時にも声を掛けるようになっている。年会費は2000円。
	山形	令和4年4月会員見込数44名、年間新入会員見込数2名。県内の山小屋に、入会案内と申込書を配布し、一般登山者にアピール。写真展の鑑賞者にJACの活動を紹介し加入を勧誘。
	福島	令和4年4月会員見込数57名、年間新入会員見込数3名。登山講習会等の実施と以下の方策で名の増加を計画。登山講習会、山の日親子登山等の参加者に積極的に勧めるほか、「一本釣り」の拡大を図る。支部会友に対し、会員になることを積極的に勧める。
	茨城	令和4年4月会員見込数23名、年間新入会員見込数5名。登山講習会の実施や支部活動等の方策により増加を推進する。支部長、支部役員、支部会員を中心に勧誘活動を積極的に進める。
	栃木	令和4年4月会員見込数46名、年間新入会員見込数2名。各行事開催時に活動を紹介します。支部HPに活動紹介や行事の案内を掲載し、行事参加と入会の勧誘を行なう。
	群馬	令和4年4月会員見込数65名、年間新入会員見込数7名。毎年5人前後の新入会員を迎えている。会員の人脉による呼びかけの成果だが、インターネットからの入会も増えている。今後も各種イベントでのPR、山行への参加呼びかけ、インターネット・支部報の活用等を通して獲得の機会を増やしていきたい。
	埼玉	令和4年4月会員見込数150名、年間新入会員見込数10名。第4期埼玉やま塾の修了生を対象に、入会案内書の配布と説明を実施。各委員会が主催、開催する行事で活動を紹介します。支部HPに活動紹介や入会の機会をつなげる。
	千葉	令和4年4月会員見込数95名、年間新入会員見込数5名。魅力ある山岳会の基盤づくりとして山行数の増加、海外山行の定例化、同好会活動(自然学、ウォーキング、スケッチアート)の活発化、山岳関係団体との交流による人脉拡大、スキルアップにより活性化を図る。外部にはホームページ・支部報の充実、SNSの活用、公益事業への参加者増で支部の魅力を広げ発信。会友の会員化を積極的に勧めたい。
	東京多摩	令和3年12月会員数293名、年間新入会員見込数10名。初級登山教室修了生の入会を積極的に勧誘。機会を選んで登山愛好家に会報を配り、日本山岳会や支部の活動を広報。講演会、自然観察会等の参加者に入会パンフレットを配布。ホームページやSNSを利用した情報発信を行なう。
	神奈川	令和4年4月会員見込数141名、年間新入会員見込数4名。支部会友からの紹介を促すとともに、一般公募で実施する山行や講演等の公益事業への参加者に対し勧誘を行なう。

事業名	支部名 委員会名	事業内容
VII 会員増加への取り組み③	越後	令和4年4月会員見込数168名、年間新入会員見込数10名。公募登山や「山の天気ライブ授業」などの参加者に対し、会員・準会員への勧誘を積極的に行なう。山行委員会や同好会の企画行事への支部会員との同行者に積極的に入会勧誘を行なう。越後 YOUTH 活動や支部自然保護活動等への参加者にも継続的に入会勧誘する。ホームページからの問い合わせから入会できるような仕組みを検討する。
	富山	令和4年4月会員見込数61名、年間新入会員見込数1名。例会山行や山岳講演会、山の日記念登山等に会員以外の参加を呼びかけ、適時入会を勧めめる。知人や山岳愛好者に広く理解を深める活動を行ない勧誘する。立山をベースとす山岳関係者にも入会を勧めめる。
	石川	令和4年4月会員見込数36名、年間新入会員見込数2名。毎月1度の集会(登山報告や写真を映写)で本会を説明する。会友から会員への入会を推奨する。新入会員への入会金助成金制度を開始。コロナ禍のため活動低迷ゆえ令和3年度会費は減額。
	福井	令和4年4月会員見込数49名、年間新入会員見込数2名。会員への勧誘活動の依頼やイベントでの勧誘を行なう。
	山梨	令和4年4月会員見込数70名、年間新入会員見込数5名。やまなし登山基礎講座受講生・修了生を勧誘、入会説明会を開催する。ホームページ・SNS、会報の適時適切な活用により活動を広報し勧誘する。
	信濃	令和4年4月会員見込数120名、年間新入会員見込数4名。支部通信や支部行事、会議等を通じ、会員に日本山岳会や支部の活動状況を周知し新会員勧誘の機会を増やす。松本山岳フォーラムの「山ゼミ」とジョイントし、支部の広報と会員勧誘を行なう。
	岐阜	令和4年4月会員見込数86名、年間新入会員見込数5名。パンフレットなどを作成し山行等の行事の際に勧誘。支部への寄付金を入会金の補助に。60歳未満の入会金を3000円に減免。百名山など魅力のある山行を企画し、若手や新規に登山を始める人達の興味を集める。
	静岡	令和4年4月会員見込数136名(準会員含む)、年間新入会員見込数5名。ハイキングセミナー実施時に勧誘。友人・知人等にも呼び掛けをする。
	東海	令和4年4月会員見込数350名、年間新入会員見込数20名。
	京都・滋賀	令和4年4月会員見込数137名、年間新入会員見込数5名。支部友の会に入会、登山教室などで活動した人で、一定程度の力量が認められる人に加えて入会を勧めめる。登山講習会と山岳緑化事業の参加者も勧誘。京都・滋賀の学生登山団体などへの支援を通じて日本山岳会への個人入会や団体入会を勧めめる。4月に支部総会を開催。支部会費2000円、支部会友は2500円。
	関西	令和4年4月会員見込数250名、年間新入会員見込数10名。会友から準会員への勧誘を図る。登山教室受講者への入会働きかけを行なう。会員数推移、年齢別会員数分布を全委員で確認・共有し会員獲得意識を高める。支部会費3000円、会友会費は5000円を継続して徴収。
	山陰	令和4年4月会員見込数37名(準会員含む)、年間新入会員見込数1~2名。定期山行等で山の魅力を発信しつつ、各会員が勧誘に尽力する。
	広島	会員見込数147名、新入会員見込数5名。登山振興委員会による対外活動強化で新入準会員の獲得増を図る。青年会員のための会費減免規程を継続。準会員の活動や講習等で正会員への移行を促進。支部ホームページの見直しと充実による対外アピール。
	四国	令和4年4月会員見込数80名(準会員含む)、年間新入会員見込数3名。山の日関連事業など、あらゆる機会を活用し入会勧誘を行なう。
	福岡	会員見込数60名、新入会員見込数1名。支部総会にあわせて記念講演などを実施。支部山行のほか自然観察会や忘年登山など年3~4回実施。
	北九州	会員見込数64名、新入会員見込数5名。指導員研修の受講生は研修を終了すると会員になる規程なので受講してもらったことで会員を増やす。登山に関する基礎知識や技術習得を図る「山岳専科」の実施予定(4回)。支部年会費は会員から2000円、支部友からは5000円を徴収。
	熊本	令和4年4月会員見込数36名、年間新入会員見込数10名。登山教室や研修会、写真展等での募集案内を行なう。他団体主催の事業に積極的に参加しJACのピーアールに努める。会友の募集勧誘、会員への移行を勧めめる。支部総会(4月)、夏季総会・ビールパーティー(8月)、新年晩餐会(1月)。支部会費3000円、夫婦会員は1名免除。80歳になった会員に「傘寿」のお祝いを実施。
	東九州	令和4年4月会員見込数80名(準会員含む)、年間新入会員見込数3名。登山入門教室や青少年体験登山大会等の事業を勧誘につなげる。会友から会員への加入や、準会員の加入促進にも力を入れていきたい。
	宮崎	登山技術研修会：高千穂町役場と共催。11月3日、約170名が参加予定。 定例山行：年間12山を目標に毎月実施。延べ200名参加予定。 定例登山研究会、定例山行で登山技術・ロープワーク・遭難防止対策等の実践的研修を行なう。
	宮崎	令和4年4月会員見込数45名、年間新入会員見込数3名。一般公募による交流登山及び地域活性化事業への参加者に対して会員・準会員への勧誘を行なう。

# 令和4年度予算概要

## 1. 令和4年度の予算編成方針

令和2年度及び令和3年度はまん延した新型コロナウイルス対策のため、4度の緊急事態宣言が発出され、また主要都府県ではまん延防止等重点措置が継続された状態であった。その中で長期間に亘って国民生活は近年例を見ない制約を受けることとなった。日本山岳会における諸活動も、いわゆる「自粛要請」に従い中止や延期あるいは規模縮小といった対応を取らざるを得ず、令和2年度、令和3年度における事業遂行は当初の想定をはるかに下回る結果となっている。また、収支の悪化はここ数年継続し改善の努力が続けられているが、会員の高齢化による退会者の増加等の要因が収益改善の妨げとなっている。

このような状況を踏まえ令和4年度予算は「登山活動の再開」と「支部活性化」及び「若年層会員の獲得と育成」を方針とし、事業計画が円滑に推進できる体制を確立すべく策定した。

収益は会員数の増加策がさほど効果を現していないことから会費収入を現実ベースに引下げ、減少させることとした。寄附金収入について昨今の経済情勢は悪化しているが、他に収入源がないことから寄付勧誘に総員で尽力することを前提に増額している。本会への寄附は社会貢献度が高いことをアピールし、税額控除団体としてのメリットを訴求することで、120周年記念事業だけにとどまらない広範な寄附・募金活動を継続して展開する必要性が高まっている。

一方、費用については、令和4年度中の事業活動がコロナ禍による制約が生じる可能性もあるが、速やかな再開を目指して通常運転としての予算計上を心掛けた。また、重点事業への配分も特に心を配らねばならなかった。なお、支部予算については、令和2年度、令和3年度の予算の未消化分の繰越利用も認めており、支部事業の早急な復活・活性化を支援する。120周年記念事業は令和2、3年度の持ち越し分を併せて実現できるよう手当した。

その結果、令和4年度予算は経常収益111,125千円、経常費用も111,125千円、当期経常増減額及び当期一般正味財産増減額は0円を目標とした均衡予算を策定した。

## 2. 経常収益

受取入会金2,400千円は令和2年度実績及び令和3年度1月までの実数に基づく推計で120名の増加を見込んだ。受取会費は、ここ数年継続している会員数減少傾向の歯止めをかけるべく講じた施策が功を奏しない現状を鑑み、実績をもとにした現実的な数字として46,800千円を想定した。受取寄附金等は経済情勢の厳しい中、非常に困難であるが、他に大きな収入源がない現状では均衡予算とするために31,970千円の予算とした。令和4年度は120周年記念事業開始3年目であり必要な資金は前年にもまして増えているので、募金委員会の設置等組織的な宣伝活動を展開し寄付金の獲得に努めなければならない。そのために改革事業推進委員会は「入会者増加」と「寄附増加」を確実に実現するための施策を今年度中に策定し、実施に移さなければならない。このほか、事業収益を12,520千円、参加者負担金等の雑収益を13,866千円見込んでいる。これらにより経常収益は前年度より4,099千円増加の111,025千円となる。

## 3. 経常費用

### (1) 事業費

主な事業費として、出版事業費（「山岳」及び「山」）は横這いの12,260千円、支部事業費は微減の17,227千円としている。支部事業は地域によって制約の程度が異なるが、当年度中の早急な復活を期待している。山岳研究事業費は、当年度の上高地山岳研究所の施設利用が三密回避から制限されるため利用見込みを低く抑えているが、費用は固定費が主となり、前年度の修繕費等の支出を無くし7,538千円としている。120周年記念事業は、令和3年度も予定していた事業

の大半が次年度以降へ延期となり、下記の5プロジェクトの実施を決定した（本部助成額5,690千円）。

このほか、その他事業費には晩餐会費用と年3回の支部連絡会議費用等を見込み13,800千円を計上した。この結果、事業費は昨年度より5,190千円増加し106,725千円となる。

	ヒマラヤキャンプ	エベレスト登頂 50周年記念 フォーラム	山岳古道調査	グレートヒマラ ヤ・トラバース	日本・エクアドル 外交関係樹立登山	合計
(経常収益)						
寄付金・助成金	2,000			3,000		5,000
参加者負担均等	900			4,007	2,300	7,207
計	2,900			7,007	2,300	12,207
(経常費用)						
活動費用	3,900	190	1,000	9,007	3,800	17,897
差引本部助成金	1,000	190	1,000	2,000	1,000	5,690

## (2) 事業管理費と管理費

事業管理費として19,325千円、管理費として4,400千円を見込んでいる。事業費の一部である事業管理費は3つの公益事業と共益事業に配分した職員の給与手当と福利厚生費、支払手数料等である。管理費は主に本部事務所の管理に係る費用である。いずれも経費の節減に努め費用の圧縮を図ることとする。

事業費と管理費を合わせた経常費用は前年度に比べ5,090千円増加の111,025千円となる。

以上の結果、経常損益（当期経常増減額）及び当期一般正味財産増減額は0円となる。費用の増加は抑えがたく、寄付金の獲得が奏功しない場合には赤字決算とならざるを得ない。

## 4. 資金調達及び設備投資の見込み

令和4年度における資金調達及び多額の設備投資の見込みはない。

以上

## 令和4年度収支予算案（対前年比較）

令和4年4月1日から令和5年3月31日まで

（単位：千円）

科 目	令和4年度 予算	令和3年度 予算	増減
<b>I 一般正味財産増減の部</b>			
<b>1. 経常増減の部</b>			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	2	2	0
特定資産運用益	7	7	0
受取入会金	2,400	2,000	400
受取会費収入	46,800	55,200	△ 8,400
受取準会員入会金	400	400	0
受取準会員会費	1,800	1,800	0
事業収益	12,520	11,030	1,490
受取補助金等	1,360	1,228	132
受取寄附金等	31,970	23,624	8,346
雑収益	13,866	11,735	2,131
<b>経常収益計</b>	<b>111,125</b>	<b>107,026</b>	<b>4,099</b>
(2) 経常費用			0
事業費	<b>106,725</b>	<b>101,535</b>	<b>5,190</b>
出版事業費	12,260	12,260	0
図書管理事業費	5,760	5,900	△ 140
調査研究事業費	6,506	2,400	4,106
指導研究事業費	594	610	△ 16
山岳環境保全事業費	520	570	△ 50
支部事業費	17,227	18,372	△ 1,145
高尾の森づくり事業費	2,008	3,860	△ 1,852
ユースクラブ事業費	2,010	2,100	△ 90
海外事業費	200	200	0
海外登山助成金	500	500	0
JAC登山隊助成金	0	0	0
山岳研究事業費	7,538	7,698	△ 160
ミニ水力発電事業費	190	190	0
家族登山普及事業費	390	370	20
120周年記念事業費	17,897	13,800	4,097
その他事業費	13,800	13,380	420
事業管理費	19,325	19,325	0
管理費	4,400	4,400	0
<b>経常費用計</b>	<b>111,125</b>	<b>105,935</b>	<b>5,190</b>
<b>当期経常増減額</b>	<b>0</b>	<b>1,091</b>	<b>△ 1,091</b>
<b>2. 経常外増減の部</b>			
(1) 経常外収益	0	0	0
(2) 経常外費用	0	0	0
<b>当期経常外増減額</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>
<b>当期一般正味財産増減額</b>	<b>0</b>	<b>1,091</b>	<b>△ 1,091</b>

## 令和4年度収支予算書内訳表

令和4年4月1日から令和5年3月31日まで

(単位：千円)

科目	公益事業会計					共益事業	法人会計	合計
	登山振興	調査研究	環境保全	共通事業	小計			
I 一般正味財産増減の部								
1. 経常増減の部								
(1) 経常収益								
基本財産運用益							2	2
特定資産運用益							7	7
受取入会金				1,200	1,200	480	720	2,400
受取会費				23,400	23,400	9,360	14,040	46,800
受取準会員入会金				200	200	80	120	400
受取準会員会費				900	900	360	540	1,800
事業収益	320	1,950		700	2,970	9,540	10	12,520
受取補助金等	570	90	700		1,360			1,360
受取寄付金等	11,494	313	5,784		17,591	14,379		31,970
雑収益	4,879	120	1,155		6,154	6,107	1,605	13,866
経常収益計	17,263	2,473	7,639	26,400	53,775	40,306	17,044	111,125
(2) 経常費用								
事業費	39,226	15,573	5,320	8,700	68,819	37,906	0	106,725
出版事業費	3,530				3,530	8,730		12,260
図書管理事業費		5,760			5,760			5,760
調査研究事業費	3,456	1,050		2,000	6,506			6,506
指導研究事業費	594				594			594
山岳環境保全事業費			520		520			520
支部事業費	7,449	793	1,762		10,004	7,223		17,227
高尾の森づくり事業費			2,008		2,008			2,008
ユースクラブ事業費	2,010				2,010			2,010
海外事業費	200				200			200
海外登山助成金	500				500			500
JAC登山隊助成金								0
山岳研究事業費		7,538			7,538			7,538
ミニ水力発電事業費		190			190			190
家族登山普及事業費	390				390			390
120周年記念事業費	17,897				17,897			17,897
その他事業費						13,800		13,800
事業管理費	3,200	242	1,030	6,700	11,172	8,153		19,325
管理費							4,400	4,400
経常費用計	39,226	15,573	5,320	8,700	68,819	37,906	4,400	111,125
評価損益等調整前増減額	△ 21,963	△ 13,100	2,319	17,700	△ 15,044	2,400	12,644	0
評価損益等計	0	0	0	0	0	0	0	0
当期経常増減額	△ 21,963	△ 13,100	2,319	17,700	△ 15,044	2,400	14,944	0
2. 経常外増減の部								
(1) 経常外収益								
経常外収益計	0	0	0	0	0	0	0	0
(2) 経常外費用								
経常外費用計	0	0	0	0	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△ 21,963	△ 13,100	2,319	17,700	△ 15,044	2,400	14,944	0
一般正味財産期首残高								239,996
一般正味財産期末残高								239,996
II 指定正味財産増減の部								
当期一般正味財産増減額								
一般正味財産期首残高								38,967
一般正味財産期末残高								38,967
III 正味財産期末残高								278,963

